

# 平成28年度 事業報告書



社会福祉法人 北海道ハピニス

## 【目次】

法人総括	2 頁 ～ 10 頁
1. 法人事務局	11 頁 ～ 18 頁
2. 障がい者支援施設グリーンハイム	19 頁 ～ 35 頁
3. 特別養護老人ホーム 和幸園	36 頁 ～ 46 頁
4. 栄養課	47 頁 ～ 49 頁
5. 看護課	50 頁 ～ 51 頁
6. 機能訓練	52 頁 ～ 54 頁
7. 和幸園デイサービスセンター	55 頁 ～ 57 頁
8. 生活介護事業所グリーンハイム	58 頁 ～ 63 頁
9. 日中一時支援事業所グリーンハイム	63 頁
10. 相談支援事業所グリーンハイム	64 頁 ～ 67 頁
11. 北海道ハピニス地域事業部	68 頁
12. 和幸園指定居宅介護支援事業所	68 頁 ～ 73 頁
13. 和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所	73 頁 ～ 76 頁
14. 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森	77 頁 ～ 81 頁
15. 介護予防センター石山・芸術の森	82 頁 ～ 88 頁

## 1. 総括

### (1) 経営・運営環境

介護保険制度創設当初4兆円だった介護市場は急激な高齢化により平成28年には約10兆円に成長した。現在の課題は介護給付費が増大する中で強まっている「財政問題」と年々困難になっている「人材確保」である。平成27年の介護報酬のマイナス改定により特養の赤字施設は3割を超えるという厳しい状況であるが、平成30年は医療と介護の同時改正の年となり、さらに厳しい改定となる見込みである。安倍晋三首相は「未来投資会議」で団塊の世代が75歳を迎える「2025年問題」に間に合うよう予防、健康管理、自立支援に軸足を置いた新しい医療介護システムを本格稼働させていく考えを示した。平成30年の介護報酬改定では、自立支援によって要介護度を改善させた事業所に対してインセンティブ措置を導入するよう求めた。介護保険はこれまで要支援者、要介護者のできないことのお世話が中心であったが、今後は高齢者の潜在能力の引き出しと回復を目指す「自立支援介護」にパラダイムシフトを起こすと提言している。

厚生労働省は2025年までに介護者が37.7万人不足すると見込まれる需要のギャップを埋めるため、「総合的な確保方策」を策定した。これは「参入促進」、「労働環境、処遇の改善」、「資質の向上」の三つを柱とした施策である。多様な人材の参入促進を図ること、キャリアパスを構築するための道をつくり長く働き続けるための定着促進、賃金改善、事業所内保育所の運営支援による出産・育児との両立支援、介護福祉士の資格取得方法の見直しによる資質の向上、医療的ケア、認知症ケアなどの研修の受講支援などが掲げられている。

平成27年4月より3年かけて介護予防訪問介護と介護予防通所介護が自治体の実施する新しい「日常生活支援総合事業」へ移行している。また、社会福祉法の一部を改正する法律が平成28年3月31日に成立し、平成28年4月1日（一部は平成29年4月1日）より施行された。この法改正は、社会福祉法人の在り方を見直すものであり、経営組織のガバナンス強化、情報開示の推進、内部留保の明確化と福祉サービスへの再投下、地域貢献活動の義務化、行政による関与の強化など社会福祉法人が備えるべき公益性、非営利性を強化し、本来の役割を果たすことが強く求められている。

### (2) 経営・運営状況

当法人は平成30年の介護報酬改正による基本報酬のマイナス改定を視野に入れながら、堅調な経営の基盤づくりに力を入れてきた。

法人の運営する各事業所において、毎日稼働率をチェックし、毎月、係長職以上の職員による実績、経営情報の検討会議を開催し、適切な業績管理をすることで好循環経営を目指してきた。

また、配置医師、歯科医、協力病院とのネットワークも強化され、結果として平成28年度は法・制度改正により厳しい情勢であったにも関わらず、10事業のうち8事業について過去最高の実績となり、施設部門、在宅部門ともに安定した経営を継続することができた。

人材確保については、計画的な採用活動を実施したことが功を奏し、9名の新卒者を採用することができた。今後、さらに人材不足が加速することが予想されるが、その対策の1つとして「事業所内保育所」の開設に着手し、平成29年8月にオープンを予定している。

社会福祉法人は、これからも社会福祉の主たる担い手として、自立性や主体性を持った経営を確保し、

創意工夫のもとで多様な福祉サービスを展開することで地域の方々の期待に応えていく必要がある。当法人では、地域において信頼に裏打ちされたブランド力の構築を視野に入れた地域貢献活動「認知症状改善塾」を開催するとともに、特別養護老人ホーム和幸園のみではなく、短期入所生活介護、和幸園デイサービスセンターにおいても「自立支援介護」に力を入れたことで家族、多職種連携が強化され、身体機能や認知症状の改善に繋がった。

また、「日中おむつゼロ」、「経口摂取、常食への移行」「歩行の再獲得」の取り組みの継続により、職員が入居者の潜在的能力を発見する視点を育て、さらに入居者の笑顔に繋がる様々な取り組み(運動会、クラブ活動、外への散歩、図書館ツアー、外食、のど自慢大会等々)に広がっている。入居者の尊厳回復と意欲喚起、ご家族の満足度向上、そして職員の意識向上にも効果をもたらしたばかりか、地域をはじめ全国の施設からの反響、評価も頂き、法人としてもサービスの質を高く評価いただくことができた。

障がい者支援関係では、日中活動の活性化等を通じて、ご利用者サービスの向上へ向けたグループケアの推進に力を注いできた結果、ご利用者の生活意欲の喚起にも繋がり、特にご利用者の外出の機会が大幅に増加した。また、障がいをお持ちの方の支援に要する基本知識、専門知識に係る職場内研修を実施し、職員のスキルアップを図ることができた。さらに、国の重点策の一つとして開始した「相談支援事業」は地域や関係機関からの信頼度の向上とともに相談件数が増加し、地域のニーズに迅速に対応していくことができた。

地域事業関係では、各事業所におけるご利用者サービスへの評価及び各々の情報発信活動、地域との連携を強化してきたこと等により、地域において「北海道ハピネス」の認知度が向上した。また、職員の専門性の向上意欲は大きく、それが、地域住民やご利用者の安心に繋がり、社会福祉法人としてセーフティネットの役割を担うことができている。

平成27年度より、当法人では「5つの視点」で経営目標を挙げ、その推進に努めた。当法人各事業所が5つの共通した視点を持ち、その具現化のために何を為すべきかを検討し、事業計画として掲げ、職員一人ひとりが経営の健全化に対し、正しい認識を持ち、主体的に努力することを目指した。各事業所の管理者、主任、専門職員等が中心となり、真摯にその目標に向かい、現在の事業運営状況や取り組みを検証した上で、それぞれの「強み」を明確にし、必要とされるニーズの発見に努め、「選ばれる事業所」を目指し、職員一丸となって取り組んだ一年であった。

## 2. 法人の5つの視点

### (1) 利用者の視点

- ・職員の知識、技術の向上へ向けた研修の実施、個別ケアの推進、グループケア、ユニットケアの充実等ご利用者の生活快適度を向上させていくよう専門的視点での関わりを深めた。
- ・「自立支援」の視点を持ち関わることにより、ご利用者の潜在能力を引き出すケアを実践し、和幸園では今年度も新規入居者全員が入居当日よりおむつのない生活を実現することができ、「日中おむつゼロ」を維持することができた。
- ・介護員、管理栄養士、歯科医師、看護師、理学療法士等との連携のより、ご利用者の口腔ケア、食事の経口摂取等に取り組んでおり、和幸園では常食率85%～90%を維持し、口から食べる楽しみを継続する支援を実践している。
- ・平成27年度の介護保険制度の改正により費用負担が増加し、利用料の負担が難しくなる方には、南区保護課等との連携により、利用の継続が可能となるよう各種制度活用の支援を行った。

- ・平成27年度より提携医療機関となった定山溪病院、南札幌脳神経外科との連携強化により、ご利用者、ご家族に寄り添った医療の提供を継続することができている。さらに、和幸園ではご家族の希望に即したターミナルケアを多職種協働により実践している。平成28年度は7名の方がターミナルケアを受け、自らの居室でご家族や職員に見守られ、穏やかに最期を迎えた。平成29年3月現在、ターミナルケアを受けている方は3名となっている。
- ・3年目を迎えた厨房業務の委託運営については、「懐石料理」「握り寿司」「そば打ち」「パイキング」等、新たに「食の楽しみ」を重視した行事が増加し、専門業者への委託による良い効果が見えている。
- ・法人内研修を他法人事業所も含めた地域の複数事業所での合同研修として実施するとともに、各事業所においても独自に研修を実施した。職域リーダーのコーチングスキル研修の継続実施により、育成能力の向上を図り、絶対評価の精度も上げるよう取り組んだ。
- ・年2回の避難訓練を実施し、各種災害への危機意識を高めるとともに避難時における知識、技術の向上を図った。

## (2) 財務視点

### ① 収入の安定確保

- ・係長以上の役職者が出席する経営者会議を毎月開催し、稼働率や利用実績の精査をすることで各事業所の役職者が常に経営を意識する土壌となり、稼働率の向上に繋がった。
- ・配置医師との連携により、迅速な入院、退院が可能となったことで空床期間が短縮され稼働率の向上に繋がった。
- ・和幸園の経口維持加算取得率は70%となり、約500万円の増収となった。グリーンハイムのリハビリテーション加算取得率は60%であり、今後も自立支援に向けたリハビリテーションの強化に努めたい。
- ・地域機関との関係強化によるご利用者確保  
各事業所が真摯にご利用者と向き合い、「自立支援」と「尊厳を守る」ケアを推進することで、ご利用者のADL、QOLの向上に繋がり、地域の信頼を得てきた結果がご利用者の増加に繋がっている。さらに各サービス事業所、居宅介護支援事業所との連携や病院関係等への直接的な情報提供の他、地域での介護予防事業の積極的な実施、地域貢献事業を含めた地域活動への参画を進めて関係強化を図った。

### ② 支出の適正化

- ・支出の精査  
長期にわたり物品納入や委託契約等を締結している当法人契約業者に対し、他業者との見積り合わせや入札による業者見直しを行い、徹底したコスト削減を図った。
- ・予算執行状況の明確化  
各事業所、職域責任者との予算ヒアリングを今年度も実施し、実質的な数値を提示することで、コスト管理意識の強化を図るとともに、役職者の責務として計画的な予算執行の推進を図った。
- ・和幸園建設資金の借入金元金返済が、平成27年7月より開始され、償還計画に基づいた返済を順調に進めることができている。

## (3) 人材視点

人材の確保には「求職者に選ばれること」「退職者をださないこと」の両方の活動の継続が必要であり法人・施設独自の持ち味を積極的に発信していくよう努めなければならない。

- ・ホームページを充実させ、資格取得のための支援体制、福利厚生の実施、各事業所の具体的な取り組み内容、職員が楽しく仕事をしている様子を情報発信した。
- ・新任職員の育成のために研修プログラムやプリセプター制度の充実を図り、離職者の減少に努めた。
- ・和幸園職員が介護力向上講習会の助言者として参加し、道内の特養における介護力向上に貢献するとともに、参加職員の資質向上にも繋がった。
- ・介護福祉士資格取得のため、法人内職員が講師となる受験対策勉強会を年12回開催するとともに、介護福祉士養成大学助教授を講師に招き受験直前対策講座を開催し、高い合格率となった。
- ・介護職員処遇改善金の支給の他、決算後に全職員に対し謝礼金「ありがとう」の支給を実施した。また、平成28年度の新たな取り組み「職場定着促進事業」として、セクションごとに交流研修会を開催し法人より職員一人3,000円の助成金を支給した。職場を離れての交流はお互いを知る好機となりチームワークの強化に繋がっている。
- ・ワークライフバランスの取り組みを継続し、育児休暇、介護休暇、有給休暇の時間単位での取得、5日から7日の連続休暇の取得率は向上した。また、年次有給休暇の消化率も向上した。
- ・時間外の上限を基本2時間と定めたことにより、効率的な業務改善、疲労の軽減効果がみられた。
- ・年7回の法人全体研修を実施し、職員の専門性を高めた。
- ・給料計算ソフトの導入が軌道に乗り、事務職員の超過勤務が削減され、職員の心身の負担軽減により業務効率化に繋がった。

#### (4) 地域視点

##### ① 地域貢献事業

- ・地域の高齢者、障がいをお持ちの方々等の外出支援を行う「石山朝市送迎バス」を運行した。利用される方が徐々に増え、地域に喜ばれる活動として評価を受けている。
- ・認知症の方の介護をしているご家族（地域の方）を対象に、認知症によるBPSD（行動・心理障害）を竹内理論の実践を通して消失、改善することで認知症のご本人、ご家族ともに平穏な日常を取り戻していただきたいとの目的で「認知症状改善塾」を昨年より開講している。平成28年度は第2期（4月～9月）と第3期（10月～3月）を開講した。受講者ご家族の認知症状の改善率は、第2期が76.8%（内消失率21.7%）、第3期が91.6%（内消失率37.4%）と大きな改善が見られた。
- ・「介護なんでも相談」（1回/月）を開催し、約9年が経過した。会場を提供していただいているイオン藻岩店様と連携し、地域の方々が買い物の際に気軽に介護相談できるような環境整備に取り組んだ。
- ・平成21年度から実施している職員有志での地域のごみ拾いを年2回実施した。年々、ごみ拾いに参加する職員も増加し、職員個々の地域への貢献意識の高まりも感じられるようになってきた。
- ・近隣幼稚園との交流の継続と小・中・高校生、福祉・医療分野の専門学校生の見学、職業体験、実習を積極的に受け入れ、将来の福祉、医療、介護を担う人材作りに取り組むことができた。

##### ② その他

- ・地域関係機関への広報活動の推進を図った。（広報誌「かけはし」の発行、ホームページの定期的更新）

### (5) ガバナンス視点

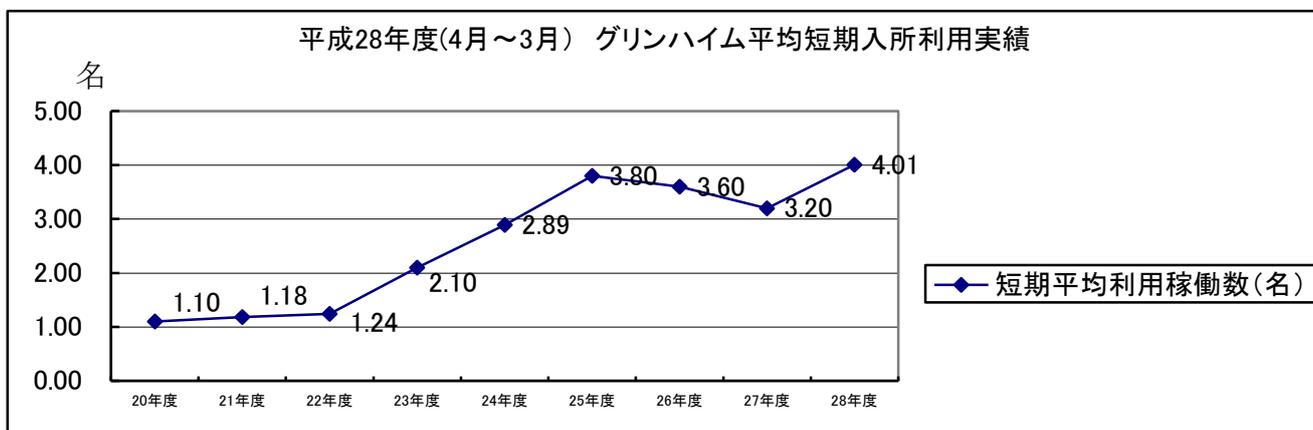
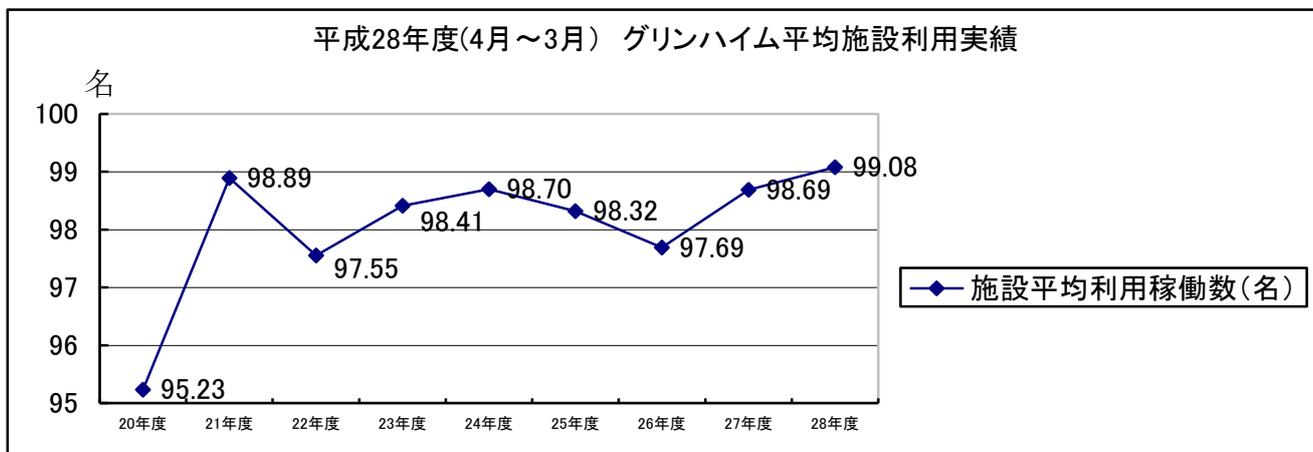
#### ① 法人運営、行政等の監査

- ・平成28年度は新しい執行部体制の中で、年4回の評議員会、理事会を開催し、予算、事業計画、決算、事業報告、定款・規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定及び報告を行った。また、年4回の定期的な監事監査を実施し、会計、サービス内容の両面にわたる経営と運営の適正化に向けた監査を受け、改善に繋げた。
- ・苦情解決第三者委員会、虐待防止第三者委員会を開催し、公正中立の立場での意見を聴取し、苦情の解決、課題の改善を図った。
- ・適正且つ迅速な試算表作成により、的確な経営管理を実践するとともに、毎月顧問会計事務所による監査、助言、指導を受け、より正確な会計管理を実践することができた。
- ・社会保険労務士と顧問契約を締結し、継続的に労務管理に関する助言、指導を受けている。平成28年度については、介護業界を主な活動分野とする社会保険労務士と顧問契約を締結し、介護分野における労務管理に関する助言、指導を受けると共に助成金の活用や申請に関する情報を得ることができた。
- ・情報公開、アカウントビリティ（説明責任）の推進のため、ホームページや広報誌「かけはし」による情報発信を図った。

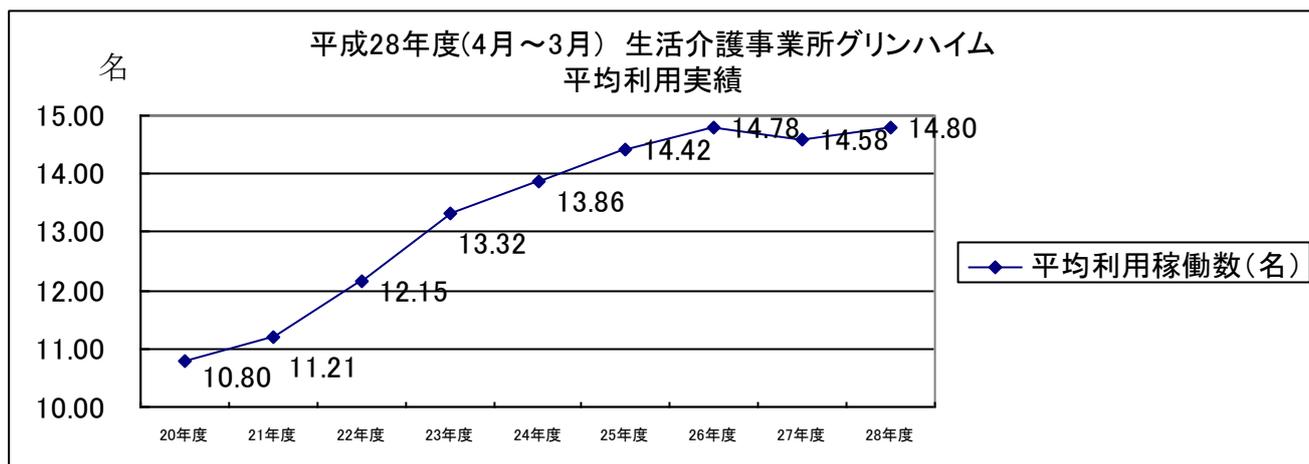
### 3. 各事業所事業実績状況

#### (1) グリンハイム拠点・管理区分

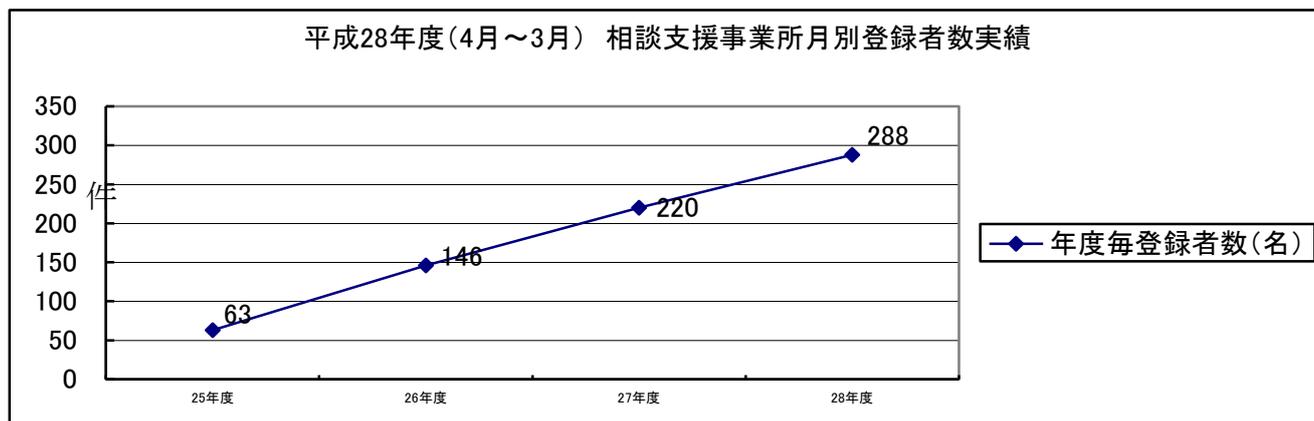
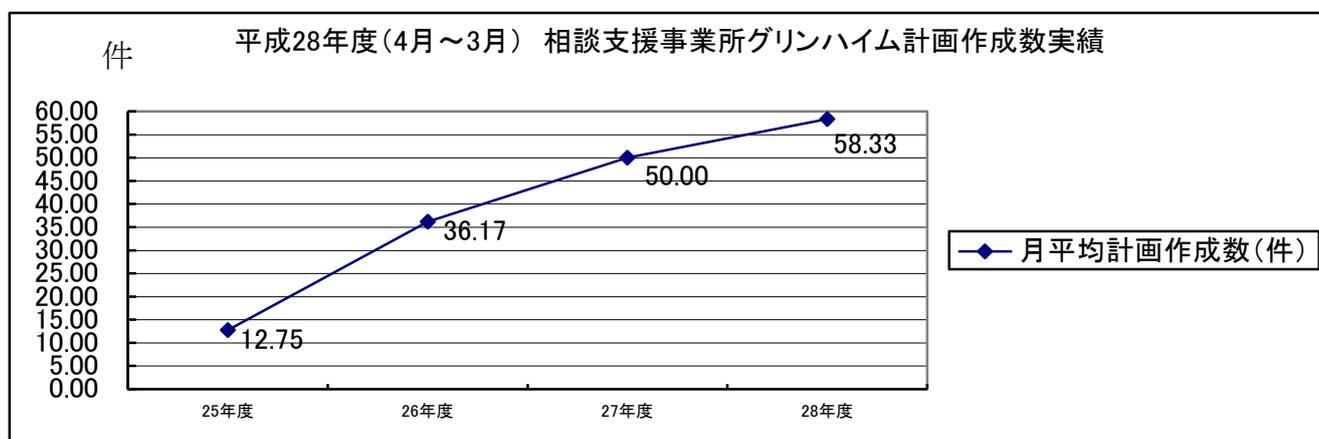
##### 【障がい者支援施設グリンハイム】



【生活介護事業所グリーンハイム】

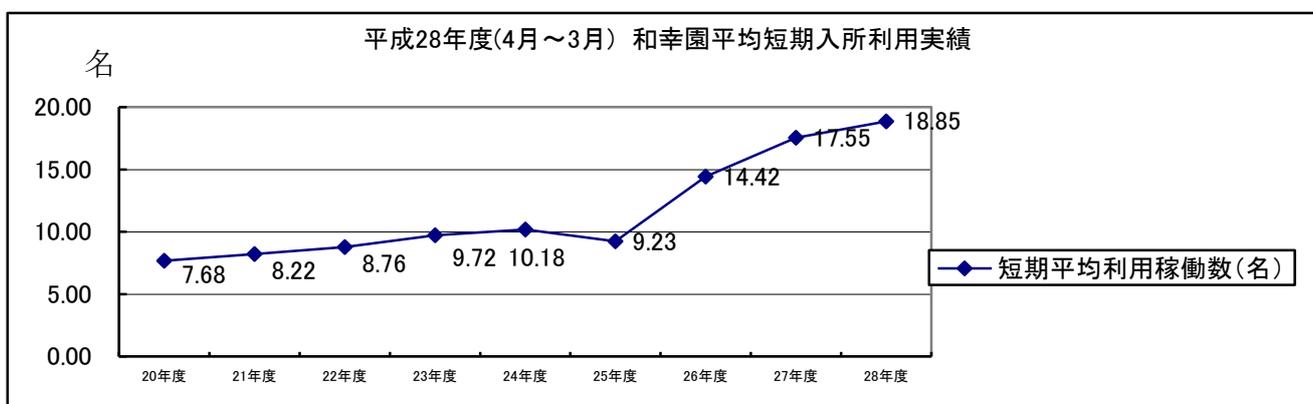
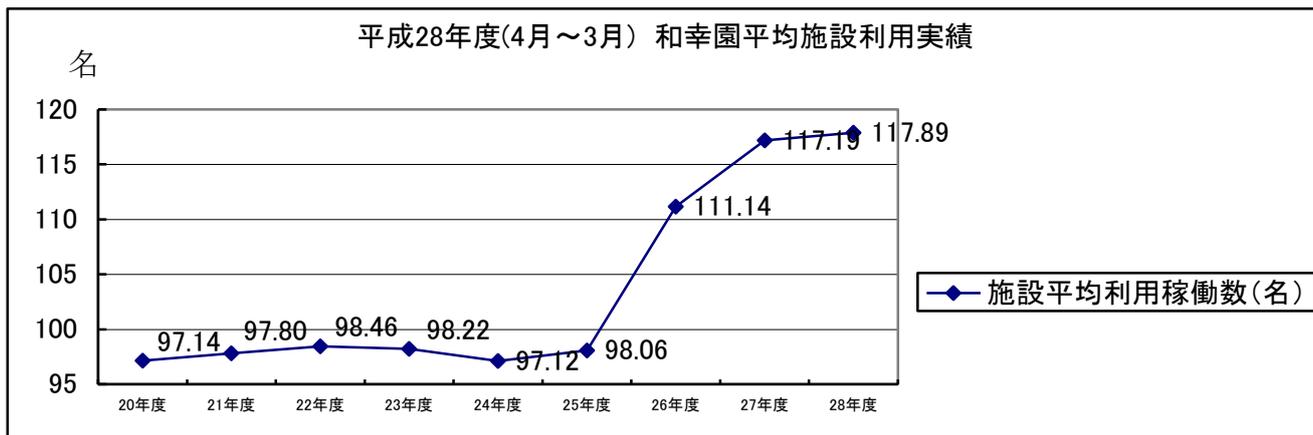


【相談支援事業所グリーンハイム】

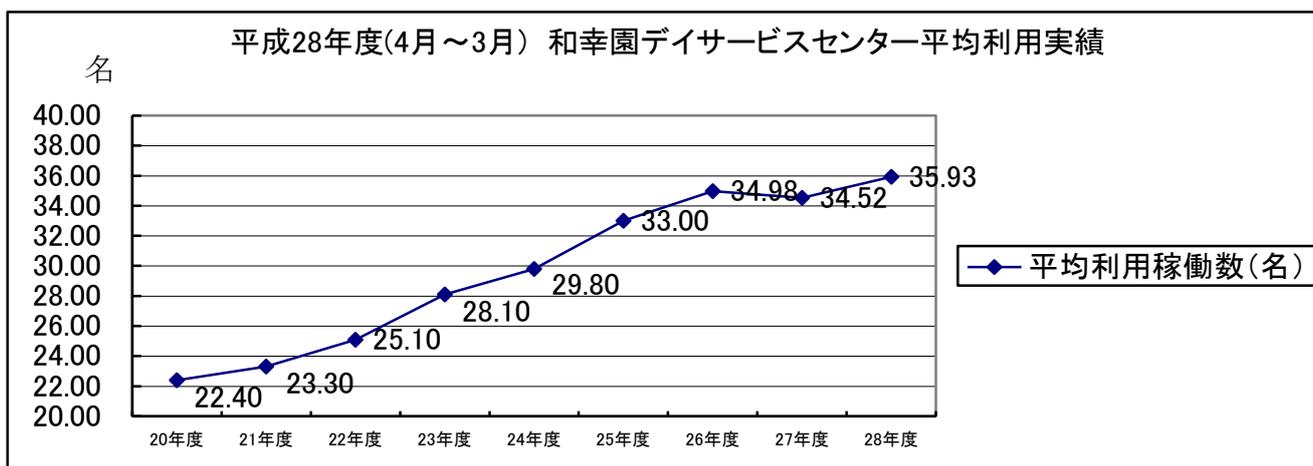


(2) 和幸園拠点・管理区分

【特別養護老人ホーム和幸園】

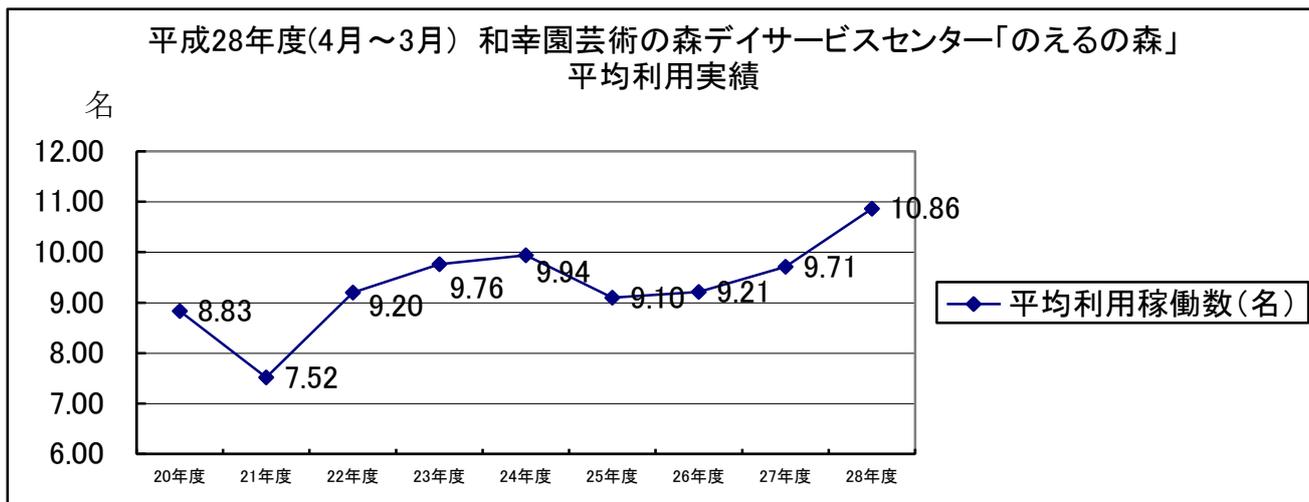


【和幸園デイサービスセンター】

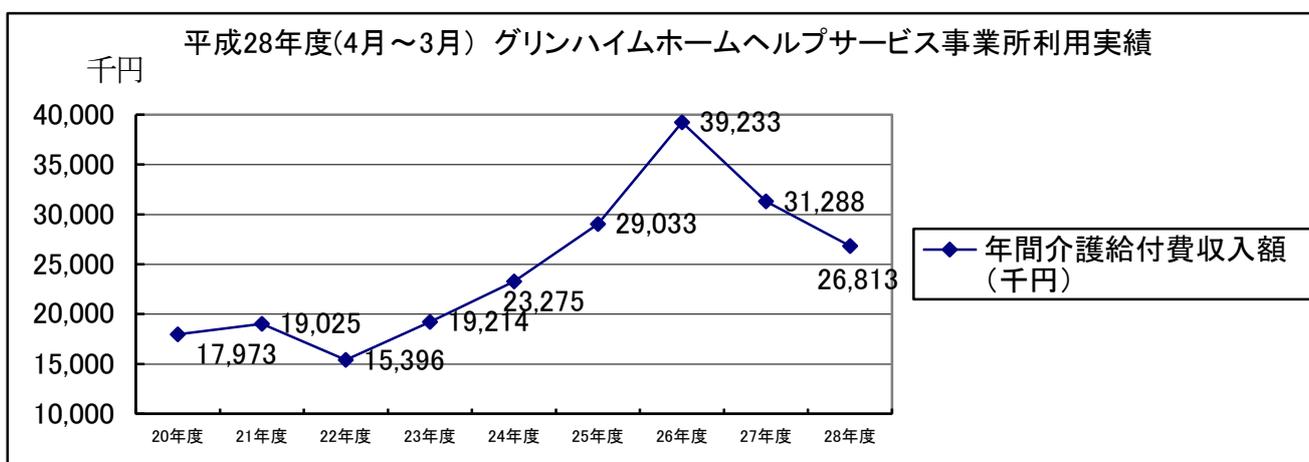
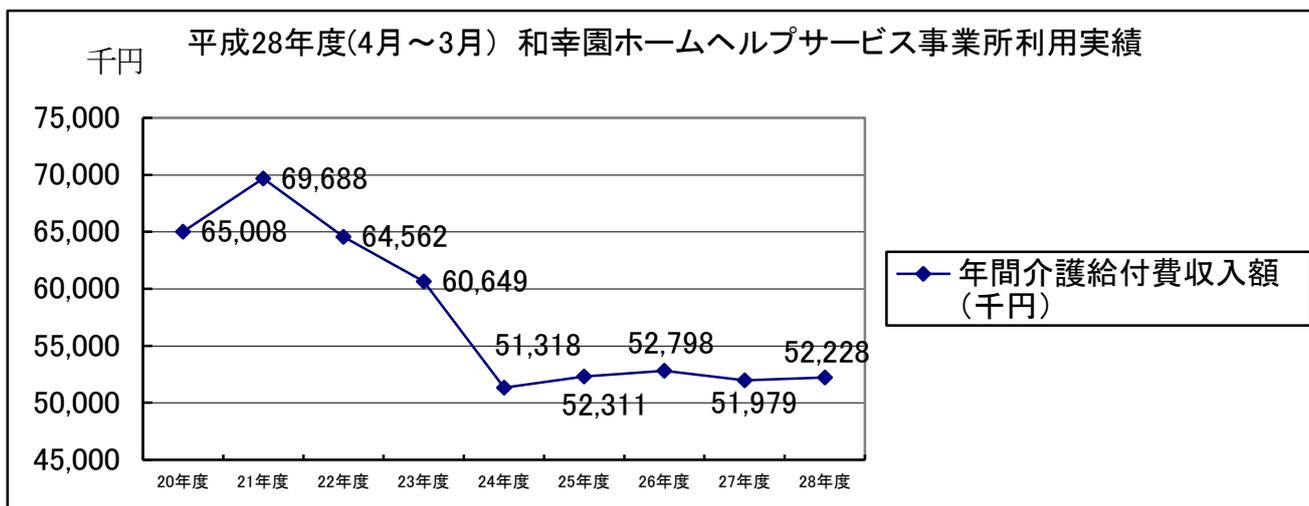


(3) 地域事業部拠点・管理区分

【和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」】



【ホームヘルプサービス事業所】



【和幸園居宅介護支援事業所】

平成28年度(4月～3月) 和幸園居宅介護支援事業所平均要介護登録者実績



平成28年度(4月～3月) 和幸園居宅介護支援事業所平均要支援登録者実績



# 1. 法人事務局

## (1) 法人事務

法人理事会、評議員会の運営業務を始めとする法人事務局については、法人執行部が実践する経営・運営の改善に向けた法人運営施策への支援及び円滑な法人運営のための環境整備を行い、法人の経営・運営状態は良い状態を維持することができている。法人事務経理部門については、リーダーを中心に経理業務を丁寧、正確且つ迅速に進めることに努め、時間外業務を大幅に削減することができた。総務部門については、給与・人事ソフトの本格運用を9月から実施し、給与計算の短時間化や職員の勤務状況の正確な把握が可能となり、業務の効率化に繋がっている。一方でパソコンの入力ミスによる誤った情報処理や主任等の管理作業が増加する等の課題も見え始めており、今後の課題として解決への取組みを実践していく。

事務職員としてのご利用者との交流及びご利用者支援への参画については、平成28年度も継続し、ご利用者行事等への参画を行った。公園清掃はグリーンハイムご利用者と一緒に公園の清掃作業を行い、その後喫茶店での時間を共に過ごすことができた。グリーンハイムご利用者に好評を頂いている事務喫茶は5年目を迎え、平成28年度からは和幸園でも開催することができた。今後もご利用者と交流できる機会として、より内容を充実していきたい。

現在、法人の地域貢献事業の目玉である認知症状改善塾については、参加される塾生の方々へお茶や軽食配膳を行い、地域貢献事業である認知症状改善塾の運営の一端を担うことができた。

## (2) 理事・評議員・監事（定数：理事7名、評議員17名、監事2名）

平成29年3月31日現在

役 職	氏 名	職 業	任 期	当初就任日
理事長・評議員	太田 三夫	弁護士	平成28.12.21～29.6.10	理18.12.21 評14.2.1
常務理事・評議員	大沼 百合子	総合施設長・和幸園施設長	平成28.12.21～29.6.10	理22.5.26 評20.4.1
理事・評議員	青木 護	会社役員	平成28.12.21～29.6.10	昭和59年8月21日
〃	辻 勝三	会社会長	平成28.12.21～29.3.31	昭和59年8月21日
〃	西村 稔	社会福祉法人理事長	平成28.12.21～29.3.31	昭和62年4月1日
〃	桧森 道子	総合施設次長・地域事業部長	平成28.12.21～29.6.10	理26.9.30 評20.10.1
〃	佐藤 史彰	グリーンハイム施設長	平成28.12.21～29.6.10	理27.4.1 評27.4.1
評 議 員	浅香 博文	札幌市身体障害者福祉協会会長	平成28.2.1～29.3.31	平成21年5月1日
〃	天野 憲一	札幌育児園理事長	平成28.2.1～29.3.31	平成14年2月1日
〃	石川 秀也	北海道医療大学教授	平成28.2.1～29.3.31	平成22年2月1日
〃	大磯 英太郎	石山商店街振興組合理事長	平成28.2.1～29.3.31	平成24年10月1日
〃	北山 和子	札幌市赤十字奉仕団石山分団長	平成28.2.1～29.3.31	平成24年10月1日
〃	高橋 稀一	前芸術の森地区町内会連合会会長	平成28.2.1～29.3.31	平成14年2月1日
〃	塚本 昭一	南区老人クラブ連合会会長	平成28.2.1～29.3.31	平成25年6月1日
〃	福土 昭夫	石山地区町内会連合会会長	平成28.2.1～29.3.31	平成14年2月1日
〃	宮本 吉人	前札幌市議会議員	平成28.2.1～29.3.31	平成14年2月1日
〃	平松 朋紀	法人事務局長	平成28.4.1～29.3.31	平成28年4月1日
監 事	土肥 富彦	元道立福祉村施設長	平成28.12.21～29.6.10	平成8年12月21日
〃	石川 由男	税理士	H28.12.21～29.6.10	平成25年10月1日

### (3) 理事会開催状況

- 第1回 (日時) 平成28年5月25日(水) 午後3時30分から グリーンハイム多目的室  
(出席者) 太田三夫、青木 護、辻 勝三、西村 稔、大沼百合子、桧森道子、佐藤史彰  
(理事7名)  
土肥富彦、石川由男(監事2名)  
事務局7名
- (議題) 平成27年度事業報告(案)について  
平成27年度収支決算(案)について  
監事監査(平成27年度全般)結果について
- (報告) 特別養護老人ホーム和幸園に対する訴訟の解決(和解)について  
熊本地震に関わる義援金の協力(支出)について  
地域貢献事業「第2期 認知症状改善塾」の開催について
- (その他) ご利用者、役員懇談会開催案内について  
苦情解決第三者委員会及び虐待防止第三者委員会開催案内について  
ハピネス祭開催案内について
- 第2回 (日時) 平成28年10月1日(土) 午後3時45分から グリーンハイム多目的室  
(出席者) 太田三夫、青木 護、辻 勝三、西村 稔、大沼百合子、桧森道子、佐藤史彰  
(理事7名)  
土肥富彦(監事1名)  
事務局8名
- (議題) 平成28年度収支補正予算(案)について  
就業規則の改正について  
ストレスチェック実施規程の制定について  
事業所内保育所の設置運営について
- (報告) 監事監査結果報告について  
平成28年度上半期(4月～8月)事業実績状況について  
社会福祉法改正への対応について  
平成28年度社会福祉法人及び社会福祉施設指導監査結果及び和幸園ホームヘルプサービス事業所実地指導結果について
- (その他) 北海道老人福祉施設協議会研究大会における優秀賞の受賞について
- 第3回 (日時) 平成28年12月10日(土) 午後4時00分から ホテル札幌ガーデンパレス  
(出席者) 太田三夫、青木 護、西村 稔、大沼百合子、桧森道子、佐藤史彰、辻 勝三(書面)  
(理事7名)  
土肥富彦、石川由男(監事2名)  
事務局8名
- (議題) 任期満了に伴う役員(理事長)の選任について  
社会福祉法の一部改正に伴う定款の改正について  
評議員選任・解任委員会の設置及び運営規程の制定について  
平成29年4月1日就任の評議員候補者の選任について  
平成29年度以降の法人組織体制の再編成について  
平成29年度以降の執行部体制について
- (報告) 監事監査結果報告について  
事業所内保育所開設準備の進捗状況について  
介護職員の賃金(待遇)改善状況について

平成28年度4月～10月事業実績状況について  
法人各職域からのレポート発表  
(その他) 平成30年度介護保険制度報酬改定の見通しについて

第4回 (日時) 平成29年3月25日(土) 午後4時00分から グリンハイム多目的室  
(出席者) 太田三夫、青木 護、西村 稔、大沼百合子、桧森道子、佐藤史彰、辻勝 三(書面)  
(理事8名)  
土肥富彦、石川由男(監事2名)  
事務局8名  
(議題) 事業所内保育所設置に係る施設整備について  
平成28年度第2次補正予算(案)について  
平成29年度法人事業計画(案)について  
平成29年度収支予算(案)について  
給与規程及び就業規則等の改正について  
厨房業務委託契約の更新について  
障がい者施設等防犯対策強化事業補助金の申請について  
南区地域包括支援センター受託法人募集への応募について  
(報告) 監事監査結果報告について  
社会福祉法の一部改正に伴う定款改正の認可について  
評議員選任・解任委員会決議による新評議員の選任について  
法人各職域からのレポート発表  
(その他) 法人運営に係る功労者表彰

#### (4) 評議員会開催状況

第1回 (日時) 平成28年5月25日(水) 午後3時00分から グリンハイム多目的室  
(出席者) 太田三夫、青木 護、辻 勝三、西村 稔、石川秀也、大磯英太郎、北山和子  
高橋稀一、塚本昭一、福土昭夫、宮本吉人、大沼百合子、桧森道子、佐藤史彰  
平松朋紀(評議員15名)  
土肥富彦、石川由男(監事2名)  
事務局6名  
(議題) 平成27年度事業報告(案)について  
平成27年度収支決算(案)について  
監事監査(平成27年度全般)結果について  
(報告) 特別養護老人ホーム和幸園に対する訴訟の解決(和解)について  
熊本地震に関わる義援金の協力(支出)について  
地域貢献事業「第2期 認知症状改善塾」の開催について  
(その他) ご利用者、役員懇談会開催案内について  
苦情解決第三者委員会及び虐待防止第三者委員会開催案内について  
ハピネス祭開催案内について

- 第2回 (日時) 平成28年10月1日(土) 午後3時00分から グリンハイム多目的室  
 (出席者) 太田三夫、青木 護、辻 勝三、西村 稔、浅香博文、石川秀也、大磯英太郎  
 北山和子、高橋稀一、塚本昭一、福士昭夫、大沼百合子、桧森道子、佐藤史彰  
 平松朋紀(評議員15名)  
 土肥富彦(監事1名)  
 事務局7名  
 (議題) 平成28年度収支補正予算(案)について  
 就業規則の改正について  
 ストレスチェック実施規程の制定について  
 事業所内保育所の設置運営について  
 (報告) 監事監査結果報告について  
 平成28年度上半期(4月~8月)事業実績状況について  
 社会福祉法改正への対応について  
 平成28年度社会福祉法人及び社会福祉施設指導監査結果及び和幸園ホームヘルプサー  
 ビス事業所実地指導結果について  
 (その他) 北海道老人福祉施設協議会研究大会における優秀賞の受賞について
- 第3回 (日時) 平成28年12月10日(土) 午後3時00分から ホテル札幌ガーデンパレス  
 (出席者) 太田三夫、青木 護、西村 稔、浅香博文、天野憲一、石川秀也、大磯英太郎  
 北山和子、高橋稀一、福士昭夫、宮本吉人、大沼百合子、桧森道子、佐藤史彰  
 平松朋紀(評議員15名)  
 土肥富彦、石川由男(監事2名)  
 事務局7名  
 (議題) 任期満了に伴う役員(理事、監事)の選任について  
 社会福祉法の一部改正に伴う定款の改正について  
 平成29年度以降の法人組織体制の再編成について  
 平成29年度以降の執行部体制について  
 (報告) 監事監査結果報告について  
 事業所内保育所開設準備の進捗状況について  
 介護職員の賃金(待遇)改善状況について  
 平成28年度4月~10月事業実績状況について  
 法人各職域からのレポート発表  
 (その他) 平成30年度介護保険制度報酬改定の見通しについて
- 第4回 (日時) 平成29年3月25日(土) 午後3時00分 障がい者支援施設グリーンハイム多目的室  
 (出席者) 太田三夫、青木 護、西村 稔、浅香博文、天野憲一、石川秀也、大磯英太郎  
 北山和子、高橋稀一、塚本昭一、福士昭夫、宮本吉人、大沼百合子、桧森道子  
 佐藤史彰、平松朋紀(評議員16名)  
 土肥富彦、石川由男(監事2名)  
 事務局7名  
 (議題) 事業所内保育所設置に係る施設整備について  
 平成28年度第2次補正予算(案)について  
 平成29年度法人事業計画(案)について  
 平成29年度収支予算(案)について  
 役員(理事)の選任について  
 給与規程及び就業規則等の改正について

- 厨房業務委託契約の更新について  
 障がい者施設等防犯対策強化事業補助金の申請について  
 南区地域包括支援センター受託法人募集への応募について  
 (報告) 監事監査結果報告について  
 社会福祉法の一部改正に伴う定款改正の認可について  
 評議員選任・解任委員会決議による新評議員の選任について  
 法人各職域からのレポート発表  
 (その他) 法人運営に係る功労者表彰

(5) 苦情解決第三者委員会開催

(日時) 平成28年 7月10日 (日) 15時30分～

(6) ご利用者・法人役員懇談会開催

(日時) 平成28年 7月10日 (日) 14時00分～

(7) 職員表彰関係

表 彰 内 容	受 賞 内 容
全国老人福祉施設協議会	15年勤続 ホームヘルプ サービス 1名 居宅支援事業所 1名 20年勤続 和幸園 1名
北海道社会福祉協議会長表彰 (北海道社会福祉協議会)	20年勤続 和幸園 1名 グリーンハイム 3名
札幌市社会福祉事業表彰 (札幌市社会福祉協議会)	0名
長期勤続職員表彰 (北海道民間共済会)	5年勤続 グリーンハイム 2名 和幸園 3名 生活介護事業所 2名 10年勤続 グリーンハイム 3名 和幸園 3名 20年勤続 グリーンハイム 3名 40年勤続 居宅支援事業所 1名
全国身体障害者施設協議会	15年勤続 グリーンハイム 2名
永年勤続表彰 (北海道ハピニス)	10年勤続 グリーンハイム 3名 和幸園 2名 和幸園デイ 1名 ホームヘルプ サービス 1名 芸術の森 3名 20年勤続 グリーンハイム 3名 和幸園 2名 ホームヘルプ サービス 1名

(8) 防災訓練実施状況

実施日	実施内容	指示条件
平成 28 年 5 月 18 日 (水)	通報・ご利用者の避難誘導 消火器の取り扱い	グリーンハイムより出火想定訓練(南側へ避難) ①出火想定時間及び場所 夜間想定、午後 11 時 00 分 グリーンハイム本館 3 階北側居室 337 号室 ②他階・和幸園及びデイサービスでは 日中想定訓練(午前 11 時 00 分)
平成 28 年 10 月 21 日 (金)	通報・ご利用者の避難誘導 消火器の取り扱い	和幸園より出火想定訓練 (3・4 丁目側へ避難) ①出火想定時間及び場所 夜間想定、午後 11 時 00 分 和幸園 (3 階) 3 条 1 丁目 9 番地 (居室) ② 他階・グリーンハイム及びデイサービスでは 日中想定訓練 (午前 11 時 00 分)

(9) 業務委託状況

業務内容	委託先
施設厨房業務	北海道フジフードサービス (株)
夜間警備業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
送迎車輛運転業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
清掃業務	(株) シムス
昇降機定期点検業務	SECエレベーター(株) 三菱電機ビルテクノサービス(株)
専用水道水質検査業務	(財)北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
自動ドア保守点検業務	フルテック(株)
非常火災設備保守点検業務	(株) ネットワークイン
冬期除雪業務	(有) 小林重機
デジタル交換機保守	新日本通信工業(株)
税務・会計顧問	税理士法人幌西会計
労務・総務顧問	社会保険労務士事業所 テラス
職員検診	医療法人社団 明日佳 札幌検診センター
ストレスチェック	医療法人社団 五稜会 札幌CBT&EAPセンター

(10) 法人建物・車輛の維持管理

① 建物

実 施 内 容		
年間	電気設備点検 (グリーンハイム・和幸園)	[北海道電気保安協会]
4月	貯水槽清掃 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]
5月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備	[正栄機工]
8月	消防用設備保守点検 (グリーンハイム・和幸園)	[ネットワークイン]
	汚水槽清掃点検 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]
	厨房グリストラップ清掃	[小川技研]
	エコキュート点検整備 (グリーンハイム)	[前川製作所]
12月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備	[正栄機工]
3月	消防用設備保守点検 (グリーンハイム・和幸園)	[ネットワークイン]
	2号ボイラー点検整備	[NTEC サービス]
	汚水槽清掃点検 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]

② 車輛

車輛台数 年度末26台/車検 13台実施 タイヤ取替本数46本

所 属	台数	年間走行距離
和幸園 グリーンハイム職員送迎バス	1台	35,552km
グリーンハイム	4台	47,191km
グリハイムデイサービス (生活介護事業所)	3台	32,761km
和幸園	3台	34,700km
和幸園デイサービスセンター	5台	120,161km
和幸園芸術の森デイサービスセンター	3台	51,095km
支援センター・ホームヘルプサービス	7台	45,569km

(11) ご利用者預り金管理

区 分	預り人数	預り金残高 (平成29.3.31)
グリーンハイム	102名	229,228,720円
和幸園	9名	2,092,819円

## (12) 施設内研修

NO	研 修 名	開催日	参加人数
1	「自立支援介護について」 国際医療福祉大学大学院 教授 竹内 孝仁 氏	4月17日	114名
2	「良好な人間関係を築くコミュニケーション」 北海道総合福祉研究センター 事務局長 池田 ひろみ 氏	7月15日	107名
3	「感染症について」 北海道ハピニス 看護師 協力 サラヤ (手洗の実践)	10月7日	108名
4	「障がい者について」 NPO 法人札幌障害者活動支援センターライフ 理事長 我妻 武 氏 NPO 法人 LIFE INNOVATION 訪問介護事業所つなぐ 理事長 大谷 哲也 氏	11月8日	85名
5	「安全運転講習会」 富士火災海上保険株式会社 リスクコンサルティング部	11月25日	47名
6	「若年性認知症」 グループホーム福寿荘 総合施設長 武田 純子 氏	12月7日	98名
7	「リスクマネジメント」～介護事故事例を通して～ 太田・遠藤法律事務所 弁護士 遠藤 雅文 氏	2月1日	79名
8	「救急救命講習」 札幌市消防局 石山出張所	3月8日 3月10日	117名

## (13) 地域貢献活動

- ① 介護なんでも相談会  
イオン藻岩店様店内特設ブースにて年11回相談会を開催
- ② 認知症状改善塾>  
平成28年4月から平成29年3月までの期間で2期、全12回開催  
地域住民から2期合わせて24名の参加
- ③ 石山朝市送迎バスの運行>  
毎月2回地域住民が石山朝市へ参加するための送迎バスの運行を実施
- ④ 地域福祉活動>  
町内会ゴミ拾い(年2回)  
第1回 平成28年 5月  
第2回 平成28年 10月

## (14) 広報活動 (広報委員会)

平成28年度は広報活動強化の為、人員体制の変更及び委員の改選を行い新体制での委員会運営を開始する。

- ① 広報誌「かけはし」の作成 (年3回発行)  
平成28年6月発行 (38号)、平成28年10月発行 (39号)、平成29年1月発行 (40号)
- ② 平成28年4月より新ホームページ及びフェイスブック開設

## 2. 障がい者支援施設 グリンハイム

### 1. 総括

平成28年度は年間を通して安定した実績を維持することができ、実績目標である入居平均99名に初めて達し、過去最高実績を上げることができた。昨年度に引き続き医療面で南札幌脳神経外科、定山溪病院と良好な関係で連携することができたことは、ご利用者・ご家族の安心に繋がったとともに、今年度の実績にも好影響をもたらしていると考えます。

ショートステイについては、定期ご利用者に安定的にご利用いただくことができたため、入居とともに安定した実績を残すことができた。入院者ベッドを活用した緊急ショートステイ、虐待による緊急一時保護によるショートステイ受け入れを行ったこともあり、実績目標であった平均利用人数3.4名を大きく超える平均利用人数4名の実績を残すことができた。入居とともに過去最高実績を上げることができ、ショートステイ事業としては、ご利用者の在宅生活維持のための役割、緊急保護の役割として機能できたと考える。

職員の状況については、年度当初よりしばらくは不足傾向が継続してしまい、時間外労働の増加や行事の中止などの弊害が出てしまった。しかしながら、派遣職員の活用、ホームページによる広報、就職相談会による採用を進めることで、年度後半には不足状況の改善を図ることができた。定着、育成の視点においても育成方法の見直し、各グループ間での統一を行うことで、一定の効果が見られ、育成体制や方法が要因となる退職はほとんど発生しなくなった。平成29年度は新卒採用を3名予定しており、育成指導を行いながら職場定着を目指していきたい。また、職員の世代交代に備え、次のリーダー候補を定め、計画的な育成に力を入れていきたい。

ご利用者サービスにおいては、職員の充足とともに安定的に各グループにおける個別ケアの取り組みや日中活動、グループ外出などグループ毎の独自の取り組みが進み、ご利用者サービスの向上、個別ケアの充実につながっている。

### 2. 本年度の重点目標

#### 【相談係】

#### ① 利用実績の安定・向上を目指す

利用実績としては、初めて平均利用人数99名に達したが、4月に介護事故が発生し、約6ヶ月入院されたご利用者がいた。通常の入院と異なり、施設側に過失があったため、入院3ヶ月経過後も新規入居者を受け入れることができず入居としては空床状態での対応となった。今年度の結果分析としては、前年度と比較して、入退所者数、退所から入居までの日数に大きな差異は無く、ご利用者のインフルエンザ罹患、流行を防止することができた。入院者数は前年度より述べ67日分少ない状況であった。このことから、来年度は、今までと入退所者数や退所から入居までの日数に大きな違いが無いと仮定すると、利用実績の維持・向上に繋げるためには、入院者の管理が重要になると推測される。各医療機関の医療相談員と連携を図り、現状の把握や退院の目処などの情報収集をこまめに行うことで入院期間短縮への取り組みを行ってきたい。

#### ② 法人統括事業推進課、法人内の障がいサービス事業所と連携を図りながら、ご利用者が利用しやすい包括的なサービス提供を行い、ご利用者確保に努める

定期的に戦略会議を開催しながら、実績確認や、ご利用者確保に向けた取り組みを行うことができた。待機者状況は、男女ともに新たな入居申込み者は少なかったため、ご本人の意向等で保留状態の待機者が増加したこと、新規入居で待機者が減少したことから、実施的な待機者数は減少している。今年度は対外

的な広報活動を実施することができなかつたため、平成29年度は安定的な施設運営のための喫緊の課題として計画的に広報活動が展開できるよう準備を進めていきたい。

また、法人内の障がいサービス事業所とは密に連携しながら、ご利用者支援に繋げることができた。平成29年度も内部連携を強固なものにしながら、ご利用者確保に努めていきたい。

### ③ 職員間での情報共有を密にし、ご利用者の多様なニーズに応えられる支援体制を構築する

毎月実施した支援課会議、支援課日誌の活用によって、支援課内での情報共有は円滑にできたと考える。また、他部署との情報共有についても、各種会議やケース記録、日々のコミュニケーションを通じた情報共有ができたことで、多岐にわたるご利用者のニーズに対応できたと考える。ショートステイ会議については、支援課ショートステイ担当者が各グループリーダーと定期的に情報交換を行い、受け入れ準備の情報共有や、現ご利用者の情報共有の場として有効なものとなった。平成29年度についても、職員間の連携を図り、より一層ご利用者のニーズに応えられる体制を構築していきたい。

### ④ 職員の適切な業務分担と業務の効率化を行い、支援課としての時間外労働削減を目指し、ワークライフバランスの向上・人件費の低減を図る。

業務については、職員のスキルや状況に合わせた分担を行ったが、年度途中で2名が退職し、1名の職員採用を行ったが、職員体制が安定せず時間外労働が増加する状況となった。また、通院の付き添い介助に時間を要することから、時間内ですべき業務が滞り時間外に繋がっている現状があった。平成29年度は時間外労働を削減するために、新たに内部異動で通院介助専門のパート職員を置くことで、支援課職員がすべき業務を施設内で行う時間を増やしていきたい。併せて、ご利用者・他職域の理解を得て支援課の業務を大幅に組み替えることにより、時間外労働削減を実現し、ワークライフバランスの向上を目指したい。

### ⑤ 各種加算の確実な実施、コンプライアンスの遵守

重度障害者支援加算については、1年間を通して安定的に要件を満たすことができ、栄養ケアマネ加算についても、管理栄養士の計画作成により、1年間を通して加算を算定することができた。また、リハビリ加算対象者については、対象者を60名に増加することができた。平成29年度は対象者を維持していきたい。

### ⑥ 制度改正の内容(単価、加算要件等)について十分理解し、改正の内容に即した事業展開を図る

障害支援区分について、入居者のうち49名の認定調査があり、うち16名の区分が上がっている。障害支援区分で重度に当たる区分5、6の割合は年度当初の77%から年度末には84%まで上昇している。ご利用者の状態像を適切に伝えられたことが結果として出ていると考える。平成29年度も引き続き、ご利用者の状態像把握に努め、通常の認定調査のほか、途中で状態が変わった場合の区分変更についても検討し対応していきたい。

## 【生活係】

### ① ご利用者の24時間シートと個別支援計画書に基づく介護サービスの実施

ご利用者全体の24時間シートの作成ができていないフロアもあり、既存の介護の継続で終始してしまった。個別支援計画書に基づいたサービスの提供についての話し合いが無いまま経過したため、職員の介護の内容の根拠が統一できず課題となった。

## ② 介護事故の防止に努める

介護事故の対応においては事故防止会議や発生後の検証において介護職員・相談員・医療・訓練と連携しながら検討することができた。重篤な転倒骨折事故が発生してしまったが、ご家族への謝罪や通院の同行など誠意を持って対応したことで大きな苦情等につながることはなかった。転倒・転落・服薬に関しての事故が多くを占め次年度もマニュアルや環境整備、介護の中での観察と気づきを持つ職員育成が課題となる。ショートステイでは忘れものなどの送り出しでのトラブルが多発したが、介護の見直しを行うことで成果が見えている。誤薬事故の防止に関しては、事故防止会議にてヒヤリハットや事故防止についての検証を行い、投薬マニュアルの内容を再度徹底することに取り組んだが、大きな効果をあげることはできなかった。改めて事故報告書による事故原因の分析や、全職員における事故防止策の確実な実施に取り組んでいくため次年度はリーダーが参加し目標を掲げて取り組んで行く必要がある。

## ③ 介護職員の定員を充足させ安定稼働を行う。

今年度も職員の充足ならず安定稼働が見えないまま経過した。正職員の求人を行っても若い応募者が少なく、派遣職員の利用と時間外で勤務バランスをとった。職員育成に時間をかけることで他職員の負担が大きい状況が常態化しており次年度も課題と考える。平成29年度は職員の充足が見込まれる為、派遣の契約を終了し、安定した採用と定着を目指す。時間外の無い勤務を目指す為にも、離職に繋がらない新人職員の育成と職員同士の良好な人間関係の構築を図る為の取り組みに力をいれていきたい。

## 3. 法人の5つの視点に対する取り組み

### (1) 利用者視点

#### 【相談係】

#### ① 個別支援計画作成において、相談支援事業所が作成するサービス等利用計画に基づき、ご利用者、ご家族の意向を踏まえて、ご利用者がその人らしい生活を送れるような計画立案を行う。

現在、約7割のご利用者については、サービス等利用計画が作成されている状況である。相談支援事業所担当者と連携しながら、ご本人・ご家族の意向を踏まえた計画立案を進めることができたと考える。次年度も、ご利用者がその人らしい生活を送るための計画立案を進めていきたい。

#### ② 生活支援課の円滑な業務遂行のため、各職域との情報共有を密にし、より良いご利用者支援に繋げる。

各職域との情報共有については、各種会議やケース記録、日々のコミュニケーションを通じた情報共有ができたことで、多岐にわたるご利用者のニーズに対応できたと考える。次年度も職員同士が尊重し合い、配慮し合う関係性を構築し、円滑な連携や業務遂行に繋げていきたい。

#### ③ 南札幌脳神経外科、定山溪病院を中心とした医療サービス提供体制の構築を図る。

昨年度に続き、配置医である南札幌脳神経外科、フォローアップ病院である定山溪病院の医師、看護師、相談員と密な連携を行うことができた。また、協力医療機関その他医療機関とも連携を図りながらご利用者にとって安心していただける医療サービス提供体制が構築できたと考える。今後も良好な関係性を保ちながらご利用者にとっての安心に繋がる体制を維持していきたい。

#### ④ 継続的にご利用者外出支援の充実を図る。

今年度は支援課として257件の外出を設定した。昨年度は273件の外出設定であり、同程度の件数となった。しかしながら、人員の不足により自主行事を中止したことによりご利用者の状況により職員の支援がなければ外出が困難な方の外出ができなくなってしまう事態が発生した為、今後の課題として、従来の方法にとらわれない負担の少ない形での外出の支援について考えていく必要がある。外出は施設生活における生きがいや楽しみの一つとして重要な位置づけであると同時に、ご本人と社会との接点になると考える。今後もご利用者の意向を確認しながら、希望に沿った外出設定を実施していきたい。

#### ⑤ 日中活動、創作活動、行事等について従来の内容を見直し、よりニーズに沿った内容の提供を行う。

昨年度実施した内容を踏襲しながら、ご利用者に好評だったカラオケ大会を継続実施し、グループ毎の喫茶の取り組みも継続した。次年度は実施内容を精査し、よりご利用者が意欲的に取り組み、楽しめる内容を検討していきたい。また、ご利用者が楽しみにされている食事に関連して、委託業者と連携しながら、「ご当地フェア（長崎県のちゃんぽん）」「天ぷらバイキング」、「寿司の日」、「鍋の日」、「手打ちそば」などを開催し、バイキングや寿司の日等では、普段と違う食事風景や実際に寿司を握る場面を見ることができ、視覚的にも楽しんでいただけた。次年度もご利用者に楽しんでいただける食事提供を進めていきたい。

#### ⑥ 障がい者虐待、権利擁護についての理解を深め、虐待を防止し、専門性を高めることで身体拘束の見直しや接遇の向上を図る。

昨年度に続き、今年度は2名のベッド4点柵による身体拘束を解除することができた。介護職員が抱える不安を軽減させ、身体拘束解除に伴うリスクと事故発生時の責任の所在を明確にすることで、取り組みが促進されたと考える。職員の入れ替わりがあるため、引き続き身体拘束解除の重要性を周知するとともに、次年度も身体拘束解除に向けた取り組みを継続していきたい。

権利擁護、虐待防止においては虐待防止委員会を中心に「言葉遣いの見直し」を行った。グループごとに日常使ってしまう不適切な言葉遣いについて抽出し、ご利用者の立場に立つとどのように感じるか、不適切な言葉遣いに対してはどのようにすべきかについて、グループワークを中心に検証し、職員自らの意見を元にした禁句集を完成させることができた。そのほか、虐待防止に関するアンケート実施、虐待防止月間の取り組み等を行い、職員に権利擁護、虐待防止への意識付けを行った。

### 【生活係】

#### ① ご利用者ニーズが実現できるよう介護を提供する

フロア全体で24時間シートの作成が進まず介護の見直し検討ができずに経過した。24時間シートを基にご利用者の個別ニーズや個々の生活に沿った個別ケアに取り組むことは継続して行きたい。支援計画書の評価からリスクやケアの内容の充実に目を向けられなかったこともあり次年度に計画的な見直しを図っていく。

薬の管理を看護課で行うようになったことで、介護業務の薬に関する時間が大きく変わり、介護員の負担を軽減させることができた。看護課との連携のもとでご利用者の身体的異常の早期発見、迅速な受診により重篤化・長期入院化を防ぐ事ができた。

理学療法士との連携においては新人育成の指導者であるリーダーへの指導、事故発生時の検証における介護の方法の助言、虐待防止委員会への参加、集団レクや生活リハビリについても介護職員と連携して行うことができ、一定の成果をあげることができた。

栄養士においては、食事のクレームや要望について迅速に対応、説明を行ってもらい解決を図る事がで

きた。行事食や手打ちそば・寿司の日・ご当地メニュー等の提供にご利用者・ご家族から好評をいただき、グリーンハイムでの食の楽しみに繋がった。

各専門職が連携の下で、施設理念にある「健やかな生活」に繋がる生活の実現の為、職種間連携会議等の各種会議、ケース検討等で連携の強化を図った。

## ② ご利用者課題への取り組み

今年度は明確な課題に関しては、介護員、相談員、係長、施設長、他専門職又は外部の機関に相談し、解決を図る事ができた。個々の嗜好や要望に関しての対応は、ご利用者と真摯に向き合い話し合うことと職員対応の統一化を図り対応した。

各フロアでミニカンファレンスの時間を設定し、ご利用者の情報共有を行う事ができた。

## ③ 緊急性ある事例への対応

今年度も緊急ショートステイの依頼があり、入院者の空床利用などを行い、受入体制を整えることで虐待ケースの保護やご家族の急な要望に対応することができた。

## ④ 身体拘束廃止を目指す

事故防止委員会において身体拘束廃止をどこまでできるのか議論と取り組みを行った。ベット柵に関しては2名がご本人の希望から4点柵を継続するが、超低床ベッドの使用や時間を限った柵使用で拘束時間を短くすることができた。次年度もベルトの使用や他の身体拘束の廃止の取り組みを継続する。

## ⑤ 虐待の防止

虐待防止委員会においては職員の意見を取り入れながら「言葉遣いの約束」や「虐待防止マニュアル」を作成することができた。次年度は委員会で職員研修や虐待防止月間でのアンケートなどを行い、職員の言葉や態度が虐待に繋がらないよう意識を高めていきたい。

## ⑥ 感染予防

平成28年度はノロウイルスやインフルエンザの大きな感染の流行は防止することができた。また、定山溪病院の協力の下で、感染のレベルに応じた感染防止対応について検証し、周知しやすいように表にまとめることができ、感染防止に関わる業務負担を軽減しながらも効果的な感染防止対応が実施できる体制ができた。今年度も感染予防に関して啓発と予防、マニュアル順守に努め、感染防止研修の実施、参加率の向上に努めたい。

## (2) 財務視点

### ① 施設利用実績目標の達成のため、入居に至るまでの過程を円滑に進められるよう、計画的なインテークの実施、ご本人・ご家族への事前連絡、施設内部の連絡・調整を行う。

今年度は平均利用者数が実績目標である99名に達し、99.08名の実績となった。計画的なインテークや、ご本人・ご家族への事前連絡は遅滞なく行うことができ、施設内部の連絡・調整については、職員の理解を得ながら、退所者確定から迅速に入居者受け入れを行うことができたと考える。次年度も現状を維持し実績目標達成に向けて取り組んでいきたい。

### ② 短期入居利用実績目標の達成のため、定期ご利用者の日程調整、過去に利用実績のあるご利用者への空き日程の案内、緊急ショート受け入れ等の入院者の空床ベッド利用、新規ご利用者の発掘を行う。また、ホームページでの空きベッド情報の発信を継続していく。

今年度は実績目標の平均利用者数3.4名に対し、4.01名の実績となり、実績目標を大きく上回った。年度当初より、定期ご利用者が安定的に利用されたことと、家庭の事情による緊急ショートステイや、昨

年度は実績がなかったが虐待等による緊急ショートステイを入院者の空床ベッドで受け入れたことが実績目標達成に繋がった要因と考える。年度末に定期ご利用者の入院や状態像変化があり、定期利用が困難になる可能性が出ている為、次年度は新たなご利用者確保のために、市内相談室等への広報活動を展開していきたい。また、引き続き虐待等による緊急ショートステイの受け入れを積極的に取り組んでいきたい。

**③ 時間外労働の削減(人件費)に向けて、業務分担の見直しを行う。また、業務時間内での計画的、効率的な業務遂行を意識的に行う。**

ご利用者通院支援による拘束時間が多いために、通常業務時間内ですべき業務が終えられない状況が常態化し、業務の効率化や分担の見直しを試みたが、抜本的な対策が打ち出せなかった。次年度は、新たに内部異動で通院介助専門のパート職員を置くことで、支援課職員が通院支援に関わる時間を減らし、施設内ですべき業務を時間内で進められる体制を構築していく。併せて、時間外労働削減のために、ご利用者・他職域の理解を得て支援課の業務を大幅に組み替えることにより、メリハリのついた業務実施に繋げていく。介護課は正職員の不足の為、時間外勤務が常態化してしまった。日勤パート職員での業務の補充にも限度があり、夜勤業務の行える職員の育成に時間がかかり時間外業務は前年度と同じ状況で続いた。派遣職員の使用で短期間の補充を行うが職員への採用にはなかなか結びつけることができなかった。次年度の職員採用でほぼ職員を充足する事ができた。職員の定着と育成の進捗状況で時間外業務の削減を図る可能性ができた。勤怠管理ソフトの導入により、管理職員が個々の職員の勤務状況を把握しやすくなった。今後は勤務状況の分析し、時間外労働の削減や有給取得率向上に繋げていきたい。

**④ 各種加算の確実な実施を行う。リハビリテーション加算については、実施数の維持を目指す。**

リハビリテーション加算は、訓練担当職員と定期的に打合せを重ねながら進めることで、今年度対象者を50件から60件に計画的に増やしていったが、対象ご利用者の退所などで年度末の時点では57件であった。次年度は年度当初に60件まで実施数を増やし、体制維持を目指していきたい。

**⑤ 医療機関との連携により、施設で生活しながらも必要な医療サービスの受けられる体制を整備し、ご利用者の安心の確保と入院による利用実績の低下を防ぐ。**

配置医である南札幌脳神経外科の協力のもと、施設生活を基本とした医療の提供を受けながら、病院医師・看護師と施設看護師が連携しながら対応することができた。また、フォローアップ病院である定山溪病院については、ご利用者の突発的な体調不良時に通院、入院の迅速な受け入れをしていただき、ご利用者、ご家族の安心の確保に繋がったと考える。また、定山溪病院は長期入院者の受け入れが可能であることから、今年度も現ご利用者の長期入院が必要となった場合に、新規入居者を先に受け入れた後に、病状回復した際にはスムーズに再入居していただく事が可能となった。このことで、入院長期化による実績低下を防ぐことに繋がったと考える。次年度も良好な関係を保ちながら、医療機関との連携によって、利用実績の低下を防ぐ取り組みを継続していきたい。

**⑥ 利用実績(収入)と予算執行状況に留意し、状況に応じた人件費や事業費の支出に努める。**

利用実績については、こまめな確認を行うことで安定した利用実績に繋がった。また、予算執行状況の確認を実施することで、計画的な事業費の支出が可能となった。次年度も収支のバランスを確認しながら、適正な事業費の支出に取り組んでいくとともに、前述の通り、支援課、介護課ともに時間外労働削減に向けた取り組みを実施していきたい。

### (3) 人材確保と育成

#### 【相談係】

##### ① 職員間でのコミュニケーションを図り、相互の信頼関係を深める。

日々の業務において、積極的にコミュニケーションを図ることができ、相互の信頼関係は構築できていると考える。支援課の会議や日誌の活用によって、課内での情報共有は円滑にできたと考える。他部署との関係構築については、各種会議やケース記録、日々のコミュニケーションを通じた情報共有ができたことで、良好な関係性を構築できている。次年度も継続していきたい。

##### ② 職員ごとの経験年数、力量、本人の意向や生活環境等に合わせた業務分担を行う。

職員の採用形態、福祉職経験年数、グリーンハイムでの経験年数、力量等を確認しながら、業務を進めた1年であった。次年度は支援課の業務分担を大幅に見直し、相談員個々が様々な業務を幅広く行う体制にすることにより、職員一人ひとりのスキルアップに繋げていきたい。

##### ③ 評価育成制度に基づき、定期的な面談を通して、職員一人ひとりの思いを確認し、業務分担の調整や職場環境の整備を行う。

評価育成制度に伴う面談を通して、職員一人ひとりの能力や今後の可能性、課題について確認し業務分担の調整や職場環境の整備を行った。次年度も定期的な面談を通して、全体調整を行っていきたい。

##### ④ 経験年数の浅い職員に対しては、業務に対する本人の理解度や成長度を確認しながら、職員全員でバックアップし教育体制を構築する。

生活支援課の先輩職員が声掛けやアドバイスを行いながら、次年度も自身が感じている課題と向き合い、さらなる成長に繋がれるよう、支援課全体としてバックアップしていきたい。

##### ⑤ 職員が健やかにやりがいと誇りを持って安心して働ける職場環境の整備、ワークライフバランスの充実を図る。

生活支援課としては、職員の有給休暇の取得希望を反映できるよう調整を行ってきた。次年度も有給休暇の取得は積極的に推奨していきたい。ワークライフバランスについては、次年度に掲げている時間外労働削減の取組みを行うことで改善に繋がるものと考えている。

##### ⑥ 研修会、勉強会には積極的に参加し、専門性の向上に努める。

今年度は、施設内研修のほか外部のスキルアップ研修等にも積極的に参加することができ、職員一人ひとりの専門性の向上に繋がったと考える。次年度も、職員のスキルアップに繋がり、日々の業務に還元できる内容の研修会、勉強会には積極的に参加できるよう調整していきたい。

#### 【生活係】

##### ① 有給休暇の取得促進に向け、キャリア職員正職員・正職員で連続7日の取得に取り組む。

今年度は職員が不足のフロアと差が出てはいるが、ほぼ職員周知はでき、勤務調整可能なフロアでは取得することはできた。稼働職員数が不足しているフロアでは、主任・リーダーの有給休暇取得に偏りが出ている。事業計画に沿い連続7日を目標に有給休暇の取得は、平成29年度も継続していく。

##### ② 介護福祉士の資格取得への協力体制の継続。

今年度は介護福祉士の受験者7名中6名の合格となった。個々の努力と施設の取り組みの成果と捉える。今年度も実務者研修の受講や介護福祉士受験対策講座、勉強会の参加について奨励、協力を図りたい。

③ 職員育成マニュアルの内容の見直しと統一した指導。

今年度より新たな育成マニュアルが完成しスケジュールに基づいて開始することができた。職員の指導スキルに対して指導者研修も開始したが指導に活かされたかの評価には至らなかった。

④ 新人職員との定期的な面談（個別・集団）を行い職場不安の課題と対策を行う。

今年度の育成マニュアルに定期的な面談を明記したことにより実行された。茶話会も含め新人からの意見も聞くことができ、新人指導の気付けなかった事柄を補足して行く事ができた。職場の不安に関しては定期的な面談を継続し、施設全体で解決に向けていく事を継続して行く。

⑤ 介護職員確保については従来の広告、ガイダンス等の参加に加えて、実習生の受入、定期採用や訪問を通して学校との関係強化を図る。

今年度も実習受け入れを行い、新人介護員として入職につなげる事ができた。専門学校も入学者が少なく、実習生を受け入れる際の指導の中にも入職を意識した取組みを継続していく。職員確保のためにも学校説明会や実習報告会に参加し、教員との連携を図っていく。

⑥ 職員移動やフロア研修を行い介護の見直しと職員交流を図る。

今年度の職員異動は職員人数のバランスを取ることが主な目的となった為、計画的に異動してキャリア職員がフロア応援に行けるような育成、体制に結び付けることができなかった。キャリア職員の役割としてどのフロアでも応援に行けるような体制構築に取り組んでいく必要がある。

⑦ 研修のあり方や内容を見直し、目的を明確にした継続的な研修を実施する。

平成28年度は、職員が充足しないまま研修が立て込んだため、勤務に影響が出た。時間をかけて継続的な研修が組み立てられなかったことは今後の課題となる。目的を明確にして主任も含めた育成のための研修参加を目指していく。また、研修の内容を他の職員へ伝えていく事も再検討事項として課題となる。

(4) 地域貢献の推進

① 地域行事には積極的に参加し、地域住民や小中高生等にグリーンハイムを知っていただく機会、障がい福祉を感じていただく機会を作る。

今年度は石山地区で開催された石山夏まつりに参加し、地域との交流を図ることができた。前年度まで参加していた石山地区「ふれあいの集い」、芸術の森地区「芸術の森音楽祭」に参加することができなかったため、次年度は、地域事業部を通して情報収集を行い、ご利用者に参加いただけるよう事前準備と調整を行っていきたい。

② 地域住民や福祉関係機関の会議や研修の場などで、障がい福祉についての出前講座等を実施できる準備を進めたい。

地域住民や福祉関係機関の会議や研修の場での出前講座等の依頼はなかったが、施設見学として心療福祉専門学校、北海道医療大学の皆様を受け入れ、施設概要や提供サービス等の説明を行った。そのほか、定期的に真駒内養護学校もなみ学園分校の生徒による清掃ボランティアの受け入れも実施した。

③ 多目的ホールを地域活動スペースとして開放し、各種団体の練習や会合などの場所として提供する。

前年度に引き続き、札幌ワンズという団体にドッグダンスの練習場所として、定期的に多目的ホールを提供した。練習前後には、ご利用者との触れ合いの時間を作っていただき、ご利用者が動物と触れ合える機会の提供にも繋がった。他団体についても、地域活動スペースとして多目的ホールを使用していただけるよう、周知活動を進めていく。

④ 虐待、緊急保護ケース等の積極的受け入れを継続的に実施する。

今年度は、南区からの虐待、緊急保護ケースとして1件のショートステイ受け入れを行った。次年度も、ショートステイベッド、入院者空床ベッドの状況をみながら、依頼があった際には迅速に情報を内部共有し、積極的な受け入れを進めていきたい。

(5) ガバナンス体制の強化

① 施設サービス提供に係る契約書類、実績記録、個別支援計画書をはじめとする各種計画書類の同意、日々の業務やご利用者の経過等の記録、行政や関係機関への提出書類等の整備を徹底し、ご利用者、ご家族への記録の開示、行政や関係機関からの記録・書類の照会や実地指導等に対応できるようにコンプライアンス体制の構築を図る。

定期的に実績記録や個別支援計画書等、各種計画書類の同意を確認しながら進めたため、適切に書類整備ができていると考える。今年度は札幌市指導監査が実施されたが、大きな指摘事項はなかった。次年度以降も引き続き、記録や書類の整備を進めていきたい。

② 昨年度より実施している法人理念の読み上げを今年度も継続して実施し、サービス提供の基礎である法人理念に対する意識を高めていく。

基本理念の読み上げは定着したと考える。次年度以降も読み上げを継続しながら、より理念を日々の業務に反映させていけるよう意識付けを行っていきたい。

③ 生活支援課会議を毎月実施し、ご利用者ニーズ、苦情、事故等についての情報共有、支援方針についての統一を図ると共に業務改善やコンプライアンスに取り組む。

日々の業務において情報共有や業務改善は実施しているが、会議を実施することで、相談員全員で種々の情報共有や支援方針を話し合うことができ、非常に有用であったと考える。次年度も会議の実施を継続し、ご利用者支援にあたっていきたい。

4. グリンハイム短期入所事業所

(1) 今年度の重点目標

① 稼働率の向上(目標85% 平均利用人数3.4人)

利用計画表による利用状況の管理、空き状況に係る法人ホームページ等での情報発信を行う。また、札幌市内において極力範囲を限定しない送迎の実施体制を整備する。

今年度の実績は、目標平均利用人数3.4名を上回る平均利用人数4.01名となった。前年度実施した相談室回りによって利用に繋がったご利用者が定期利用になったこと、施設内でインフルエンザが蔓延しなかったことで、ショートステイ受け入れに影響が出なかったこと等が目標達成の要因と考える。また、前年度の課題であった男性ご利用者数については、新規利用1名、過去のご利用者の定期利用再開が1名という状況であったが、生活介護事業所グリンハイムや他生活介護事業所等と連携を図ることで、利用調整が円滑に行われたことも大きな要因と考える。そのほか、効果測定は難しいが、継続して法人ホームページ上で空き日程掲載を行い、ショートステイの情報発信を行った。次年度は、安定的に定期利用されていたご利用者が今年度末に入院され、ショートステイ利用が不透明な状況となるほか、現定期ご利用者の入居順番が近づいてきているため、市内相談支援事業所を中心に計画的な周知活動を実施しながら、実績目標達成に向けて取り組みを行っていきたい。

② 虐待からの保護、突然の介護者(家族)等の病気など緊急度の高いご利用者を積極的に受け入れる。

今年度は家族状況の変化により、長期的にショートステイの受け入れを行ったケースが1件あった。また、虐待からの保護については、南区担当者からの要請により1件の受け入れを行った。次年度についても、緊急度の高いご利用者を積極的に受け入れるよう準備を進めていきたい。

③ 法人内の障がい福祉サービス事業所等との情報交換、連携に努め、在宅サービス(居宅介護等・生活介護(通所部)・短期入居)及び施設サービスにおいて包括的な支援を提供する。

法人内の障がいサービス事業所とは密に連携しながら、ご利用者支援に繋げることができた。次年度も内部連携を強固なものにしながら、ご利用者確保に努めていきたい。

④ 利用しやすい環境を整える。

利用時に連絡票を取り交わすことにより、家庭、施設、他事業所間での情報交換をスムーズに行い、安心して利用いただく。

ショートステイ利用時に連絡票を活用することで、情報交換、情報共有は円滑に行うことができた。また、必要に応じて電話連絡や口頭での伝達も行った。今後もご本人、ご家族からの意見や要望を収集し、施設内で協議し円滑な情報交換、情報共有の取組みを進めていきたい。

⑤ 障がいの重さや種別を問わない受け入れ体制を整備する。

職員個々のスキルアップ、障がい(身体のみならず、知的、精神、重度心身)に対する理解と専門性を深める。ご利用者個々の障がい特性、疾病、家庭環境や家族の思いを理解し、ニーズに即したサービスを提供する。

施設内においてショートステイ会議を実施し、施設内部での情報共有、統一したケア、支援の提供を目指す。また、相談支援事業所や他生活介護事業所等の連絡を行い、情報共有することで、一体的なケアを提供できるよう努める。

今年度は、ショートステイカンファレンスが定着し、生活支援課及び介護課ショートステイ担当職員がご利用者の障がい特性、疾病、家庭環境や家族の思い等の情報を共有し、受け入れ準備を行うことができた。職員個々のスキルアップについては、グリーンハイムで既に受け入れを行っている知的障がい、重度心身への対応は可能となってきているが、障がい特性への理解や専門性の向上には課題が残る。また、精神障がいへの対応は経験が少ないこともあり、検討を行っていく必要性を感じている。

## 5. 年間行事報告

行 事 名	実施日	内 容
常盤公園清掃	5～11月隔週水曜	公園清掃を行い、地域の飲食店で交流を図る
音楽レク・健身操	毎月3回 (うち1回は健身操のみ)	講師とともに音楽と体操を楽しむ
陶芸の日	毎月第2日曜	陶芸や日用品の工作を楽しむ
事務喫茶	各グループ1回(5回)	事務員主催による喫茶店を実施
グループ毎喫茶	各グループ1回	グループ合同や単独で喫茶を楽しむ
セラピー犬	多目的ホール練習時	札幌ワンズ所属の犬と触れ合い
イトーヨーカドー 訪問販売	4月、8月、12月	訪問販売により食品や衣類等を自ら購入する
ご当地フェア	4月20日(水)	フジフード主催、長崎ちゃんぽんを楽しむ
春季合同避難訓練	5月18日(水)	グリーンハイム中心の火災避難訓練
カラオケ大会	6月2日(金)	ご本人がエントリーし、練習を重ね皆さんの前でカラオケを披露する
移動動物園	6月10日(金)	前庭にて、動物たちと触れあう
天ぷらバイキング	7月13日(水)、20日(水)	天ぷらとバイキング形式の食事を楽しむ
焼肉昼食会①	7月29日(金)	前庭にて焼き肉など屋外での食事を楽しむ
焼肉昼食会②	8月26日(金)	前庭にて焼き肉など屋外での食事を楽しむ
ハピニス祭	9月4日(日)	地域に参加を呼びかけての法人全体のお祭り
敬老の集い	9月16日(金)	65歳以上の方々を対象にお祝いと会食
身障協避難訓練	10月16日(日)	市内の障害施設が集まった合同訓練
カラオケ大会	11月4日(金)	ご本人がエントリーし、練習を重ね皆さんの前でカラオケを披露する
寿司の日	11月11日(金)、 17日(木)、18日(金)、 25日(金)、30日(水)	フジフード主催、生寿司を楽しむ 目の前で寿司を握る場面をみて視覚的にも楽しむ
秋季合同避難訓練	11月21日(金)	和幸園中心の火災避難訓練
クリスマス忘年会	12月16日(金)	会食と演芸やゲームを楽しむ
餅つき	12月28日(水)	餅つきで季節感や臨場感を感じる ご利用者にも体験していただく
新春ゲーム	1月1日(日)	グループ別のゲームに景品提供
節分	2月3日(金)	年男・年女による豆まき
鍋の日	2月10日(金) 3月10日(金)	寄せ鍋やすき焼きを楽しむ
季節喫茶	2月26日(日)	ケーキと飲み物提供で語らいの場を作る
ご利用者懇談会	3月17日(金)	重要事項説明書変更点と施設体制の変更について

6. 事業運営状況及び事業実績

(1) 職員の配置状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

職 名	配置基準数	現員数	備 考
施 設 長	1	1	
事 務 員	必要数	4	
サービス管理 責 任 者	2	2	
生 活 支 援 員	2 (常勤換算)	4	
介 護 員		58	うち、非常勤 10 名 (パート)
看 護 師		8	5 名和幸園兼務、非常勤 1 名
理 学 療 法 士		1	
医 師	必要数	1	配置医
栄 養 士	1	1	
管 理 員	—	2	
計	—	82	

(2) 職員配置比率 (定員/入居 100 人、短期 4 人)

職 種	常勤換算 (人)	算出基準	配置比率
生 活 支 援 員	4	97.5 名/68.1 名 (基準 97.5 名/1.7=57.35 人)	1.43 人
介 護 員	58.5		
看 護 師	4.6		
理 学 療 法 士	1.0		
計	68.1		

※ 基準では前年度実績入居者数を 1.7 で除した数値以上となっている。

### (3) 職員研修

#### ① 職員外部研修実施状況

No.	開催日	会 議 ・ 研 修 名	開催地	参加職種
1	28.04.02	さっぽろ在宅医療・栄養管理セミナー	札幌市	管理栄養士
2	28.04.19	平成28年度介護実習指導者会議	札幌市	介護員2名
3	28.04.23	2015年度介護福祉実習Ⅱ報告会及び情報交換会	当別町	介護係長
4	28.05.14	平成28年度石山地区社会福祉協議会定期総会	札幌市	施設長
5	28.05.27～29	第51回日本理学療法学会	札幌市	理学療法士
6	28.06.01	平成28年度施設職員スキルアップ講座(新任職員編)	札幌市	介護員2名
7	28.06.01	平成28年度メンタルヘルス講習会	札幌市	事務課長
8	28.06.07	平成28年度 個別支援の実現に向けたケアガイドライン研修	札幌市	介護係長、介護主任3名
9	28.06.07	危険物取扱者保安講習	札幌市	管理主任
10	28.06.22	安全運転管理者講習会	札幌市	管理主任
11	28.06.25	平成28年度 高次脳機能障害支援者研修会	札幌市	主任支援員、介護員
12	28.07.07	平成28年度社会福祉法人経営者セミナー・北海道社会福祉法人経営者協議会 第1回総会	札幌市	施設長
13	28.07.26	平成28年度北海道身体障害者福祉施設協議会第1回総会	札幌市	施設長
14	28.07.27	施設レクリエーションを見直す研修	札幌市	理学療法士、介護員2名
15	28.07.30	ニュートリションセミナー2016 in札幌	札幌市	介護係長、管理栄養士
16	28.08.04	介護系リーダー研修(初級編)	札幌市	介護員3名
17	28.08.05	平成28年札幌市身障連協職員研修会	札幌市	介護員4名
18	28.08.18	平成28年度 相談支援職員研修	札幌市	主任支援員
19	28.08.19	平成28年度救急法セミナー	札幌市	介護員
20	28.08.23	平成28年度救急法セミナー	札幌市	介護員
21	28.08.25	平成28年度 施設の食事を考える(前編)	札幌市	管理栄養士、介護員
22	28.08.25	平成28年度 第1回通院介助に対する支援実態調査委員会	札幌市	施設長、主任支援員
23	28.08.27	2016年度 虐待防止研修会	札幌市	介護係長、介護員2名
24	28.09.05～09	平成28年度第2回民間社会福祉施設職員合宿研修会	東京	介護主任
25	28.09.08	平成28年度 施設の食事を考える(後編)	札幌市	管理栄養士、介護員
26	28.09.15	平成28年度 リスクマネジメント研修	札幌市	介護係長、介護員2名、生活支援員
27	28.09.29	平成28年度主治医研修会	札幌市	看護主任
28	28.09.29	平成28年度 個別ケア実践力向上研修	札幌市	生活支援員、介護員3名
29	28.10.06	北海道民のための嚥下食実践セミナー	札幌市	管理栄養士
30	28.10.13	平成28年度 個別ケア実践力向上研修	札幌市	介護員3名
31	28.10.19～20	平成28年度 第1回相談支援従事者研修	札幌市	生活支援員
32	28.10.19	北海道身体障害者福祉施設協議会 第2回通院介助に対する支援実態調査委員会	札幌市	施設長
33	28.10.25	平成28年度災害時避難訓練振り返り研修会 「障がい者福祉制度と介護保険の関係」「虐待防止」の勉強会	札幌市	施設長、生活支援員2名
34	28.10.26	2016年度北星学園大学社会福祉学部 相談援助実習評価会議	札幌市	主任支援員
35	28.10.27～28	平成28年度 身体障害者福祉施設職員研修会	札幌市	施設長、介護係長、 介護員、生活支援員
36	28.11.04	平成28年度施設職員スキルアップ講座【中堅職員編】	札幌市	介護員2名
37	28.11.10	北海道大学全学教育科目「健康と社会」講師として	札幌市	事務員
38	28.11.14	平成28年度介護・看護就職デイ(介護・看護人材合同面接会)	札幌市	施設長

No.	開催日	会 議 ・ 研 修 名	開催地	参加職種
39	28. 11. 24	2016 年度給与奉行年末調整セミナー【奉行 i / V コース】	札幌市	事務員
40	28. 11. 25～26	介護保険施設等における看護職のためのリーダーシップ研修会	札幌市	看護師
41	28. 11. 28～30	平成 28 年度北海道サービス管理責任者研修	札幌市	生活支援員
42	28. 12. 13	平成 28 年度 第 3 回障害者総合支援法に基づく集団指導	札幌市	生活支援員
43	28. 12. 16	平成 28 年度第 2 回評議員会	札幌市	施設長
44	29. 01. 07	平成 29 年石山地区新年交礼会	札幌市	施設長
45	29. 01. 20	平成 28 年度北海道老人福祉施設協議会 老人福祉施設長研究セミナー	札幌市	施設長
46	29. 02. 15	平成 28 年度身体障がい者福祉施設研究セミナー 北海道身体障害者福祉施設協議会第 2 回総会	札幌市	施設長、生活支援員 介護員 2 名
47	29. 02. 16～17	障がい者支援員養成研修	札幌市	生活支援員
48	29. 02. 17	札幌市身体障がい者福祉事業連携協議会総会	札幌市	施設長
49	29. 03. 01～02	第 4 回通院介助に対する支援実態調査委員会・情報交換会	札幌市	施設長、生活支援員
50	29. 03. 02	平成 28 年度特定給食施設等研修会	札幌市	管理栄養士
51	29. 03. 16	水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会	札幌市	施設長
52	29. 03. 28	平成 28 年度 第 3 回評議員会	札幌市	施設長

## ② 職員内部研修実施状況

No.	開催日	会 議 ・ 研 修 名	参加職種
1	28. 7. 29	事例検討研修①	介護員、相談員、看護師、栄養士、 理学療法士
2	28. 8. 26	事例検討研修②	
3	28. 10. 28	事例検討研修③	
4	28. 8. 22	虐待防止研修	介護員、相談員、看護師、栄養士、 理学療法士
5	28. 12. 9	移乗研修①	介護員、理学療法士
6	29. 2. 10	移乗研修②	

## (4) ご利用者状況

### ① 入退居状況

	29. 3. 31 在 籍 者	28. 4. 1 ～ 29. 3. 31		28. 3. 31 在 籍 者
		入 居	退 居	
男	52	5	5	52
女	50	3	3	50
計	102	8	8	102

② 月別平均ご利用者数

	入居			短期		
	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4月	98.30%	97.60%	94.00%	88.33%	70.83%	110.83%
5月	98.87%	97.77%	92.68%	87.10%	70.16%	100.81%
6月	98.83%	98.83%	94.87%	99.17%	75.00%	97.50%
7月	97.81%	99.35%	99.16%	132.26%	71.97%	106.45%
8月	98.94%	98.71%	100.00%	107.26%	82.26%	92.74%
9月	97.30%	97.97%	98.80%	100.83%	100.00%	102.50%
10月	99.26%	100.58%	99.00%	113.71%	100.00%	84.68%
11月	100.30%	99.97%	99.50%	95.83%	90.00%	90.00%
12月	98.94%	98.29%	99.19%	92.74%	80.65%	86.29%
1月	99.90%	98.19%	98.71%	98.39%	75.81%	73.39%
2月	100.46%	96.48%	98.18%	96.43%	52.59%	66.96%
3月	100.58%	100.55%	98.26%	91.13%	76.61%	68.55%
計	99.08%	98.70%	97.70%	100.34%	80.05%	90.14%

③ 退居理由

区 分	男	女	計
死亡	2	1	3
他の施設・病院	3	2	5
家庭復帰（地域移行）	0	0	0
計	5	3	8

④ 年齢別状況

	15～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～79	80～	計
男	0	2	4	11	9	18	7	1	52
女	0	1	3	11	10	11	9	5	50
計	0	3	7	22	19	29	16	6	102

⑤ 利用期間状況

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	計
男	3	7	5	15	7	0	4	11	52
女	1	5	3	16	4	3	4	14	50
計	4	12	8	31	11	3	8	25	102

⑥ 障がい支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男	4	7	7	34	52
女	2	3	17	28	50
計	6	10	24	62	102

⑦ ショートステイ（短期）実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													H28	H27
男性	8	8	9	10	10	10	11	10	12	10	9	10	117	87
女性	8	9	10	9	8	8	10	6	7	7	7	8	97	69
計	16	17	19	19	18	18	21	16	19	17	16	18	214	156
利用日数	106	109	119	164	133	121	141	115	115	122	108	113	1,466	1,172

実利用人数：26名(平成27年度23名)

⑧ 訪問の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													H28	H27
延べ人数	47	71	65	75	71	73	67	65	56	65	47	46	748	751
実ご利用者数	26	40	35	36	35	40	32	28	32	38	28	26	396	365

年度中に訪問のなかったご利用者：26名

⑨ 外出状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													H28	H27
男性	8	9	12	8	11	7	12	10	7	6	9	13	112	123
女性	10	14	9	9	10	11	14	10	14	8	9	19	137	146
計	18	23	21	17	21	18	26	20	21	14	18	32	249	269
実人員	15	21	19	13	19	16	23	18	24	12	17	26		

実人数59人(平成27年度65人)

⑩ 外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													H28	H27
外泊延人数	4	3	2	3	3	3	2	0	5	5	1	0	31	16
外泊延日数	4	13	3	12	4	30	16	0	23	6	7	0	118	101

⑪ 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													H28	H27
件数	59	57	59	64	65	54	53	48	50	51	46	63	669	713
実人数	36	42	37	45	44	34	39	32	35	33	39	44	460	482

⑫ 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													H28	H27
入院者	8	6	7	8	6	4	4	4	6	3	3	5	64	84
延日数	92	79	107	118	91	92	69	51	56	21	52	36	864	1,201

⑬ 事故報告件数

	事故件数	ヒヤリハット件数	施設外医療機関対応 (件)
転倒・転落	42(27)	80	6
服薬	36	168	0
異食	0	1	0
介護	12	90	4
誤嚥	1	17	1
その他	31	370	4
計	122	726	15

※転倒・転落の事故件数について、( )内は転倒報告書の件数

⑭ 苦情受付件数

	件数
食事に関すること	6
職員・介護に関すること	1
行事・活動に関すること	1
その他	1
計	9

(7) ボランティア活動状況

行事・活動	所属・団体	人数	備考
傾聴ボランティア	地域ボランティア	1	週に2回ご利用者交流
ボランティア実習	札幌養護学校もなみ学園分校	20	施設内トイレの清掃体験(年2回)

### 3. 特別養護老人ホーム 和幸園

#### 1. 総括

特別養護老人ホーム和幸園は、平成26年7月にユニット型施設として全面改築後、2年8か月を経過した。ユニット型施設への移行に伴い、普通の生活の実現と個別対応を目指してきた。

個別対応の専門的ケアを目指し、「自立支援」とはなにか、「尊厳を守る」とはどういうことなのかを、毎月の新人研修や認知症研修で学びを深め、実践に繋げてきた。また、日中おむつゼロの継続と併行し、基本ケアである水分1,500CC、常食化、歩行運動の取り組みを行ってきたことが専門性の高い個別ケアの基礎となり、ご利用者個々をアセスメントする力が強化されてきている。今後も、ご利用者が穏やかに心地よく生活していただくために質の高いハードとソフトの融合を目指し、ご利用者の残存能力の引き出しに努め、生活意欲の喚起に繋がるケアの提供を継続していく。

#### 2. 具体的な取り組み

##### (1) 利用者視点

① 終の棲家として和幸園で過ごせて幸せだったと思えるような生活を送っていただけるよう支援していく。協力医の協力の元、ターミナルケアを継続して行った。ご本人・ご家族のご希望により、9名のご利用者が、和幸園で最期まで過ごすことができた。また、普通の生活の継続を目指し、行事食の日や外出機会などの行事による楽しみも昨年度より増やすことができた。

② ご利用者の外出や外泊は、年末年始を始め、ご家族のご都合に合わせ多くのご利用者が行った。しかし、在宅復帰ケースは、家族状況が整わず実例はなかった。今後も、入居時には在宅復帰の意向をご家族にお聞きするなど、可能な限り在宅復帰を目指す支援を継続していきたい。

介護力向上講習会には、毎回4名から5名の職員が参加した。課題ケースに参加職員が中心となり取り組んだ。また、日常的には、基本ケアである「水分」、「常食常菜」、「排泄」、「歩行・運動」について、個別に目標を決め取り組み、ユニット会議・ケース会議では、他職種で入居者ごとに、検討・見直しを行った。また、現在の和幸園の基本ケアの根拠を学ぶ機会として施設長による『和幸園の変遷』と題した講義を行い、全職員が学ぶ機会を持たせた。今後も、継続して各職員が理解して基本ケアの理論を適切な実践に結びつけて支援ができるようにしていく必要がある。排泄については、『日中おむつゼロ』の維持はできた。

常食化については、平成29年3月には常食常菜82%となり90%には至らなかった。しかし、常食化の取り組みにより、入居時に粥食等だった多くの方々の食事が米飯に変更できた。また、多くの方々が外出レクや敬老会、クリスマス会、生寿司パーティー、天ぷらパーティーなどで普通の食事を楽しんでいただくことができた。日常の食事では、食べられなくなっていると考えられたご利用者が、お寿司・ピザなどを積極的に食べる姿がみられたことに驚かされた。また、一時期、食事が激減したご利用者には一時的に食形態をゼリー食に変更したケースもあったが、そのようなご利用者においても、定期的に食事摂取量や体調の改善と照らし合わせながら、常食に戻す取り組みを行った。

排泄については、下剤に頼らない自然排便を目指し、(介護力向上講習会参加の他施設の効果の情報をもとに)平成28年11月より、下剤を使用しているご利用者を対象に腸内環境を整える効果のあるオリゴ糖入り乳酸菌飲料の購入と飲用の支援を開始した。その効果があり、徐々にではあるが41%使用していた下剤が37%に改善した。今後も、下剤使用率の低下と自然排便を目指していきたい。

歩行率については、認知症が悪化している方や全介助の方に関しては、立位5秒つかまり立ちができ

ず、そこで留まってしまうことが多く、歩行がほとんどできていないケースも多く歩行率の改善には苦慮している。その改善方法として、①歩行の日を設ける、②主任・リーダー会議などでチャレンジする利用者を限定し、集中的に取り組む方を絞るなどし、進めていった。結果、毎日行うまでは至らず、著しい効果は出なかったため、今後は毎日行うことで一層、本人にとって実用的な歩行に近づいていけるようにしたい。

今後も、入居の相談時から、「基本ケア」「日中おむつゼロ」の取り組みを説明し、ご理解を頂いた上で、入居をして頂くことで理解と協力を得られるよう進めていきたい。

### ③ 褥瘡の減少

褥瘡委員会を中心に問題意識の向上を図るとともに、予防として日々の体位交換や除圧、福祉用具の利用、皮膚状況の観察、失禁の軽減に取り組むとともに、また、皮膚トラブル発生時も褥瘡介護計画書を作成し、チームでの迅速で適切な対応により、悪化させずに早期に治すことができてきた。また、予防のために、理学療法士により入居者ごとに必要な介助方法の指導や、外部講習会を受講した職員により、適切な介助方法を習得するためのポジショニング研修を行った。また、その研修の中で、移乗シートや移乗グローブを使つての除圧の方法も伝達し、日常的に福祉用具も使うことを習慣化することで、実際の介護の技術も向上できた。

### ④ 介護事故について

事故件数は、全体件数では減少しているが介護事故が原因として病院へ受診した件数は増加傾向にある。今年度は骨折事故が多く、同月内に頻発してしまった事案もあった。原因としては歩行状態がフリーな人に対する目離しや介助ミスによるものなどがあり、基本的なケアの見直しにより同様の事故が発生しない様に留意した。

事故発生後の連絡や再発防止策を早急に行う事でご家族へ対する不安を軽減する事ができたと考えられる。今後も事故発生後には速やかにご家族へ連絡し、対応策なども提示していきたい。

### ⑤ 感染予防

平成29年2月から3月にインフルエンザが一部ユニットで蔓延した。ご利用者間の感染のペースが遅いことから、利用者間の感染ではなく、職員の介助による接触感染ではないかと考えられた。今回のインフルエンザの蔓延により手指消毒の意識や清掃についての課題が明らかになった。また、協力医療機関の感染管理認定看護師にお越しいただき、蔓延の検証と対策を指導していただいた。

ノロウイルスの発生はなく終わった。嘔吐が発生したときには、マニュアルに沿って迅速な対応を行った。また、嘔吐発生時のマニュアルを作成し、食事面での配慮も講じられた。

### ⑥ 身体拘束ゼロや虐待防止

虐待に繋がると思われる言葉や介護の姿勢に問題ある職員を把握し、指導を行うことができた。今後も、主任・リーダー不在時の職員のご利用者への対応の把握も行き、問題ある職員の把握と継続した指導を行っていく。

### ⑦ ユニットケアの良さが生かされるような個別ケア体制の構築及び提供

馴染みの職員により、ご利用者ごとの特徴を把握し介護を行えた。ユニット会議やケース会議では、他職種で「基本ケア」の視点とともに、その方らしさの視点を大事にしたケアを実践できた。そのため、多くのご利用者に趣味活動などで好みの娯楽に参加していただくことで、日常生活の活性化にもつながった。また、ご家族等も気軽に訪問され、開かれた施設として運営できた。

## (2) 財務視点

- ① 年間稼働率について、本年度は入居98.25%、短期93.89%と、本年度目標達成率（入居97.9%、短期85.0%）、かつ昨年度実績（入居97.71%、短期87.8%）を上回る結果となり、年間を通して高い稼働率を維持することができた。また、昨年と比較して、死亡者17人（昨年23人）、長期入院4人（昨年11人）、及び入院者延べ人数812人（昨年1,278人）と466人減少した。昨年度に引き続き提携医の理解、協力のもとでターミナルケア体制の充実と各職員の専門性の高さによって、一日でも長く最期まで和幸園で暮らすことができるようになったものと振り返る。
- ② 入居では、加算取得の見直しを図り、その結果、経口維持加算Ⅰ（400単位/月）、経口維持加算Ⅱ（100単位/月）による収入増につながった（75.4% 89名/118名 平成29年3月31日現在）。本年度は近年最高の稼働率と経口維持加算（Ⅰ・Ⅱ）算定取得が高い実績を残す大きな要因となった。さらには各セクションの協力体制や日々のケアの質の向上、そして緻密なベッドコントロール等が大きく影響したと考える。その他、待機者への迅速な呼び掛け、介護者の状況等に応じた特例利用の活用、ショートステイの積極的な空床利用や入院者ベッドの活用、医療的なニーズが高いご利用者や他施設で断られたケースの受け入れ等によって、専門性と質の高い施設運営を進められた。

短期入所生活介護事業所では、積極的な緊急SSの受け入れ、ダブルカウントの活用、及び居宅介護支援事業所や介護者等の依頼者からの相談に親身に応じ、居室が満床で受け入れが厳しい状況であっても入院者ベッド等の活用やキャンセル等が生じた後の迅速な調整を図り、積極的な受け入れをしたことが、高い稼働率を維持しこの実績を達成する結果となった。そして、昨年度より常勤看護師1名を配置することで算定可能になった看護体制加算Ⅰ、看護体制加算Ⅱの算定を継続し、また緊急受け入れ体制加算を確実に算定することで、年間を通して実績に大きく影響したと思われる。さらに、法人内居宅介護支援事業所のみならず、他居宅介護支援事業所からの依頼も増え、ロングSS等の希望にも忠実に応えていることにより他居宅介護支援事業所の信頼が増加しているのも大きな成果となっている。

- ③ 理学療法士・看護師との連携により、個別機能訓練を生活リハビリの視点で実施し、入居者のQOLを高め、個別機能訓練加算取得を維持した。また、管理栄養士との連携により、個別に栄養マネジメント計画書を作成し、日々の栄養状態の観察・適宜介入、個別性に基づいた食事提供方法の検討、及び食事形態の変更等の調整を図り、栄養マネジメント加算取得を維持した。
- ④ 協力医療機関、看護師等との連携により、和幸園で最期の時を過ごすことを望むご利用者やご家族の希望に沿い、ターミナルケアを開始することができ、平成28年度も9名の方が、ターミナルケアを希望され、最期まで和幸園で過ごされた。
- ⑤ 難病である進行性核上麻痺で胃ろうの方が入居され、ご家族からの経口での訓練の希望があったため、歯科医やPT、介護員の連携により開口訓練から始め、経口訓練も開始することができた。まだ、1ヶ月を経過したところであるが、徐々に表情が豊かになり、QOLの改善もみられてきた。また、体調悪化により食事形態が落ちてしまい一時的にゼリー食などに変更した方に対しても、体調の改善と共に、常食への移行を慎重かつ積極的に取り組み、食べる楽しみの向上を図れた。

経口維持加算は、これまで取り組んできた基本ケアの常食化の学びにより、支援を計画的に観察し、課題を抽出して、必要な支援内容を検討し計画書に明記して算定した。約7割の入居者が算定できた。

- ⑥ 訪問歯科医との連携により、経口摂取が困難なご利用者に対しても、あきらめずに誤嚥性肺炎を予防しつつ、より安全に経口摂取できることを目標に支援することができた。
- ⑦ 電気、水道、光熱費、日用品費等の節減を、継続して取り組んだ。

### (3) 人材確保と育成

- ① 職員の充足及び定着率向上については、職員募集など随時行い、徐々に充足されつつあったが、継続して募集が必要な状況であった。今後も、より長く働ける職場の環境作りをしていく必要がある。
- ② 施設長による認知症研修も実施し、認知症ケアについての学びにより、認知症に対する介護技術の向上ができた。
- ③ 施設長により「介護福祉士」資格取得のための講習会を実施し、90%以上の職員が合格できた。
- ④ プリセプター制度及び新人研修等を実施した。新人研修により基本的な介護技術向上ができた。
- ⑤ 施設長により全職員を対象に数回にわたり「和幸園の変遷」の研修会を実施した。それにより、基本ケアの根拠を知り、日常業務にあたることができるようになった。
- ⑥ 外部研修にて学ぶことで、ポジショニングリーダーの職員の育成を行い、事業所内にてその職員から、全職員に向けポジショニング研修を行った。褥瘡予防だけではなく、ボディーメカニクスの考え方と介助を受ける人の気持ちや負担等を理解した移動介助の技術の理解が深まった。また、日常的に理学療法士・作業療法士の指導を受け、ご利用者ごとの介助方法を学び、よりよいケア技術を身に着けるとともに、よりよいケアにつなげることができた。
- ⑦ 福祉専門職養成機関との連携をより密にでき、次年度の新卒者の応募に繋げることができた。
- ⑧ ホームページやお便りなどにより、和幸園の取り組みを広報することで、知っていただくことができ、職員の応募に繋がった。

### (4) 地域貢献

- ① 「介護何でも相談」が10年間続き、法人の地域貢献活動として定着している。
- ② 介護福祉士・社会福祉士・介護職員初任者研修等の実習機関として実習生の受け入れを行った。
- ③ 幼稚園・地域のボランティア、日赤ボランティアの協力を継続して仰ぐとともに、地域のお祭りなどへも、外出レクなどで参加した。
- ④ ハピニス祭等、施設開放時には、地域の方々にご案内を行い、お越しいただいた。
- ⑤ 地域で認知症高齢者の家族を対象に、基本ケアの実践によるBPSDの減少を目的とし、「認知症状改善塾」を開講した。改善塾の開講により、参加者同士のつながりや精神的な部分のケアにも繋がった。また、今後の当施設のケアを見直す場ともなった。
- ⑥ 社会福祉法人減免制度も、継続して行った。

### (5) ガバナンス体制の強化

- ① 制度改正に伴い、対象となる方に関して自己負担額に変更がある旨の説明を行い、迅速に実施した。
- ② 札幌市の指導監査の際に指摘・助言を受けた項目は、請求時に確認した。加算などの算定要件についても、定期的に確認した。
- ③ 介護保険制度に則して、契約、サービス提供及び請求が継続できた。
- ④ コンプライアンスに基づいたケアプランの作成と家族への説明・同意を行った。

### 3. 事業運営状況及び事業実績

#### (1) 職員の配置状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1	1	
事務員	必要数	9	うち、非常勤3名
生活相談員	2	5	うち、介護支援専門員兼務2名
介護員	40	109	うち、非常勤職員39名
看護職員（看護師）	（常勤換算）	11	うち、グリーンハイム兼務8名、非常勤2名
医師	必要数	1	配置医
機能訓練指導員	1	3	うち、非常勤職員1名
管理栄養士	1	1	
管理員	必要数	1	
外勤調整員	必要数	2	うち、2名事務兼務
計		143	

#### (2) 介護・看護職員配置比率（定員／入居 120 人、短期 20 人）

職種	常勤換算（人）	算出基準	配置比率
介護職員	86.0	140 人/91.4 人 （基準 140 人/3=46.6 人）	1.53 人
看護職員	5.4		
計	91.4		

※ 基準では入居者数を 3.0 で除した数値以上となっている。

#### (3) 職員外部研修実施状況

No.	開催日	会議・研修名	開催地	参加職種
1	28.04.16	老健施設生き残りセミナー	札幌市	施設長、相談係長
2	28.04.19	平成 28 年度介護実習Ⅱ 実習指導者会議	札幌市	介護係長
3	28.04.28	平成 28 年度石山分団定期総会	札幌市	施設長
4	28.05.13	石山商店街振興組合 平成 28 年度通常総会・懇親会	札幌市	施設長
5	28.05.14	芸術の森地区社会福祉協議会創立 20 周年記念祝賀会	札幌市	施設長
6	28.05.14	平成 28 年度石山地区社会福祉協議会定期総会	札幌市	施設長
7	28.05.22	認知症専門員から学ぶ～「徘徊」「昼夜逆転」～ 周辺症状に振り回されない認知症ケア 第1・2部	札幌市	看護師
8	28.05.27～ 29	第 51 回日本理学療法学会	札幌市	理学療法士
9	28.05.30	科学的介護実践講座 平成 28 年度介護力向上講習会 【北海道分校】第 1 回	札幌市	施設長、介護係長、 介護員 3 名
10	28.06.04～ 05	第 15 回パワーリハビリテーション研究会 第 10 回日本自立支援介護学会	東京	施設長、相談係長
11	28.06.08	危険物取扱者保安講習	札幌市	管理員
12	28.06.12	下元佳子先生によるモーションエイドリーダー研修会	札幌市	介護員 2 名
13	28.07.02	平成 28 年度北海道医療大学リハビリテーション科学部 理学療法学科 第 2 回「臨床実習指導者会議」	札幌市	理学療法士
14	28.07.05	実務者研修 介護過程Ⅲ	札幌市	生活相談係長

No.	開催日	会 議 ・ 研 修 名	開催地	参加職種
15	28.07.07	リスクマネジメント研修	札幌市	生活相談員
16	28.07.07	平成28年度社会福祉法人経営者セミナー 平成28年度北海道社会福祉法人経営者協議会第1回総会	札幌市	施設長
17	28.07.16	重度障害者の日常の姿勢づくり	札幌市	看護師
18	28.07.16	平成28年度 在宅・介護保険施設等で働く看護職の交流会	札幌市	看護師
19	28.07.22	科学的介護実践講座 平成28年度介護力向上講習会 【北海道分校】第2回	札幌市	介護係長、 介護員3名
20	28.07.27	施設レクリエーションを見直す研修	札幌市	理学療法士、 介護員2名
21	28.08.04	普通救命講習	札幌市	生活相談員
22	28.08.05	宏楽苑「納涼の夕べ」	札幌市	施設長
23	28.08.18	札幌市介護保険サービス事業所連絡協議会 平成28年度「介護保険講習会」	札幌市	介護係長
24	28.08.20	初任者研修（研修講師として参加）	札幌市	施設長
25	28.08.23	平成28年度福祉職場説明会	札幌市	事務局長、事務員
26	28.08.23 09・06	介護事業者向けセミナー&合同就職相談説明会	札幌市	生活相談係長
27	28.08.25	第36回老人福祉施設研究発表会	札幌市	施設長、介護係長、 生活相談係長
28	28.09.07	認知症ケア研修会 ー対象者を深く理解するためにー	札幌市	看護師
29	28.09.09	実務者研修（研修講師として参加）	札幌市	介護係長
30	28.09.20	初任者研修（研修講師として参加）	札幌市	施設長
31	28.09.23	科学的介護実践講座 平成28年度介護力向上講習会 【北海道分校】第3回・交流会	札幌市	施設長、介護係長、 理学療法士、 介護員2名
32	28.09.29	平成28年度主治医研修会	札幌市	看護係長
33	28.10.01	看とり期に望まれる実際のケア 第1部・第2部	札幌市	看護主任
34	28.10.04	平成28年度介護福祉科 介護福祉実習指導者打ち合わせの会	札幌市	介護係長
35	28.11.05	2016年度 第2回QOLを考慮したポジショニング・動作介助自主研修会	札幌市	介護主任、 介護員2名
36	28.11.09	総務セミナー・守りから攻めの総務へなるために知っておくべき戦略とは	札幌市	事務員
37	28.11.11	平成28年度札幌市社会福祉協議会施設福祉部会課題解決事業 福祉職場の人材確保と定着化セミナー （パネリストとして参加）	札幌市	施設長、 生活相談係長、 事務員
38	28.11.14	平成28年度介護・看護就職ダイ（介護・看護人材合同面接会）	札幌市	事務局長、事務員
39	28.11.24	2016年度給与奉行年末調整セミナー【奉行i/Vコース】	札幌市	事務員
40	28.11.28	科学的介護実践講座 平成28年度介護力向上講習会 【北海道分校】第4回	札幌市	施設長、介護係長、 理学療法士、 介護員2名
41	28.12.16	平成28年度第2回評議委員会	札幌市	施設長、
42	29.01.07	平成29年石山地区新年交礼会	札幌市	施設長
43	29.01.10	平成29年石山商店街振興組合「新年交礼会」	札幌市	施設長
44	29.01.20	平成28年度北海道老人福祉施設協議会 老人福祉施設長研究セミナー	札幌市	事務局長
45	29.01.20	平成28年度介護保険サービス事業者集団指導	札幌市	介護係長、 生活介護係長

No.	開催日	会 議 ・ 研 修 名	開催地	参加職種
46	29.01.23 ~ 26	平成 28 年度全国老人福祉施設研究会議・長崎会議	長崎市	施設長、介護係長、主任相談員
47	29.01.27	科学的介護実践講座 平成 28 年度介護力向上講習会 【北海道分校】第 5 回	札幌市	介護係長、理学療法士 介護員 3 名
48	29.02.25	2016 年度 第 3 回 QOL を考慮したポジショニング・動作介助自主研修会	札幌市	事務員 3 名
49	29.03.02	平成 28 年度特定給食施設等研修会	札幌市	管理栄養士
50	29.03.24	科学的介護実践講座 平成 28 年度介護力向上講習会 【北海道分校】第 6 回	札幌市	介護係長、理学療法士、 介護員 3 名
51	29.03.27	札幌市地域包括支援センター及び介護予防センター運営事業 受託法人募集説明会	札幌市	施設長、事務局長
52	29.03.28	平成 28 年度 第 3 回評議員会	札幌市	施設長

#### (4) 寄付物品

寄 付 者	物 品 名
武田 昇子 様	ウエス 22 k g
土谷 厚子 様	ウエス 34.5 k g
益田 容子 様	ウエス 3 k g
川口 金次 様	タイヤ 4 本
藤田 郁子 様	ウエス 50 k g タオル 178 本
中川 紀子 様	ウエス 43.5 k g
吉 岡 様	ウエス 8 k g
遠 藤 様	ウエス 22.5 k g
内山 春美 様	ウエス 5 k g
岩本 節子 様	ウエス 60 k g バスタオル 8.5 k g フェイスタオル 14 k g
日景 慶子 様	ウエス 16.5 k g パット 7.5 k g
寺澤 征子 様	ウエス 5.1 k g
石山分団 10 班 様	ウエス 8.3 k g
高田 ミツ子 様	ウエス 9 k g
今 淳子 様	ウエス 5.4 k g
麻 田 様	ウエス 12.3 k g
楨田 信子 様	ウエス 31 k g
相田 道子 様	ウエス 19 k g
土田 ミサヲ 様	ウエス 9 k g
戸田 美枝子 様	ウエス 4 k g
マリア手芸 様	ウエス 6 k g
内 藤 様	ウエス 16 k g
相 馬 様	キングサリの木 1 本 ウエス 12 k g
池田 寿満子 様	紙オムツ・パット 12 パット
渡辺 トナミ 様	ウエス 20.8 k g

寄 付 者	物 品 名
蓑輪 博 様	ウエス 21.5 k g
坂口 澄子 様	ウエス 25 k g タオル 30 本
田所 勝美 様	ウエス 64 k g
日赤石山分団 様	ウエス 5 k g
吉 山 様	ウエス 2 k g
大 澤 様	尿取りパット 9 袋
小 松 様	ウエス 32 k g
北山 和子 様	ウエス 8 k g
国陶 千賀子 様	ウエス 20.5 k g
筑田 敬子 様	ウエス 61.9 k g タオル 300 枚
菊池 かよ子 様	ウエス 31 k g タオル 25 枚
ライラックライオンズクラブ様	タオル 70 枚
辻 ツナ 様	ウエス 5 k g
荒井 悦子 様	紙パンツ 1 袋 紙オムツ 2 袋 尿取りパット 11 袋
折 田 様	ウエス 2 k g
松井 博子 様	ウエス 4 k g
本田 美以子 様	紙オムツ等
田中 純子 様	ウエス 52 k g Box ティッシュ 120 個

(5) ご利用者状況

① 入居者状況

	29年3月31日	入 居 者	退 居 者	28年3月31日
	在 籍 者			在 籍 者
男	19	6	9	22
女	99	25	22	96
計	118	31	31	118

② 月別平均入居者数

	入 居			短 期		
	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4月	98.17%	98.41%	97.33%	86.58%	74.34%	84.67%
5月	98.74%	97.02%	95.94%	81.85%	104.55%	115.48%
6月	99.25%	97.38%	98.93%	95.00%	92.11%	82.67%
7月	99.01%	97.33%	93.60%	90.65%	89.81%	64.27%
8月	97.31%	98.47%	95.61%	99.35%	82.93%	70.04%
9月	98.03%	96.46%	98.43%	95.67%	72.64%	66.90%
10月	99.25%	95.94%	96.39%	93.39%	79.09%	79.36%
11月	99.45%	97.00%	97.37%	102.98%	89.44%	81.65%
12月	98.33%	98.40%	96.56%	100.88%	87.92%	95.43%
1月	97.66%	98.71%	96.36%	88.53%	87.2%	83.57%
2月	97.12%	99.19%	96.32%	99.64%	94.03%	98.30%
3月	96.69%	98.26%	98.32%	92.26%	90.92%	84.92%
計	98.25%	97.71%	96.76%	93.89%	87.08%	83.94%

③ 退居理由

平成28年度	男	女	計	平成27年度	平成26年度
死亡	6	11	17	17	1
長期入院	2	10	12	11	38
家庭引取	0	0	0	0	0
他施設へ移動	1	1	2	4	0
計	9	22	31	32	39

④ 年齢別入居者状況 (平成29年3月31日現在)

	65歳未満	65～74	75～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	1	3	8	5	1	1	0	19
女	2	5	24	31	20	11	6	99
計	3	8	32	36	21	12	6	118

⑤ 入居者の入居前居所状況（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	男	女	計	H27年度
自 宅	3	20	23	12
介護老人福祉施設	0	0	0	0
介護老人保健施設	0	0	0	7
介護療養施設	0	0	0	0
医療機関	1	5	6	6
他の福祉施設	2	1	3	2
計	6	26	32	27

⑥ 月別入院状況

入院状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	H27
入院者数	3	6	5	4	4	3	3	3	1	6	4	2	44	47
入院延日数	57	70	14	42	107	58	42	32	73	122	114	81	812	1,278

⑦ 入居者の要介護度（平成29年3月31日現在）

要介護度 性別	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	計
男 性	0	0	5	11	3	19
女 性	1	4	22	32	40	99
計	1	4	27	43	43	118

⑧ 事故報告件数

	件数		施設外医療機関対応（件）	
	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度
転倒	143	113	6	15
転落				
服薬	24	25	0	1
異食	8	2	1	0
誤嚥	9	6	4	2
皮膚剥離	20	16	0	0
その他（ヒヤリハット含む）	83	76	3	1
計	287	238	14	19

⑨ 苦情受付件数

	件数	
	平成27年度	平成28年度
介護等に関すること	2	1
設備に関すること	0	3
職員に関すること	1	1
その他	2	1
計	5	6

⑩ 行事

日程	内容	備考
誕生日	該当者	入居者様に誕生日のプレゼントを渡し、月によりユニット内で誕生日会の開催等を行っている。
5月23日	運動会	遊歩道付近で実施予定
6月初旬	天ぷらの日	1・2条合同、3条、4条（6月初旬より）
6月末	ジンギスカン	遊歩道付近で実施予定
8月5日	七夕の集い&夏祭り	遊歩道付近で実施予定
9月14日	野球観戦	ご利用者の野球観戦の実施
9月24日	敬老会（昼の部）	3条
9月24日	敬老会（夕の部）	4条
9月25日	敬老会（昼の部）	1・2条
10月6日	秋の味覚祭	施設前園庭での実施
11月10日	芋煮会	各ユニットで実施
12月17日	クリスマス忘年会（昼の部）	4条
12月17日	クリスマス忘年会（夕の部）	3条
12月18日	クリスマス忘年会（昼の部）	1・2条
12月28日	餅つき	5週目に実施
1月16日～18日	寿司の日	1・2条合同、3条、4条
2月3日	節分	各ユニットで実施
2月9日	鍋・すき焼き	
3月3日	ひなまつり（昼の部） ひなまつり（夕の部）	1・3条 2・4条
[その他]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石山中央幼稚園来園 5月13日、7月8日、8月26日</li> <li>・日赤ボランティア</li> <li>・歌謡ボランティア</li> <li>・家族会、利用者懇談会</li> <li>・イトーヨーカドー訪問販売（4月・7月・10月・1月）年4回</li> <li>・ワンちゃんボランティア</li> <li>・各グループの外出行事も適宜（5月～10月）</li> <li>・芸術の森音楽祭 11月6日</li> </ul>	

## 4. 栄養課

### (1) 利用者視点

- ・委託業者所属栄養士、調理員との連携を密にして、ご利用者・施設の要望として特色あるイベントを実施できた。
- ・定期的な全体ミーティングを継続して行うことができなかったため、今後は実施回数の増加に努める。
- ・栄養ケアマネジメントを行い、個々人にあった栄養ケアの提供を遂行した。

### (2) 財務視点

- ・加算の確実な実施を行うことができた。今後も継続して行っていく。
- ・追加（栄養）食品を無駄の無いよう支出管理を実施している。
- ・物品の購入、修理、行事等、予算に合わせて計画的に実施できた。

### (3) 人材確保と育成

- ・献立作成、調理業務は業務委託を行っており、人材の確保は委託先の業務となっている。
- ・研修、勉強会は各自のスケジュールに合わせて参加できている。今後も積極的な参加をして、最新の情報の取得に努める。

### (4) 地域貢献の推進

- ・入居者、ショートステイ、デイサービスご利用者、ご家族、地域の方々の栄養相談を積極的に取り組んでいきたい。

### (5) ガバナンスの強化

- ・ノロウイルス対策の策定を行い、委託業者との確認を行った。また、使い捨て食器の配備、災害用備蓄食品の配備など、緊急時への対策も強化した。
- ・適宜他職種との連携を図り、栄養ケアマネジメントを実施している。

### (6) その他取組、行事

- ・食事形態、食事のおいしさの向上など、委託業者と適宜相談し実施している。今後も更なる向上を目指す。
- ・ご利用者の前で調理をするイベント（寿司、てんぷら）は好評であった。今後も実施の継続し、また、他のイベントも考案していきたい。

### 【グリーンハイム】

- ・入居者の体調に応じた食事・間食に関する内容等、ご本人に納得して頂けるよう寄り添いながら、栄養計画書を作成し、遂行した。
- ・食物繊維と乳果オリゴ糖を用いた排便コントロールの取り組みを継続した。

### 【和幸園】

- ・排便コントロールに取り組んでいるが、全体的に思うような結果が出ていない。計画・実施・アセスメントをしっかりと行い、改善していけるように今後も取り組んでいきたい。

(1) 一食平均食数

区 分		食数
グリーンハイム	入居	99
	短期入居	3
生活介護事業所グリーンハイム		15
和幸園	入居	117
	短期入居	16
和幸園デイサービス		30
計		280

(2) 食事形態

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
常 食	41	89	130
やわらか食	26	16	42
ゼリー食	6	11	17
胃 妻	3	1	4

(3) 特別食

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
糖 尿 病	13	19	32
脂 肪 制 限	7	1	8
心 臓 病	2	4	6
腎 臓 病	3	2	5
貧 血	0	0	0
低 残 渣 食	1	0	1
計	26	26	52

(4) 年間行事実績及びポイントメニュー

月	行 事	ポ イ ン ト メ ニ ュ ー
4	和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯 各地のご当地メニュー
5	子供の日(5日) 和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯、筑前煮、、さくら漬け、水ようかん ちらし寿司 各地のご当地メニュー
6	和幸園デイサービス誕生会 和幸園ジンギスカン・チャンチャン焼き グリーンハイム・和幸園 天ぷらバイキングの日	赤飯 ジンギスカン・チャンチャン焼き 天ぷら(えび・きす・なすび等)、うま煮、フルーツ、サラダ等
7	土用の丑の日 グリーンハイム焼き肉昼食会 和幸園デイサービス誕生会	うなぎちらし、すまし汁、 焼き肉 ちらし寿司
8	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム焼肉昼食会 グリーンハイムデイサービス焼き肉	赤飯 焼き鳥 焼き肉
9	敬老の日 グリーンハイムデイサービス焼き肉 和幸園デイサービス誕生会	赤飯、煮しめ、焼き魚、てんぷら、茶碗蒸し、なます、お吸い物 焼き肉 ちらし寿司
10	和幸園 秋の味覚祭 和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム蕎麦の日	さんまの炭火焼き、ジャガイモ、サツマイモ、かぼちゃ、豚汁 赤飯 手打ち蕎麦を楽しむ
11	グリーンハイム寿司の日 和幸園芋煮会 和幸園デイサービス誕生会	握り寿司(マグロ、サーモン、カレイ、ツナマヨ、とびっこ、エビ、ホタテ、イクラ、玉子、いなり) のっぺい汁、栗ごはん、鮭ときのこのホイル焼き ちらし寿司
12	グリーンハイム・和幸園クリスマス会 餅つき大会 大晦日(31日) 和幸園デイサービス鍋の日	オードブル・ケーキ等 納豆餅、お汁粉 年越しそば、黒豆等 寄せ鍋
1	元旦(1日) 三が日 七草(7日) 鏡開き グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園寿司の日 和幸園デイサービス誕生会	おせち料理 雑煮、お寿司等 七草(七草粥) お汁粉 寄せ鍋・すき焼き 握り寿司(マグロ、サーモン、エビ、イクラ、玉子、いなり等) ちらし寿司
2	節分 グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	太巻き、いなり 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
3	ひなまつり(3日) お彼岸 グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	ちらし寿司、すまし汁(アサリ、三つ葉)、炊き合わせ、イチゴ饅頭 手作りおはぎ 寄せ鍋・すき焼き ちらし寿司

## 5. 看護課

### 1. 事業報告総括

#### (1) 利用者視点

- ① ご利用者には、血圧測定や処置や体調変化時などの関わりの中で、声掛けやスキンシップに配慮した。また、ターミナル期のご家族とは担当者を明確にすることで信頼される関係の構築に努めた。
- ② 配置医師や協力医療機関とは、平日には連携が図れている。休日や夜間の受け入れは困難なため、予測性を持って早めに受診し、ご利用者の不利益にならない対応を今後も心掛けていく。隔週でのカテーテル交換の際に、医師に直接相談もできるので、協力病院（定山溪病院）とは、入院相談を含め連携はスムーズである。
- ③ ターミナルケアは年間で7名対応した。定期的な会議や評価等を他職種協働で取り組んだ。1事例ごとに大切に、個性をもって今後もすすめていきたい。
- ④ 虐待、事故防止、感染症、褥創委員会へ参加しリスク管理に努めた。看護師を中心に感染症の全体研修会を実施した。和幸園は同ユニットでの感染があり、研修内容が予防行動に十分生かされなかった印象がある。昨年に引き続き定山溪病院の感染管理認定看護師の指導を受けることができたため、今後の対策につなげていきたい。また、薬の事故に関しては、薬の変更時やショートステイご利用者のセットミスによる誤薬があり、その都度対策を立てマニュアルの見直しを行った。今後も事故防止に取り組んでいく。

#### (2) 財務視点

- ① 余剰在庫の無いように物品購入を行った。また、節電も習慣化している。
- ② 緊急のショートステイに対しても、ご利用者の安全に配慮し情報等が少ない中でも柔軟に対応した。

#### (3) 人材確保と育成

- ① 外部研修に7名参加したが、施設内研修の参加率は50%以下にとどまった。
- ② 5から7日間の連続休暇取得は、職員個々の希望により年間計画を作成し、スムーズに取得することができた。次年度も継続していく。
- ③ 各々が役割意識をもち、責任を持って業務ができている。今年度は感染症研修を開催することで、指導的役割の意識づけができた。

#### (4) 地域貢献

例年通り地域のゴミ拾いやお祭りの救護班として協力した。

#### (5) ガバナンス体勢の強化

組織の理念・方針をスタッフは理解するが、具体的行動は今後行動指針を参考にしていきたい。その他としてご利用者の健康診断やインフルエンザの予防接種を計画的に実施した。また、施設行事の際は業務として待機し、緊急時に備えた。

### 2. 医療業務実績

和幸園は、入居部門では尿カテーテル留置は減少し、胃瘻対象者が新規入居となった。処置人数・件数ともに増加したが、創傷処置は変化なく、浣腸の件数の増加によるものである。和幸園は、オリゴ糖やミルミ

ル等を推し進め、下剤を減らす取り組みを続けており、排便コントロールに注目しているため件数が増加したと思われる。

入院や他科受診の件数は前年度より減少している。1月に発熱者が多く入院が7名と集中したため、待機看護師の出動件数が多くなった。3月にインフルエンザの発生があったが、施設内での治療を受け重症化せずに済んだ。グリーンハイムは、入居部門は胃瘻栄養が2名から4名に増加した。今後も入居者の高齢化に伴い胃瘻者の増加が考えられる。看護師一人体制での受け入れ人数の限界はあり今後の課題である。感染症の拡大もなく、受診件数・入院件数は減少した。同じ方が入院を繰り返すようになっており、医療ニーズが高い方の療養型への移行も検討が必要である。

短期部門は和幸園、グリーンハイムとも増加しており、今後も安全に配慮して柔軟に対応していく。

和幸園 2016年度																
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年比
状態観察者	日勤	455	539	386	353	365	340	462	361	392	479	433	474	5,039	5,377	0.94
	短期	455	86	76	68	61	46	111	96	90	81	98	86	1,354		
(人)	夜勤	62	79	58	64	36	34	12	9	6	19	8	9	396	886	0.45
尿カテ管理者		3	3	3	3	1	0	0	0	1	1	1	2	18	47	0.40
胃瘻管理	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	
インシュリン(人)	入所	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	32	31	1.03
処置	人数	27	18	24	31	32	26	24	31	28	32	25	30	328	248	1.32
	件数	247	265	251	261	297	278	290	275	265	284	254	268	3,235	1,999	1.62
ターミナル		0	1	2	0	0	1	0	0	1	1	0	1	7	7	1.00
入院者		3	6	0	5	5	3	3	3	1	7	4	3	43	51	0.84
他機関受診		47	59	39	52	53	42	44	45	37	38	46	55	557	623	0.89
ショート利用		74	73	69	83	81	85	89	92	102	89	91	78	1,006	786	1.28
ときわ往診		23	25	23	24	23	25	25	25	25	25	24	24	291	304	0.96
やまはな皮膚科往診		0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	5	9	0.56
川沿皮膚科往診		164	188	164	160	227	167	162	175	187	163	168	162	2,087	2,090	1.00
南札幌脳神経往診		82	125	70	57	53	50	61	51	49	43	71	62	774	872	0.89
待機出動		2	3	2	5	1	2	2	2	4	8	4	3	38	30	1.27

グリーンハイム2016年度																
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年比
状態観察者	日勤	240	215	244	258	163	194	150	159	198	278	248	233	2,580	2,975	0.87
	夜勤	221	183	195	260	141	296	191	210	337	285	192	218	2,729	3,107	0.88
尿カテ管理者(人)	入所	11	11	10	10	8	8	9	9	10	10	10	11	117	114	1.03
胃瘻管理(人)	入所	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	4	32	24	1.33
インシュリン		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	2	
処置	人数	15	18	17	19	19	14	17	16	14	14	17	18	198	183	1.08
	件数	164	247	232	186	241	184	262	271	206	242	267	371	2,873	2,961	0.97
入院者		9	3	2	5	4	1	2	1	5	3	3	6	44	55	0.80
他機関受診		62	57	62	63	68	55	51	48	57	49	47	67	686	729	0.94
ショート利用		33	34	35	42	37	37	35	33	34	38	33	33	424	312	1.36
ときわ往診		21	22	22	22	22	22	21	23	22	23	24	24	268	238	1.13
やまはな皮膚科往診		15	13	36	32	36	34	22	13	20	15	21	12	269	360	0.75
川沿皮膚科往診		60	61	55	59	58	61	66	32	30	73	69	66	690	726	0.95
南札幌脳神経往診		45	33	60	37	41	29	28	36	41	23	40	26	439	542	0.81
夜勤者受診付添		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	

## 6. 機能訓練

### 1. グリーンハイム訓練

#### (1) 事業報告総括

##### ① 利用者視点

- ・個別評価を行い、リハビリテーション実施計画書を作成し、本人または家族のニーズに合わせて関節可動域訓練（ROM ex.）、筋力訓練、日常生活動作（ADL）、訓練や平行棒やトランスファー手すりなど機械器具を用いた自主訓練なども盛り込み実施した。
- ・車いすカンファレンスを定期的に行い、個々に合わせ快適にできるだけ長時間車いすに乗車し、有意義な時間を過ごせるよう支援した。
- ・ご利用者の生活状況などを把握した上で、継続可能な生活リハビリを助言・提案した。
- ・ご利用者個々にニーズに合わせて車いすを含めた補装具に関する助言・提案をした。
- ・ご利用者個々のニーズに合わせた福祉用具（ポジショニング枕・福祉靴・自助具など）に関する助言・提案をした。
- ・ご利用者の各種診断書類（医師意見書・補装具費申請書類など）理学療法評価部分の作成をした。
- ・個別訓練のみならず、集団訓練も継続して行ない、他ご利用者との関わりを持つ機会を提供し、社会性を保持するよう支援した。それぞれご利用者の特性を活かし、役割を持てるよう支援した（体操の先生・参加者人数数え等）。
- ・生活リハビリにつながる介助方法を介護職員と検討し、助言・提案を行った。
- ・ご利用者個々の状況に合わせた創作活動（ビニールステンドグラス作製・牛乳パック工芸など）を提案し、作品の作製を行い、訓練室や掲示板に掲示した。
- ・日常生活動作（移乗動作やトイレ動作など）の介助法や適切な動作などを実際場面でのデモンストレーションを交えて助言・提案を行った。
- ・転倒・転落事故などの検証や防止策検討も他職種協働で行った。

##### ② 財務視点

- ・コスト管理の徹底のため、在庫管理を定期的に行い、必要な物品購入を心がけた。また、発注先を複数検討しコスト削減を図った。
- ・節約意識を持ち、必要ない時には電気のスイッチを切るなどし、暖房も温度管理をこまめに行った。

##### ③ 人材確保と育成

- ・各グループ介護リーダーと連携し、新人研修などの内容を検討に協力した。
- ・通常の相談で、福祉用品や介護技術の再検討などを協力して行った。
- ・移乗方法の検討なども行い、ご利用者・介護者に負担が少ない方法や介護用品を提案した。

##### ④ 地域貢献の推進

- ・ホームページなどに訓練室の紹介などを載せた。
- ・理学療法士実習生の受け入れを行った。

##### ⑤ ガバナンス体制の強化

- ・リハビリテーション実施計画書作成や同意、その根拠となる日々の業務やご利用者の経過記録の整備を行った。

## (2) 参加者年間集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
運動療法	集団訓練	57	49	44	67	49	35	20	35	31	62	69	45	563
	個別訓練	99	84	106	89	96	68	97	93	79	107	95	113	1,126
参加総延べ人数		156	133	150	156	145	103	117	128	110	169	164	158	1,689
リハ日数		16	14	18	15	18	15	18	16	13	17	14	18	192
1回平均延べ人数		9.8	9.5	8.3	10.4	8.1	6.9	6.5	8.0	8.5	9.9	11.7	8.8	8.8

※リハ日数とは、ご利用者の直接訓練を行った日数とした。

※集団訓練は、本館ご利用者を対象に月2回ペースで4グループ順番に食堂を借りて車いす座位でできる運動を集団で行った。西館でも同様の運動を週1回ペースで食堂を借りて行っている。

## 2. 和幸園機能訓練

### (1) 事業報告総括

- ① 個別機能訓練計画書及び実施表の作成、実施状況確認、ファイルの記入など記録の整備を実施した。
- ② オムツゼロの推進による離床時間の拡大に伴い、車いすでの安全なシーティングの検討を行い、座や背クッションの調整と必要に応じて姿勢改善のためのクッションの検討を行った。必要に応じて業者ともシーティング調整を実施した。
- ③ 必要に応じて個別の対応を実施し、身体機能の向上につながる訓練を行った。
- ④ 褥瘡対策で臥床時のポジショニングを検討し、体交の参考として個別の資料を作成し介護員へ伝達した。
- ⑤ 摂食・嚥下困難者において、嚥下状態の確認や食事動作（スプーン）の検討、口腔マッサージの実施及び介護場面での口腔マッサージ資料の作成を行った。また、食事前に嚥下体操や発声練習を行いユニットの職員に伝達した。
- ⑥ 経口維持加算のための食事評価を実施した。
- ⑦ 車いす等の福祉用具の検討を実施した。車いすクッションや車いすの修理依頼や個別購入に対する物品の機能選択の実施をした。靴に関する相談に応じ、購入にあたって靴選択や注文・納品後の適合チェックを実施した。
- ⑧ トイレ介助方法の検討、トイレ介助の補助など実施した。
- ⑨ 移乗介助方法の指導、新人研修への参加、スライディングシートなどの福祉用具の使用法の指導を行った。
- ⑩ 集団でのレクリエーション、体操、ゲーム、カラオケ、DVD（映画や歌）鑑賞、麻雀クラブ（月1回）のど自慢大会や特技発表会、運動会などの行事を実施した。また、1条のショートステイユニットで月2回OTによる集団レクも実施した。
- ⑪ DVD貸し出しシステムを維持し、映像ソフトを増やした。
- ⑫ ご利用者の生活歴などを把握し、その方にあった余暇活動を提供した。また、季節に合った創作活動を実施した。（壁面かざりや粘土細工など）
- ⑬ 下肢装具のチェックアウト、修理を専門業者と共に評価・実施した。
- ⑭ 新人研修として、移動移乗の説明部分の担当を行い、新人職員の指導を実施した。
- ⑮ PTの学生の実習受け入れを実施した。

(2) 参加者年間集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別 訓練	入居	77	56	57	60	72	49	68	33	54	20	51	96	693
	内メドマー	0	0	0	0	6	1	1	2	1	1	1	8	21
	ショート	7	6	13	18	7	11	10	19	18	6	10	24	149
	1日平均人数	5.4	5.2	4.3	5	5.1	6.7	6.8	5	6.5	3.3	5.1	7.1	5.4
集団 訓練	入居	424	450	502	413	628	519	413	566	385	452	331	495	5,578
	ショート	109	111	108	74	90	88	69	90	79	80	81	90	1,069
	1回平均人数	53.3	51	50.8	54.1	59.8	46.7	60.2	65.6	58	53.2	51.5	58.5	55.2
リハ日数		15.5	12	16	15.5	15.5	9	11.5	10.5	11	8	12	17	163.5
参加延べ人数		617	623	680	565	797	667	560	654	536	558	473	705	7,435

※個別訓練：個別の対応を実施。基本的な身体機能維持のための関節可動域訓練、筋力維持向上訓練、

座位保持、座位や立位でのバランス訓練、歩行訓練、呼吸訓練、ADL訓練としては、移乗動作訓練、起居動作訓練、車いす駆動やトイレ動作訓練、歩行器歩行、摂食嚥下向上のための口腔マッサージ、認知機能維持のための脳トレ（パズル・マッチング・漢字・計算・歌など）

※集団訓練：各ユニットや多目的ホールにおいて、リハビリテーションの視点を考慮した体操、ゲーム、嚥下体操や発声練習、音楽歌唱など

※リハ日数は、PT・OT・訓練士（平成29年3月1日～）が個別訓練に従事した日数（会議・書類整理・レクは含まず）

## 7. 和幸園デイサービスセンター

### 1. 事業活動報告

地域内でも乱立気味の通所介護事業であるが、和幸園デイサービスセンターは、ご利用者の活動性と意欲の向上を目的に支援し結果を出すことで、「選ばれる事業所」を目指して運営を行っている。

平成28年度は、予算実績が平均ご利用者数31.5名に対し、平均ご利用者数は35.9名と非常に高い実績となった。比較的毎月安定した利用状況ではあったが、6月、12月などの季節の変わり目では体調不良やインフルエンザなどでお休みされる方が目立ち実績を下げることもあった。新規ご利用者に関しては、昨年度34名であったが、今年度は増加し、新規登録者は56名となった。

他法人居宅介護支援事業所からの依頼も昨年に引き続き6割を超えており、主な理由として運動や機能訓練を通して身体能力や意欲向上につながると評価されていること、長時間利用でのご家族の介護負担の軽減になっていること、認知症状改善塾の取り組みにより、認知症の周辺症状の強い方への支援も可能との評価などによるものと考えている。

これに対して廃止のご利用者数は58名と多くなっているが、長期にわたる入院や自宅療養、死亡、施設入居などが主な理由となっている。

昨年度より「自立支援」に力を入れて取り組みを開始した。職員への科学的介護の学習と理解の促しを行うとともに、ご利用者へもデイサービス時間に「元気はつらつ講座」で勉強会を開催した。それにより、水分・歩行などデイサービスで取り組んでいることの意味や根拠を理解して、活動に積極的に取り組んでいただけるよう意識した。

認知症状改善塾とデイサービスを合わせて利用いただいたご利用者は合計7名となり、ご家族と同じ方向で、認知症状改善・消失を目指し、取り組むことができた。また、以前からのレクや脳トレ活動にも、より意欲的に行えるようになっている。

担当者会議やケアマネジャーへの報告・連絡・相談を密にしながら、ケアプランに沿った介護計画書の作成やモニタリングの実施など書類の整備を行い、法令順守するとともに、その人らしい生活を目指した支援を実践した。

### 2. 事業運営状況

#### (1) 年齢別状況 (平成29年3月末 実人員数)

	～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	
									H28年度	H27年度
男	0	4	5	5	13	12	6	1	46	42
女	0	3	2	9	14	22	12	7	69	68
計	0	7	7	14	27	34	18	8	115	110

#### (2) 利用者登録状況

	29.3.31	28.4.1～29.3.31		28.3.31
	ご利用者	新規登録者	廃止者	ご利用者
男	54	25	21	50
女	79	31	37	85
計	133	56	58	135

## (3) 取消理由状況

	平成 28 年度	平成 27 年度
死亡	12	4
入居	11	3
入院	14	13
引越し	4	5
その他	17	5
計	58	30

## (4) 要介護状態区分状況 (平成 29 年 3 月末現在)

	要支援 1	要支援 2	介護度					計
			1	2	3	4	5	
H28 年	8	15	39	27	15	8	3	115
H27 年	9	12	40	25	17	6	1	110

## (5) 職員配置状況 (平成 29 年 3 月現在)

職 種	人 数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専 任	兼 務	専 任	兼 務	
管理者	1	0	1	0	0	施設長兼務
生活相談員	3	1	2	0	0	2 名介護職員兼務
介護職員	20	6	2	12	0	2 名相談員兼務
看護職員	3	0	0	0	3	3 名機能訓練指導員兼務
機能訓練指導員	4	1	0	0	3	3 名看護職員兼務
事務員	1	0	0	1	0	
計	32	8	5	13	6	

(6) 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均			
														H28	H27		
実人員	110	107	113	114	115	115	118	118	116	124	118	115	1,383				
実施日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310				
延べ利用人員	945	921	909	932	963	980	918	938	897	876	880	978	11,137				
1日平均利用数	36.3	35.4	34.9	35.8	35.6	37.6	35.3	36.0	34.5	36.5	36.6	36.2		35.9	34.5		
介護 状態 区分	要支援1	36	43	40	42	39	48	34	30	31	28	33	35	439			
	要支援2	92	88	95	93	93	92	83	104	107	107	93	112	1,159			
	要介護	1	370	357	337	388	379	365	347	352	314	304	321	346	4,180		
		2	194	191	197	201	234	225	215	212	227	230	230	243	2,599		
		3	158	152	179	143	159	168	165	157	144	132	130	147	1,834		
		4	77	74	46	51	44	68	61	70	50	53	50	64	708		
5		18	16	15	14	15	14	13	13	24	22	23	31	218			

(7) 行事及び活動実施状況

月	日程	行事及び活動内容	延べ参加人数
4月	4月18日～22日(5日間)	外出行事 =喫茶レク 定山溪ビューホテル=	86名
5月	5月5日～11日(6日間)	外出行事 =お花見 石山緑地=	105名
6月	6月13日～18日(6日間)	演芸週間(コーラス、手品、サクソ演奏、フラダンス、三味線・民謡、日本舞踊、職員二人羽織)	211名
7月	7月8日～14日(5日間)	外出行事 =大通公園=	83名
8月	8月8日～13日(6日間)	夏祭り	207名
9月	9月4日(1日間)	ハピニス祭	21名
	9月12日～16日(5日間)	敬老会	191名
10月	10月10日～15日(6日間)	秋の味覚パーティー	200名
11月	11月7日～11日(5日間)	外出行事 =外食会(和食レストランとんでん川沿店)=	81名
12月	12月19日～24日(6日間)	クリスマス会	217名
	12月27日(1日間)	もちつき	38名
1月	1月4日～10日(6日間)	宝引き	217名
	1月28日～2月3日(6日間)	節分	220名
2月	2月6日～10日(5日間)	外出行事=雪まつり見学(大通り、すすきの)=	87名
	2月25日～3月3日(6日間)	ひな祭り	233名
3月	3月20日～25日(6日間)	年度末ゲーム大会	209名

## 8. 生活介護支援事業所グリーンハイム

### 1. 事業実績の要約・課題

平成28年度は、異動により4月からサービス管理責任者が変わると同時に、昨年度末に2名のパート介護員が退職したため、事業所としては人員体制が厳しい状況でのスタートとなったが、職員の連携を強化して実績向上を目指し、既存行事の継続、職員育成を行い事業所の基盤をさらに固めていった1年であった。前任のサービス管理責任者からのスムーズな引継ぎ、正職員2名を中心としたサポートがあり、大きな事故が発生することなく、安定した運営をすることができた。

事業所の年間事業実績は、1日平均ご利用者数14.80名と前年度比でプラス0.22名（延べ45名増）の利用実績増となった。年間を通して新規ご利用者は2名、廃止者は1名と、登録人数は微増であったが、現ご利用者の利用回数増加を進めたこと、ショートステイご利用者の追加利用を積極的に受け入れたことが実績向上の要因であったと考える。さらには、職員が常に感染症予防を意識した運営を行った結果、昨年度に事業所内で蔓延したインフルエンザに代表される風邪等の休職者が少なかったことが大きな要因であった。今後も、送迎時にご家族とのコミュニケーションを大切にしてご利用者の体調管理を支援し、感染症予防を継続していきたい。

財務面では重度ご利用者の受け入れを進めた事で、障がい区分5・6割合が66%を超え「人員配置体制加算I」を取得し、安定した収益を得ることができた。次年度においても障がい区分5・6割合60%以上を確実に維持する為に、日々の実績管理を行っていくことが求められる。

地域との連携において、札幌市自立支援協議会南区地域子ども部会へ参加し、積極的に他事業所や養護学校の情報収集を行い、連携強化を図ることができたため、今後も継続していく。

個別支援計画についても、半年間毎の見直し、モニタリングを実践し、コンプライアンスに則した対応を継続していく。

人員の面では、職員一丸となって新規採用のパート介護員へ教育を行ったことで業務習得が早く進み、早期に現場で活躍する事ができた。今後も職員育成に取り組むと共に、春先に転勤や進学・入学等の家庭環境の変化によるパート介護員退職が予想されるため、早期に状況を把握し、ご利用者に不利益を与えないよう計画的にパート介護員の確保を行い、事業所の安定運営を図っていきたい。

来年度における大きな課題は、新規ご利用者の獲得が挙げられる。ご利用者の高齢化が進み、利用廃止になっていく可能性のあるご利用者が控えており、実績を維持していく為に対策が急務である。南区内にある相談支援事業所、養護学校、知的障がい施設等へのアプローチをひとつずつ丁寧に行っていききたい。特に相談支援事業所グリーンハイムとの連携強化を図り、新規ご利用者確保に努めていきたい。

### 2. 事業運営状況

#### (1) 職員配置

職名	現員数	備考
管理者	1	常勤兼務(正職員)
サービス管理責任者	1	常勤(正職員)
看護師 機能訓練指導員	2	非常勤職員
生活支援員(介護員)	15	正職員2名 非常勤職員13名
計	19	

(2) 職員研修実施状況

【施設外研修】

NO	研 修 名	開催日	参加人数
1	リスクマネジメント研修	28. 7. 7	1名
2	相談支援員研修①	28. 8. 18	1名
3	施設職員スキルアップ講座② 中堅職員編	28. 8. 31	1名
4	個別ケア実践向上研修	28. 9. 29	1名
5	管理者スキルアップ研修	28. 11. 1・2・3	1名
6	障がい者支援員養成研修	28. 2. 16・17	1名

(3) ボランティアの受入状況

有償ボランティア・・・1名 月～金曜日 11時30分から15時30分

有償運転ボランティア・・・1名 月・火・木・金曜日 朝・夕の送迎時間内のみ

(4) 実習生受け入れ状況

鹿光学習センター（介護職員初任者研修）3名 12月 1日実習

札幌社会福祉専門学校（介護実習） 1名 11月（5日間）

(5) ご利用者状況

① ご利用者登録状況

区分	29年3月31日	28年4月1日～29年3月31日		28年3月31日	備 考
	登 録 ご利用者	新 規 登 録 者	登 録 廃 止 者	登 録 ご利用者	
男性	18	0	1	19	
女性	27	2	0	25	
計	45	2	1	44	

② 登録廃止理由状況（平成29年3月末現在）

	男性	女性	計	平成27年度
死亡	1	0	1	0
長期入院	0	0	0	0
施設入居	0	0	0	3
地域移行	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
計	1	0	1	3

③ 年齢別状況（平成29年3月末現在）

区分	～20歳未満	20～30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60～70歳未満
男性	0	1	3	1	2	7
女性	0	3	6	4	4	4
計	0	4	9	5	6	11
区分	70歳～		計	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	4		18	21	81	57.50
女性	6		27	21	81	51.74
計	10		45			54.04

④ 疾患別・障害程度区分別状況（平成29年3月末現在）

	疾患別状況			障害程度区分別状況									
	男性	女性	計	2		3		4		5		6	
				男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
脳性麻痺	5	8	13	0	0	1	0	0	1	1	2	3	5
脳血管障害	5	5	10	0	0	2	1	1	2	0	1	2	1
心臓病	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部外傷	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
視覚障害	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
リウマチ	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
知的障害	3	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0
その他	3	10	13	3	1	0	2	1	1	0	0	0	5
計	18	27	45	3	1	4	5	3	4	1	3	8	13

⑤ 移動の状況（平成29年3月末現在）

	全介助	補助具使用で歩行可能	車椅子で移動可能(電動含む)	独歩可能(不安定者含む)	計
脳性麻痺	8	0	4	1	13
脳血管障害	1	0	7	2	10
心臓病	0	0	1	0	1
頭部外傷	0	0	1	0	1
視覚障害	1	0	0	1	2
リウマチ	0	0	1	1	2
知的障害	1	0	0	2	3
その他	4	1	6	2	13
計	15	1	20	9	45

⑥ ADL状況（平成29年3月末現在）

	食 事				更 衣			
	全介助	一部介助	自立	計	全介助	一部介助	自立	計
脳性麻痺	6	2	5	13	8	2	3	13
脳血管障害	1	4	5	10	3	2	5	10
心臓病	0	1	0	1	0	1	0	1
頭部外傷	0	1	0	1	1	0	0	1
視覚障害	1	1	0	2	1	1	0	2
リウマチ	0	1	1	2	1	0	1	2
知的障害	0	1	2	3	1	1	1	3
その他	4	1	8	13	6	1	6	13
計	12	12	21	45	21	8	16	45
	排 泄				入 浴			
	全介助	一部介助	自立	計	全介助	一部介助	自立	計
脳性麻痺	8	1	4	13	9	4	0	13
脳血管障害	1	3	6	10	3	6	1	10
心臓病	0	1	0	1	1	0	0	1
頭部外傷	0	1	0	1	1	0	0	1
視覚障害	1	1	0	2	2	0	0	2
リウマチ	0	1	1	2	0	0	2	2
知的障害	1	2	0	3	2	1	0	3
その他	5	1	7	13	5	6	2	13
計	16	11	18	45	23	17	5	45

⑦ 言語障害の状況（平成29年3月末現在）

	正 常	ほぼ聞き取れる	半分程度聞き取れる	時々聞き取れる	会話不能	計
脳性麻痺	3	3	2	2	3	13
脳血管障害	2	7	0	0	1	10
心臓病	0	1	0	0	0	1
頭部外傷	0	0	0	1	0	1
視覚障害	1	0	0	0	1	2
リウマチ	2	0	0	0	0	2
知的障害	0	0	1	1	1	3
その他	8	0	0	1	4	13
計	16	11	3	5	10	45

(6) 苦情処理状況 ( )は平成27年度分

	件 数	第三者機関依頼
職員との関係	0 (0)	0 (0)
運営等関係	1 (1)	0 (0)
計	1 (1)	0 (0)

(7) 事故発生状況 ( ) は平成27年度分

	件数	施設外受診対応
転倒	2 (1)	1 (0)
誤薬	1 (1)	0 (0)
介護事故	0 (2)	0 (1)
その他	0 (0)	0 (0)
計	3 (4)	1 (0)

(8) 活動内容・行事他

① 活動・行事内容

月	行事	創作活動
4月		折り紙製作教室 鯉のぼり製作
5月	園芸活動～花、野菜などの植物を育てよう 外出行事 (アリオ・札幌ビール園)	樹脂粘土製作 さくらの木飾り製作
6月	外出行事 (札幌駅周辺) 外出行事 (小樽・イオン発寒) 移動動物園 見学	和紙工作
7月	外出行事 (新千歳空港) 外出行事 (小樽・イオン発寒)	七夕飾り製作 和紙工作
8月	バーベキュー (中庭にて) 4回	折り紙製作教室 調理教室
9月	バーベキュー (中庭にて) 1回	ハロウィンリース作り
10月	焼き芋パーティー 5回	ハロウィンリース作り トレー作り
11月		クリスマス飾り製作
12月		クリスマス飾り製作 餅つき見学 正月飾り製作
1月	新春ビンゴゲーム大会 5回 鍋料理の日 (寄せ鍋) 2回	春の飾り作り 節分お面作り
2月	節分の豆まき 鍋料理の日 (寄せ鍋) 3回	和紙工作 ひな祭り飾り製作
3月		和紙工作 折り紙製作教室 トレー作り

② スポーツレク活動 (H28.4～H29.3 まで毎日午後に行っていた活動)

スカットボール、ボウリング、シャッフルゴルフ、ペットボトルボウリング、缶コロリングゲーム、シャッフルゲーム、ゲーゴルゴルフ、ゲーゴルゲーム、めくってポンゲーム、風船バレー、ペットボトルサッカー、物送りゲーム、豆まめリレー、アニマルゲーム、黒ひげゲーム、トランプ、外気浴、館内散歩

③ 個別活動：(H87.4～H29.3 まで行っていた活動)

ストレッチ、マーじゃん、将棋、オセロ、花札、カラオケ、塗り絵、和紙工作、数学勉強、DVD 試聴、編み物、歩行訓練 (廊下内)、日光浴、館内散歩

(9) 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
区分別延(利用者数) (下段は登録数)	登録者数	43	43	45	45	46	41	42	42	43	43	42	41	
	区分2	12	8	12	6	8	8	8	0	0	0	0	0	
		2	2	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0	
	区分3	63	60	52	51	56	53	52	57	48	54	57	60	
		11	11	11	11	12	8	9	10	10	10	10	9	
	区分4	52	51	64	54	59	57	57	58	55	55	49	61	
		6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
	区分5	46	45	38	36	39	31	40	44	40	41	43	50	
		4	4	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	
	区分6	173	163	204	192	210	186	195	193	178	185	186	202	
		20	20	22	22	22	22	21	21	22	22	21	21	
	開設日数	24	22	25	24	25	23	24	23	22	22	22	25	281
	延ご利用者数	346	327	370	339	372	335	352	352	321	335	335	373	4,157
	1日平均ご利用者数	14.42	14.86	14.80	14.13	14.88	14.57	14.67	15.30	14.59	15.23	15.23	14.92	14.80
区分5・6の割合 (%)	63.29	63.61	65.68	67.26	66.94	64.78	66.76	67.33	67.91	67.46	68.36	67.56	66.41	

9. 日中一時支援事業所グリーンハイム

(1) 登録者(定員3名)

男性 0名

女性 0名

(2) 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4時間未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4時間以上～8時間未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8時間以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 10. 相談支援事業所グリーンハイム

### 1. 基本方針

障がい種別、障がいの程度に関わらず、各々が望む当たり前の生活の実現のため、相談支援専門員としての知識、技術、ネットワークを活用し、フォーマル、インフォーマルな社会資源を繋ぎ合わせた相談支援を実践する。

### 2. 具体的な取り組み

#### (1) 相談支援従事者としての専門性の向上

- ① 札幌市自立支援協議会南区地域部会への参画
- ② 札幌市相談支援事業所研修会への参加
- ③ 法人内部及び外部研修への参加
- ④ 関係資格の取得

#### (2) 相談ケースの確保

- ① 相談支援事業所の役割の理解及び当事業所の認知度向上のために、関係機関の研修や会議等へ参加を通じた顔の見える関係作りの推進
- ② 相談ケースに対して、丁寧な対応を行い、札幌市委託障がい者相談支援事業所、医療機関、区役所、福祉事業所との連携体制の構築
- ③ 札幌市南区自立支援協議会役員として、南区内障がい関係事業所との連携体制の構築

#### (3) コンプライアンス体制の確立

定例会議、ミーティング等において、ケース・事例検討の実施や契約関係書類及び経過記録の確認を実施した。

#### (4) コスト管理の徹底

事業所の実績状況、収入状況については、毎月確認を行い、管理者並びに相談支援専門員ともに経営意識を高く持つことができている。現状としては、計画作成件数の増加に向けて取り組むことが急務なため、コストを意識しつつも、実績の向上、増収に向けて精力的に活動を展開している。また、相談ケースの増加に合わせて、業務効率化のために業務整理等を随時行っている。

### 3. 事業運営状況

#### (1) 職員の配置状況（平成29年3月31日現在）

職種	人数	資格	備考
管理者兼 相談支援専門員	1人	社会福祉士	
相談支援専門員	1人	社会福祉士・介護福祉士	—
計	2人	—	—

#### (2) 相談ケースの確保状況

##### ① 札幌市自立支援協議会南区地域部会（以下南区地域部会）

南区内障がい関係事業所及び行政で構成される南区地域部会において、管理者は事務局として参画し、福祉・医療・教育・就労・行政との信頼関係構築を図ることができ、南区地域部会役員の行政担当者、福祉事業者等からのケース紹介を得ることができた。

② 相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、医療機関等との関係構築について

今年度も新規ケースを断らず、丁寧な対応を心がけ、専門職としての信頼関係構築を行い、より幅広い事業所等から新規ケース紹介を得ることができた。

一方、セルフプランの増加、相談支援事業所の増加、南区委託相談支援事業所の体制の変化などがあり、新規相談ケースが昨年に比べ、減少している。

紹介経路	基本相談	計画相談	障害児計画相談	地域移行計画相談	計
法人内施設	1	0	0	0	1
法人内SRV	1	0	0	0	1
他相談支援事業所	0	63	0	0	63
医療機関	1	3	0	0	4
ご家族・本人	2	2	0	0	4
行政機関	0	1	0	0	1
その他	5	9	2	0	16
計	10	78	2	0	90

(3) 相談対応実績

① 新規相談ケース

	申請済み	未申請	計	前年度
4月	2	1	3	8
5月	1	0	1	4
6月	0	1	1	21
7月	2	1	3	7
8月	1	4	5	12
9月	1	2	3	8
10月	1	2	3	5
11月	9	1	10	1
12月	1	1	2	7
1月	21	1	22	9
2月	32	3	35	3
3月	2	0	2	13
計	73	17	90	98

② 新規相談ケース紹介経路

	法人内施設	法人内SRV	他相談支援	医療機関	ご家族	行政機関	その他	計	前年度
4月	0	1	0	1	0	0	1	3	8
5月	0	0	0	0	0	0	1	1	4
6月	0	0	1	0	0	0	0	1	21
7月	0	0	1	0	1	0	1	3	7
8月	0	0	3	1	0	0	1	5	12
9月	0	0	0	1	1	0	1	3	8
10月	0	0	1	1	0	0	1	3	5
11月	1	0	1	0	0	0	8	10	1
12月	0	0	0	1	0	0	1	2	7
1月	0	0	20	0	1	0	1	22	9
2月	0	0	33	0	1	0	1	35	3
3月	0	0	2	0	0	0	0	2	13
計	1	1	62	5	4	0	17	90	98

③ 新規相談ケース障がい福祉サービス事業所への紹介件数（法人内）

	生活介護	ホームヘルプ	短期入居	入居	高齢者サービス	その他	計	前年度
4月	0	0	0	0	0	0	0	1
5月	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	3
7月	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	1	0	0	0	0	1	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	1	0	0	0	0	1	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	1	0	0	0	0	1	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	3	0	0	0	0	3	4

④ 相談支援給付費対象相談件数（計画、継続支援、地域移行支援）

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	計	前年度
4月	2	13	10	9	11	9	8	62	40
5月	0	10	11	5	5	10	12	53	43
6月	0	11	15	6	6	5	10	53	45
7月	0	7	13	5	8	10	11	54	44
8月	0	9	8	4	9	5	8	43	46
9月	2	13	11	8	7	7	13	61	45
10月	0	8	6	8	6	8	13	49	47
11月	0	9	8	10	6	4	12	49	56
12月	0	8	18	10	15	8	11	70	60
1月	0	7	10	8	12	17	10	64	61
2月	1	8	11	5	9	10	5	49	42
3月	1	12	15	10	11	17	8	74	59
計	6	115	136	88	105	110	121	681	588

#### (4) 職員研修、相談支援技術の向上を図る取り組み

##### ① 定例会議、個人面談の実施

定期的に定例会議を開催し、その中で全てのケースに係るケース検討等を実施し、情報の共有、方針・方向性の確認を行った。また、職員育成、個人目標達成のため、相談支援専門員との個人面談を年2回実施した。

##### ② 外部研修への参加

札幌市及び基幹型相談支援事業所、自立支援協議会関係の研修会へ参加し、専門的な知識を身に付けると同時に関係機関との関係をより強いものにすることができた。法人内研修に参加させていただき、リスク管理について、再度振り返ることができた。

##### ③ 研修状況

###### <法人内研修・職員有志研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
h28. 7. 15	コミュニケーション研修	法人研修	相談支援専門員 1名
h28. 10. 7	感染症について	法人研修	相談支援専門員 2名
h28. 11. 8	障がいについて	法人研修	相談支援専門員 1名
h29. 2. 1	リスクマネジメントについて	法人研修	相談支援専門員 2名
h29. 3. 10	救急救命講習	法人研修	相談支援専門員 1名

###### <外部研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
h28. 5. 21	札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 実践報告	札幌市	相談支援専門員 1名
h28. 6. 17	札幌市児童発達支援研修会	ときわ病院	相談支援専門員 1名
h28. 8. 9	障害児教育夏季セミナー	北星学園大学	相談支援専門員 1名
h28. 9. 10	北海道で更生と再犯防止を考える会	札幌地方検察庁	相談支援専門員 1名
h28. 9. 21	札幌市児童発達支援研修会	ときわ発達支援センター	相談支援専門員 1名
h28. 10. 27	「人材育成」と「スキルアップ」研修	札幌市	相談支援専門員 2名
h28. 11. 14	地域生活定着支援事業推進会議	札幌市	相談支援専門員 1名
h29. 1. 11～13	現任研修	札幌市	相談支援専門員 1名
h29. 2. 16～17	障がい者支援員養成研修	札幌市	相談支援専門員 1名

## 1.1. 北海道ハピニス地域事業部

### 1. 地域事業部総括

社会福祉法人の地域貢献事業として前年から実施することができた「朝市バス」は「地域との共存・共栄・共生」を目指すものであり、徐々にご利用者数も増え意義のあるものとなっている。地域の中で不足するサービスを補うものとして、地域の高齢の方々や障がいをもたれている方々の外出機会の確保のための足として法人の資源を活用することができている。

また、例年、地域事業部の職員や法人の各部署の職員の協力により石山地区の福祉のまち推進センターの方々と一緒にやってきた「お茶の間懇談会」では地域の課題の一つでもある「認知症高齢者を在宅で支える」を題材にした寸劇「認知症の方々と付き合い方」を行った。今回の寸劇は職員有志による劇団「みんなのみどりちゃん」が行い、非常に好評を博していた。

地域事業部の各事業所は地道に地域に根ざした活動ができてきているが、平成28年度は、和幸園ホームヘルプサービス事業所のみ苦戦を強いられる結果となってしまった。法人内の居宅介護支援事業所のみならず他法人居宅介護支援事業所からの信頼も厚い事業所ではあったが、相次ぐヘルパーの体調不良や家庭の事情による退職、また重度のご利用者の相次ぐ施設入居などにより稼働数を上げることができず予算よりも減収となった。新年度の日常生活支援総合事業などヘルパーのありようが様々に変化する時代に突入し、状況に合わせた事業所作り着手しなければならない時期に来ている。

また、「のえるの森」では全期を通し稼働率が高く、ご家族の要望に合わせ急な利用に対処するとともに、認知症に特化したデイサービスとしての質の高いサービス内容が、認知症の家族会や他法人の居宅介護支援事業所などからも高い評価を得ている。

居宅介護支援事業所は、職員の状況も安定し、当初の計画よりも実績を増すことができた。

どんな依頼に対しても「断らない」方針を基本として、次年度もより地域に密着した各事業展開を図っていきたいと考える。

## 1.2. 和幸園指定居宅介護支援事業所

### 1. 事業活動報告

平成28年度の居宅介護支援事業所の目標件数は、給付管理数を要介護ご利用者数172件、要支援者数40件の計205件としており、結果は要介護者数178.66件、要支援者数32.66件の計211.32件となり目標を達成することができた。対前年との実績比は要介護が約7件増となり、予算比較・昨年度実績比較で約100万円の増収となった。黒字を出すことが難しいと言われている居宅介護支援では異例の実績であったと考える。職員体制としても、人事異動・管理者変更と目まぐるしい変更があったが、大きな混乱をきたすことなく事業所運営を行うことができたと考える。ただ、年度末にかけて、実績は下降気味であり、原因としては地域包括支援センターからの紹介件数の減少と年度末の廃止者の急増が挙げられる。来年度はこの課題に対する対策を図り、予算目標である要介護174件を達成したい。

### 2. 本年度の重点目標

#### (1) 安定したご利用者確保に向けた関係機関との連携強化

地域で少しでも長く生活できるようにご家族及び地域の方々、サービス事業所と連携しながら、ご利用者の選択に基づき適切な保健医療サービスが受けられるよう支援を継続した。

また、在宅生活に支障をきたす状況を施設で軽減し、再び在宅で生活していただくため法人本体施設との連携を今まで以上に密にし行ったことで、ご利用者が望まれる在宅生活の継続ができた。結果本体施設の実績も向上し、芸術の森デイサービス・和幸園デイサービス・和幸園短期入居も最高実績を達成することができた。

## (2) 自立生活支援の理念に沿ったケアプラン作成と運営基準の遵守

居宅サービスの運営基準を遵守し不備のない分かりやすい記録を目指し、取り組みを進めてきた。実績の向上に伴い業務多忙となった時期もあったが、スタッフ間で連携しケアマネジメント活用表も活用しながら不備のない分かりやすい記録作りを継続して行うことができた。

## 3. 法人の5つの視点に対する取り組み

### (1) 利用者視点

#### ① 質の高いケアマネジメントの実践

積極的に医療との連携を図り、疾病と生活障害との関連性について精査し、ご利用者の生活課題を解決するための取り組みを行った。

#### ② 緊急時における迅速な対応

特定事業所として、緊急時に即対応できるよう、各ケアマネジャーが連携し対応を行った。

#### ③ 中立性・公平性の確保

ご利用者の利益を最優先に活動を行い、独立かつ幅広い関係機関との関係を保ち、公平・中立なケアマネジメントを実践した。

#### ④ 高齢者の権利擁護のための必要な援助

高齢者虐待防止法の理解を深め、早期発見及び予防に努め、虐待の疑いがある場合も事業所として方針を決め札幌市・地域包括支援センターへ相談を行った。(平成28年度は3件対応)。

#### ⑤ 説明責任について

制度改正に伴う情報、ケアプランの内容をご利用者にとって適切な方法で分かりやすく説明した。

#### ⑥ 支援困難ケースの積極的受け入れ

認知症等の疾患が原因で、サービス利用に対して拒否的な方に対しては、サービス内容の理解が容易に進むよう、ご家族等より詳細に情報を収集し、関係事業所との綿密な打ち合わせのもと、対応することで、スムーズなサービス利用に繋がるよう支援した。

### (2) 財務の視点

#### ① サービス提供エリアにおける情報収集

常に経営分析を念頭に置きつつ、関係機関との連携の強化を図り、サービス提供エリアにおける新規参入事業所等、福祉サービスの動向を把握し、安定した事業所経営に努め、実績向上を達成した。

#### ② ケアマネジメント力の向上による在宅生活継続期間の延長

ケアマネジメント力の向上により、できるだけ住み慣れた在宅生活を長く継続できるよう、地域にある各種サービス事業所との連携強化に努めた。

### ③ 新規ケースの確保

新規ケースの確保では電話相談や訪問による相談に随時対応していたが、新規相談件数・新規ご利用者数は伸び悩み、減少している。

### ④ コスト管理の徹底

残業時間の縮小を目指し、管理職を除き縮小は行うことができた。その他の節減については自主的に行い、経費節減に心がけた。

## (3) 人材確保と育成

この一年間退職者なく、安定的な人員で事業所サービスを継続することができた。その要因としてはその都度の面談の実施や役職体制の再構築が考えられる。有給休暇取得率においては、個人差があり全員のアップができたとはいえない。育成面についてはケアプラン内容のレベルアップのため、会議で都度、個別ケースの検討や2表点検を定期的に行い実践したが、まだまだ足りていないのが実情である。

## (4) 地域貢献の推進

- ① 地域に密着した相談機関として地域の方々が入りやすく利用しやすい環境と体制を整えていたが、相談に来られる方は昨年より3件減少していた。(※28年度16件、27年度19件)
- ② 地域の行事に積極的に参加し、地域の方々との距離を縮めることに努めた。また「朝市バス」の添乗員にケアマネジャーも加わることで、より一層地域に根ざした事業所となることができている。

## (5) ガバナンス体制の強化

- ① 運営減算の発生防止として、コンプライアンス体制を構築し、定期的な内部監査等に取り組んでいる。
- ② プライバシーの尊重と秘密保持については、事業所内での検討を基に個人情報の安全な取り扱いをマニュアル化し見直しを定期的に行った。

## 4. 事業運営状況

### ① 職員の配置状況

平成29年3月31日

職 種	人 数	備 考
管理者・介護支援専門員	1人	地域事業部係長兼務
主任介護支援専門員	1人	総合施設次長 地域事業部部長兼務
居宅主任・主任介護支援専門員	1人	
主任介護支援専門員	3人	キャリア正職員3名
介護支援専門員	1人	キャリア正職員1名
計	7人	

② 従業者研修実績

日 程	研修名	参加者名
H28. 4. 28	事例検討会	檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本
H28. 5～12	リーダー研修 ※毎月一回 計8回実施	檜森、中野、木村
H28. 6. 10	居宅研修「美德」境界について	檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本
H28. 7. 9	「北海道CAPを読む会」CAP19心肺機能	中野
H28. 7. 14	居宅伝達研修「居宅介護支援業務の押さえどころ」	檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本
H28. 7. 15	法人内研修「良好な人間関係を築くコミュニケーション」	檜森、中野、木村、金澤、安藤
H28. 7. 29	居宅内研修「若年性認知症の人の家族の思い」	檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本
H28. 7. 30	高齢者のための糖尿病講座健康寿命を楽しむために	椿野
H28. 9. 1	ケアマネジメント能力向上研修	中野
H28. 9. 27	地域包括システム～医～じょうそうの予防と対策	檜森、中野、安藤、寺本
H28. 10. 7	法人内研修「感染症について」	檜森、中野、金澤、安藤
H28. 11. 2	若年性認知症従事者向け研修会	寺本
H28. 11. 3	「これからのケアマネージャの役割とは」	中野、木村、金澤、椿野、安藤
H28. 11. 8	法人内研修「障がいについて」当事者の声から	檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本
H28. 12. 3	在宅生活に結びつけるための病院と在宅医療との連携	檜森、木村
H28. 12. 7	法人内研修「若年性認知症について」	檜森、中野、木村、安藤、寺本
H28. 12. 13	精神疾患における医療と介護の連携	檜森、中野、椿野、安藤
H28. 12. 19	札幌市予防給付ケアマネジメント研修	中野、木村、椿野
H29. 2. 1	法人内研修「リスクマネジメントについて」	檜森、木村、椿野、安藤
H29. 2. 6	他職種研修・意見交換会	檜森、安藤
H29. 2. 15	精神疾患における医療と介護の連携2	椿野
H29. 2. 21	地域の介護支援専門員の支援について具体的に考える	金澤
H29. 3. 16	困難事例を抱える新任期のケアマネージャーへの支援について	木村、金澤、椿野、安藤
H29. 3. 17	難病を抱える患者と家族への支援～知っていますか？	金澤、椿野、安藤
H29. 3. 23	伝達研修、研修発表事例を振り返って	檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本

③ 平成28年度居宅介護支援事業所請求実績数（当月請求数のため暫定利用含まず）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未確定	計	要支援	総計
4月	77	57	36	7	8	1	186	38	224
5月	78	53	33	7	7	2	180	35	215
6月	76	50	34	7	6	2	175	36	211
7月	81	52	33	7	6	1	180	32	212
8月	80	56	31	8	8	0	183	33	216
9月	75	54	30	11	9	2	181	30	211
10月	78	56	32	10	10	0	186	33	219
11月	74	58	30	7	9	1	179	33	212
12月	70	59	29	8	9	1	176	32	208
1月	73	57	27	8	8	3	176	32	208
2月	69	54	27	10	8	5	173	31	204
3月	68	51	27	10	8	5	169	30	199
計	899	657	369	100	96	23	2,144	395	2,539

④ 平成28年度新規サービスご利用者紹介経緯

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
元ご利用者(再開)	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
病院	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	2	0	7
法人内紹介	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	1	5
ご利用者家族	1	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	6
第一包括	1	0	1	3	1	0	2	0	2	1	2	0	13
第二包括	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	4
第三包括	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
医師	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
来所、電話	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
他居宅	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
継続相談	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
職員紹介	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
保護課	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
他事業所紹介	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
住宅より紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	1	4	7	4	3	11	3	4	6	5	2	54

⑤ 平成28年度新規相談ケース経路

	来所	法人内	民生委員	事業所	継続相談	ご利用者関係	電話	地域包括	認定調査員	住宅	医師、病院MSW	合計
合計	16	9	6	5	1	4	39	19	1	1	13	114

⑥ 要介護者における事業種別居宅給付管理件数（法人内にある4事業のみ、要支援含まず）

種別	件数（左側全体利用件数 右側法人内利用件数）							
	平成28年度		平成27年度		平成26年度		平成25年度	
	全件数	法人内	全件数	法人内	全件数	法人内	全件数	法人内
訪問介護	869	624 (72%)	927	667 (72%)	1,001	724 (72%)	1035	733 (71%)
通所介護	875	634 (73%)	1,038	625 (60%)	928	639 (69%)	972	733 (75%)
認知症 通所介護	342	251 (73%)	343	254 (74%)	371	318 (86%)	375	352 (94%)
短期生活介護	336	276 (82%)	294	253 (86%)	250	218 (87%)	264	226 (86%)

### 1.3. 和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所

#### 1. 事業活動報告

平成28年度は、施設入居等による廃止で前年度後半からの収益低下が続き、新規の依頼も停滞していた。その要因として登録ヘルパーの身体的不調等の理由での退職者が多かったことが挙げられる。ホームヘルパーのスタートは主婦が空いている時間を利用し、家庭の主婦なら誰でもできる仕事として始まっていた。しかし、地域で暮らしたいと願うご利用者は近年重度の方が増え、専門的な技術・知識を求められることが多くなってきている。

また、社会的需要が高いはずのホームヘルプが辛く大変な仕事だと言う周りからの無理解が、日々活躍しているヘルパーの意欲の低下に繋がっているのではないかと考える。応募があっても家事の合間に空いている時間を利用し、子供が学校に行っている数時間だけ働きたいと希望するヘルパーが多く、ご利用者の希望時間と必ずしもマッチしない状況にある。また、担当ご利用者の急な入院などによる安定しない収入等も、離職者が増えた要因のひとつと考える。ホームヘルパーの一人ひとりの働き方の希望を尊重していくことも離職者減に必要であるとは考えるが、起床、就寝、土・日、祝祭日を支援するヘルパーの確保が難しくなっており、新規ケースを受ける事がなかなかできない状況にあったことも収益低下の要因であり、今後のホームヘルプ事業所の大きな課題であると考えている。働きやすい職場へと変化させ、ホームヘルパーが生き生きと働く姿をみせることで、ご利用者はもちろん、地域の方々も含め全ての人が笑顔で暮せるための架け橋になれるようにさらに前進していきたい。

今年度で4年目となるシニアリーダーは発足当初から1名もかけることなく8名が活躍し、緊急時の訪問も予定をキャンセルしてでも対応してくれることは事業所として力強い戦力であった。月に一度はホームヘルパー会議の前に集まり後輩たちに何を伝えようかと話し合い一人ひとりがリーダーシップを発揮し、チームをまとめてくれたことはチームケアを目指す一歩となったと考える。2年目となる広報委員もそれぞれが情報を持ち寄り、地域の方々に届くよう事務所出入り口前に掲示し、内容も前年度以上に充実していること

で事務所の前に立ち止まってくれる地域の方たちも増えている。私たちはこれからも在宅で暮らしたいと願うご利用者の気持ちに寄り添い、共に悩み、共に考え、共に笑い、時には共に悲しみ、その一瞬、一瞬を共にできる支援を続け、どんなに不自由な生活を送らなければならなくとも住み慣れた自宅で家族と共に暮らしたい、たくさんの思い出のある自宅で暮らしたいと願うご利用者に寄り添う支援を継続していきたいと考える。在宅での生活を一番身近で接している私たちがご利用者一人ひとりの明るい未来へ繋げられるよう、支援させて頂く私たちもうれしい時、辛い時、苦しい時を共有し合えるチーム作りを継続していきたい。そして、ホームヘルパーの役割りに誇りと自信を持てるホームヘルパーを育成していくことで、生きる力となる事業所を目指し、次年度に繋げていきたい。

## 2. 事業運営状況

### ① 職員の配置状況

	ヘルパー体制			
	常勤	非常勤	総数	
			平成28年度	平成27年度
平成28年 4月	5	36	41	41
5月	5	36	41	41
6月	5	35	40	43
7月	5	35	40	42
8月	5	35	40	42
9月	5	34	49	42
10月	5	36	41	43
11月	5	32	37	44
12月	5	32	37	43
平成29年 1月	5	31	36	43
2月	4	30	34	43
3月	4	29	33	43

### ② ヘルパー資格状況

資格名	人数	
	平成28年度	平成27年度
介護福祉士	21	24
実務者研修修了者	0	0
ホームヘルパー2級	13	31
ガイドヘルパー	20	20
臨床検査技師	1	1
社会福祉主事	1	1

③ 研修状況

<事業所内研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
H28. 4. 16	外出介助のポイント	事業所	ヘルパー34名
H28. 5. 21	ヘルパーの簡単調理	事業所	ヘルパー37名
H28. 6. 18	調理実習	事業所	ヘルパー33名
H28. 7. 16	ヘルパーの仕事とは (ヘルパー職に求められる職業倫理とその必要性)	事業所	ヘルパー30名
H28. 8. 20	ヒヤリハットの事例検討	事業所	ヘルパー31名
H28. 9. 17	転倒事故発生時の対応	事業所	ヘルパー30名
H28. 10. 22	排泄ケア①溢流性尿失禁	事業所	ヘルパー34名
H28. 11. 19	ケアカンファレンス	事業所	ヘルパー31名
H28. 12. 17	緊急時の対応	事業所	ヘルパー30名
H29. 1. 21	感染症及び食中毒の発生の予防及び蔓延の防止	事業所	ヘルパー31名
H29. 2. 18	認知症について	事業所	ヘルパー31名
H29. 3. 18	接遇	事業所	ヘルパー28名

<会議内グループワーク研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
H28. 4. 16	仕事と基本とのコンプライアンス	事業所	ヘルパー34名
H28. 5. 21	職員の義務	事業所	ヘルパー37名
H28. 6. 18	調理実習	事業所	ヘルパー33名
H28. 7. 16	介護技術があっても	事業所	ヘルパー30名
H28. 8. 20	ヒヤリ・ハットについてご利用者(家族)からの 要望・対応について	事業所	ヘルパー31名
H28. 9. 17	不適切なケア・自分勝手な介護	事業所	ヘルパー30名
H28. 10. 22	掃除について	事業所	ヘルパー34名
H28. 11. 19	老計第10号(訪問介護におけるサービスごとの区分等について)	事業所	ヘルパー31名
H28. 12. 17	衣類の新しい取扱い表示について	事業所	ヘルパー30名
H29. 1. 21	介護保険ではできない事	事業所	ヘルパー31名
H29. 2. 18	障害者差別解消法	事業所	ヘルパー31名
H29. 3. 18	ロコモ予防	事業所	ヘルパー28名

<事業所内研修>

研修名	開催日	研修主体	参加職種
車いすによる外出介助	H28 5/10(8名)、5/13(8名)、5/18(4名)、 5/19(4名)、5/23(6名)、5/26(3名)、 5/31(2名)、	事業所	ヘルパー26名
オムツ交換	6/24(8名)、7/11(4名)、7/15(3名)、 7/25(2名)、7/27(3名)、8/5(3名)、 8/12(2名)、	事業所	ヘルパー39名
清拭	10/7(4名)、10/11(4名)、10/13(3名)、 10/24(4名)、10/26(4名)、10/25(2名)、	事業所	ヘルパー38名
口腔ケア	12/14(4名)、12/16(4名)、12/19(4名)、 12/21(4名)、 H29, 1/23(3名)、3/12(2名)、 2/22(1名)、	事業所	ヘルパー32名
更衣介助	2/20(4名)、2/21(4名)、2/22(4名)、 3/6(2名)、3/7(2名)、3/9(1名)、 3/16(1名)、3/17(4名)	事業所	ヘルパー32名

<法人内研修・職員有志研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
H28. 4. 17	基本ケア概念	法人	ヘルパー 11名
H28. 7. 15	良好なコミュニケーション	法人	ヘルパー 10名
H28. 11. 25	安全運転研修	法人	ヘルパー 3名
H28. 12. 2・3	相互協力	法人	ヘルパー 3名
H28. 12. 7	完全運転研修	法人	ヘルパー 7名

<外部研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
H27. 3. 5	飲み込み・嚥下と安全な食事介助	札幌市	サ責2名

<レクリエーション>

開催日		
H27. 6. 21	藻岩山登山	ヘルプ 10名のえる1名ピニス1名子供2名犬1匹
H27. 10. 10	パン教室	10名

## 1.4. 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森

### 1. 事業活動報告

平成28年度の目標は、前年度の利用実績を維持するため、登録者数35名、一日平均ご利用者数9.5名を目標に取り組んできた。法人内居宅からの新規紹介が4名（前年度は8名）、法人外居宅からの新規紹介で2名ご利用して頂く事ができた。施設入居などによる廃止者は8名、28年3月31日現在の登録者数28名（年間平均は30.16名）、年間一日平均ご利用者数は10.86名（前年度9.71名）、2月にインフルエンザが蔓延し9.75名と低迷した時期もあったが、ショートステイ利用やキャンセル等で空きが出た時に振替利用・追加利用を提案し実績維持に努め、平均ご利用者数11名を超えた月が計6カ月に及んだ。曜日により人数の偏りが見られた時は、ご利用者・ご家族、ケアマネと相談し曜日変更して頂く事で平均的な利用状況や新規・追加利用に繋げる事ができた。広報紙は月1回定期的に発行しホームページにも掲載した。今後もショートステイ利用によるキャンセルや入院、施設入居等への迅速な対応、常に新規獲得できるよう法人内居宅に限らず、法人外居宅への定期的な情報発信を行ってきたい。

前年度同様に、通常のサービス提供時間にご利用頂く事ができない方へ送迎時間を変更する等、柔軟な対応をする事で利用に繋がったケースも多い。綿密な受け入れ態勢で、ご利用者、ご家族のニーズに合わせたサービスを提供してきた職員の力が生んだ結果と考えている。

職員の状況は新人職員の入れ替わりが続き、初めて派遣職員を受け入れた（2月よりパート職員として採用）。看護職員の退職もあったが10月から充足された状況となった。

今年度は3回家族会を開催し、4～13名の方が参加された。7月は簡単にできる料理を紹介し試食をしながら交流する会、10月は口腔ケアについて学ぶ会、2月は運営推進会議も兼ねて開催した。毎回当センターで活動されている様子をスライドショーでご覧頂き、最後には介護職員による弾き語りをお聴き頂いた。夏祭りは雨天の為初めて室内で開催する事となり、規模は縮小したが職員の臨機応変な対応でご参加頂いたご利用者ご家族から楽しかったというご意見を頂いた。クリスマス会は29名のご利用者ご家族に参加頂いたが、テーブルの配置などを工夫し限られたスペースの中でも皆さんで参加できる催しを行う事ができた。定期的に大道芸人による催しや、音楽療法を取り入れ普段とは一味違う脳リハビリ活動を行う事ができた。外出行事では地域のカフェでの昼食会を行った。今後も、地域との繋がりを深め、地域から必要とされる事業所を目指していきたい。

### 2. 事業運営状況

#### ① 職員配置状況

職 種	人 数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	主任生活相談員兼務
生活相談員	2	0	2	0	0	1名管理者兼務、1名介護職員兼務
介護職員	14	0	1	13	0	1名生活相談員兼務
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務
機能訓練指導員	3	0	0	0	3	看護職員兼務
事務員	1	0	0	1	0	
介護エイド	1	0	0	1	0	
計	25	0	4	15	6	再掲あり

② 職員研修実施状況

No.	開催日	研修名	開催地	参加職種
1	H28. 5. 12～ 8. 25 隔週	介護職員実務者研修	札幌市	介護職員
2	H28. 4～H29. 3 毎月1回	音楽療法研修	札幌市	介護職員
3	H28. 5～12 毎月1回	リーダー職以上研修	法人内	主任
4	H28. 4. 17	自立支援介護	法人内	職員全体
5	H28. 5. 10	ご利用者への接し方	事業所内	職員全体
6	H28. 6. 4	レクリエーションセミナー	札幌市	介護職員
7	H28. 7. 12	ご利用者への留意点	事業所内	職員全体
8	H28. 7. 25	良好な人間関係を築くコミュニケーションについて	法人内	職員全体
9	H28. 9. 13	レクリエーションについて	事業所内	職員全体
10	H28. 10. 7	感染症について	法人内	職員全体
11	H28. 11. 2	若年性認知症について	札幌市	介護職員
12	H28. 11. 5	プロの認知症ケア	札幌市	介護職員
13	H28. 11. 8	障がいについて	法人内	職員全体
14	H28. 11. 15	若年性認知症について・感染症について	事業所内	職員全体
15	H28. 11. 25	安全運転研修	法人内	職員全体
16	H28. 12. 7	若年性認知症について	法人内	職員全体
17	H28. 12. 19	個別機能訓練計画の作り方&評価	札幌市	看護職員
18	H29. 1. 10	接遇について	事業所内	職員全体
19	H29. 2. 1	リスクマネジメント	法人内	職員全体
20	H29. 3. 8	救急救命	法人内	職員全体
21	H29. 3. 14	のえるの森・認知症ケアについて	法人内	介護職員

③ ご利用者登録状況

	29. 3. 31	28. 4. 1～29. 3. 31		28. 3. 31
	登録者	新規者	廃止者	登録者
男	7	1	1	7
女	21	5	7	24
計	28	6	8	31

④ 年齢別状況

	55~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	計		平均年齢	
									H28	H27	H28	H27
男性	0	0	0	3	1	2	1	0	7	7	82.7	80.7
女性	0	0	0	1	7	6	3	4	21	24	87.2	85.9
計	0	0	0	4	8	8	4	4	28	31	84.9	83.3

⑤ 要介護状態区分状況

		介護度					計
		1	2	3	4	5	
男性		0	3	2	1	1	7
女性		6	6	7	0	2	21
計	H28	6	9	9	1	3	28
	H27	7	12	8	1	3	31

⑥ ADL状況

		自力可能			一部介助			全介助		
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行		5	10	15	2	11	13	0	0	0
排泄		5	12	17	1	8	9	1	1	2
食事		5	19	24	2	2	4	0	0	0
入浴		4	8	12	3	12	15	0	1	1
着脱衣		4	8	12	3	12	15	0	1	1

⑦ 認知状況

		記憶障害				失見当識			
		重度	中度	軽度	計	重度	中度	軽度	計
男性		2	4	1	7	2	3	2	7
女性		1	11	9	21	2	10	9	21
計		3	15	10	28	4	13	11	28

⑧ 認知症状類型

種類	計	
	平成28年	平成27年
アルツハイマー型認知症	15名	15名
レビー小体型認知症	3名	1名
脳血管性認知症	1名	1名
ピック病（前頭側頭型）	0名	0名
その他（混合型・不明）	9名	14名

⑨ 廃止理由状況

	男	女	計	
			H28	H27
死亡	0	1	1	0
長期欠席	0	0	0	2
入院・入居	0	4	4	11
その他	1	2	3	4
計	1	7	8	17

⑩ ご利用者世帯状況

		独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男	性	0	6	0	1	0	7
女	性	4	5	1	5	6	21
計	H28	4	11	1	6	6	28
	H27	4	10	2	5	10	31

⑪ 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均		
														H28年	H27年	
実人員	29	30	31	32	32	31	31	30	29	30	31	29	365			
実施日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310			
延べ利用人員	269	280	289	297	278	297	298	292	276	266	234	294	3,370			
1日平均利用数	10.34	10.76	11.11	11.42	10.29	11.42	11.46	11.23	10.61	11.08	9.75	10.88		10.86	9.71	
支援	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護度	1	46	44	48	52	57	56	56	54	56	51	43	46	609	1.96	1.34
	2	138	124	129	117	99	125	122	133	117	113	101	107	1,425	4.59	3.93
	3	52	61	61	74	73	73	73	77	80	84	76	100	884	2.85	3.63
	4	2	5	4	4	5	3	3	0	0	0	0	20	46	0.15	0.23
	5	31	46	47	50	44	40	44	28	23	18	14	21	406	1.31	0.58

⑫ 苦情受付件数

	件数	
	平成28年度	平成27年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	1	0
その他	1	1
計	2	1

⑬ 事故報告件数

	件 数	
	H28 年度	H27 年度
転 倒	1	0
介護上の事故	2	0
異 食	0	2
そ の 他	2	5
ヒヤリハット	1	2
計	6	9

⑭ 行事及び活動実施状況

月	行 事
4 月	音楽レク・大道芸
5 月	お花見ドライブ
	のえる森誕生会～祝9歳～
	苗植え
	端午の節句
	音楽療法・大道芸
6 月	避難訓練
	音楽療法・大道芸
	お花見ドライブ
7 月	外出会
	家族会
	音楽療法
	お花見ドライブ
8 月	運営推進会議
	音楽療法
	夏祭り
	お花見ドライブ
9 月	お花見ドライブ
	敬老会
	家族会
	音楽療法・大道芸

月	行 事
10 月	紅葉狩り
	音楽療法・大道芸
	円山動物園見学会
11 月	家族会
	紅葉狩り
	避難訓練
	お茶の間懇談会
12 月	音楽療法・大道芸
	クリスマス会
1 月	音楽療法・大道芸
	初詣
	外食会
2 月	節分
	家族会
	雪まつり見学
	音楽療法
3 月	運営推進会議
	ひな祭り
	音楽療法・大道芸

⑮ 有償ボランティア受入状況

人 数	回 数	活動内容	活動開始年月
1 名	週 4 回	屋内外の整備等	平成 22 年 4 月

⑯ 地域貢献活動（福祉教育）

職業体験・実習生受入状況

・平成28年11月18日 10:00～15:00

藤野中学校職業体験 2名

## 15. 介護予防センター石山・芸術の森

### 1. 事業活動報告

平成28年度は、主催事業である介護予防教室について、担当職員の配置換えに伴う不慣れから、参加者に戸惑いを与えることもあったが、実施回数を重ねることで参加者とのコミュニケーションも図ることができ、スムーズになっていった。介護予防教室も地域に定着し、地域の社会資源の一つとして認知され、地域住民に一定の評価をいただけていると考えている。また、介護予防教室の安全な実施のため、人員配置においてボランティアや法人職員からの協力を得ながら事業を進めることができ、協力体制の定着化を図る事ができた。

認知症予防教室として実施している「森の寺子屋」については、昨年度に引き続き、地域包括支援センターと共催で脳トレや体操、レクリエーション等を概ね月2回実施しており、参加者から好評を頂いている。

法人内の事業所等との連携については、石山地区において平成25年度より開催している「石山お茶の閑懇談会」を石山地区福祉のまち推進センターと共同で開催をした。今年度は、「地区地域ケア会議」のフォローアップ研修の一環として、認知症をテーマとした寸劇による「認知症高齢者との付き合い方」の公演を実施、グループごとの意見交換、交流を行い、地域の方々と北海道ハピニスの交流の機会となったと考えている。次年度以降も着実に継続していけるように、開催方法等を検討しながら進めていきたい。

地域との関わりについて、芸術の森地区では主に地区社会福祉協議会・地区福祉のまち推進センターと連携し「もりの仲間のさわやかクラブ」を実施、体力測定や生活機能チェック等を行い、介護予防の普及・啓発に繋げた。その他、単位町内会の福祉推進委員会、老人クラブ等との交流も継続して実施している。また、平成28年10月、11月に実施した芸術の森地区福祉のまち運営委員会主催の「福祉のまち推進委員研修会」では、区保健福祉課・第一地域包括支援センター・介護予防センターの3機関による、地域での役割について発表し、各地域関係者へ地域での役割について理解を得る機会となった。石山地区では、昨年度から引き続き、地区まちづくり協議会福祉部会の副部長をさせていただいていることで、様々な組織・団体、地域住民と連携を図りながら、介護予防のみならず「まちづくり」という視点でも関わり事業を進めることができた。さらに、まちづくり協議会福祉部会を中心に、福祉のまち推進センター、民生委員児童委員協議会、南区保健福祉課、南区第一地域包括支援センター、南区社会福祉協議会等の関係団体も含め、日々の目配り活動について現状や課題、関係機関と連携できることは何か等をテーマとしたワークショップを実施し、活発な意見交換・情報共有の場となった。

全体を通し、地域の皆様や関係機関の皆様のご理解、ご協力のもとに、介護予防センター事業が展開できたことに感謝し、今後もより一層の関係構築、事業連携を目指していきたい。

### 2. 事業運営状況

#### (1) 職員の配置状況

職 種	人 数	備 考
センター長	1名	兼任、常勤
ケースワーカー	1名	専任、常勤

## (2) 年間重点目標について

- ① 担当地域において、介護予防センターの存在・役割、特に相談機関であることの周知を図っていく  
 介護予防センターや法人各事業のチラシを、介護予防教室・介護イベント等で配布した。さらに関係機関・団体等との関わりの中で介護予防センターの役割の周知を図り、実績として介護保険に関連する相談が一番多かった。次年度も引き続き周知活動を継続し、介護予防センターについての理解促進に努めていきたい。
- ② 事業参加者、地域関係者、関係機関等との関係形成に努める  
 各事業において、地域関係者、関係機関と連携を図りながら事業を実施し、事業参加者においても積極的なコミュニケーションを取り関係形成に努めた。引き続き、中・長期的な視点で信頼関係を形成し、地域活動の基盤を築いていきたい。
- ③ 転倒予防教室実施について  
 介護予防教室の自主運営化の支援として、現在行っている介護予防教室の地域住民による積極的な教室運営の実施のための支援を行う。また、空白地域での自主運営での教室立ち上げ・支援を行うことを目的に、今後は、地域での介護予防の普及・啓発事業について、広く地域との関わりを持ちつつ必要に応じた支援により継続した運営と空白地域の活動支援を実施したい。
- ④ 関係機関、法人内部とも連携しながら事業を進める  
 主に南区保健福祉部、南区第一地域包括支援センターと連携を図りながら事業を進めることができた。事業内容に応じ南区社会福祉協議会や札幌南老人福祉センター等とも連携を図った。法人内部については、法人統括事業推進課、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム和幸園等と連携により各種事業を実施し、地域貢献や法人認知度向上に努めた。
- ⑤ 地域住民の介護予防に対する理解促進に努める  
 介護予防センター主催事業並びに、地域組織・団体等との連携の中で、介護予防の必要性や取り組みについて実技や講話、会議等を行った。

### 【地域介護予防活動の支援状況】

機関・団体名	内容	回数
石山地区まちづくり協議会	総会・役員会出席	4回
	福祉部会会議出席	12回
	福祉部会「お楽しみゲーム大会」共催	1回
	福祉部会「生き活き健康教室」共催	1回
	福祉部会「高齢者目配り活動意見交換会（地域ケア会議）」共催	1回
	福祉部会「石山地域学習会」共催	1回
石山福祉のまち推進センター	運営委員会参加（オブザーバー）	12回
	福祉推進委員研修会共催	1回
	福まちふれあいの集い共催	1回
	お楽しみゲーム大会共催	1回
石山民生児童委員協議会	介護予防事業連携協力依頼	2回
石山コミュニティサロン「駅」実行委員会	介護予防教室実施協力	11回
青樹町内会	介護予防教室実施協力	9回
七宝会（老人クラブ）	ふまねっと実施協力	2回

機関・団体名	内 容	回 数
芸術の森地区社会福祉協議会	もりの仲間のさわやかクラブ共催（南老人福祉センター）	1回
	関係者打合せ・振り返り	4回
	地区地域ケア会議	1回
芸術の森福祉のまち推進センター	推進委員研修会	2回
サンブライト真駒内町内会	ふれあい交流会（レクリエーション等）	1回
滝野町内会	健康体操・体力測定会実施協力	11回
プラチナクラブ（老人クラブ）	介護予防教室	2回
常盤団地町内会 （常盤団地福祉推進委員会）	スマイルクラブ（体力測定・生活機能チェックリスト等） ゲーム	2回

⑥ 地域関係団体との連携を図り、地域での相談支援や事業実施を進める

相談については、昨年度同様に他相談機関、或いは居宅介護支援事業所等に流れることが多く、介護予防センターへの相談件数自体は決して多くないが、地域の方等から直接相談を受けるケースもある。相談内容は介護予防に関する問い合わせや相談が主だが、介護保険制度に関する問合せや相談もあり、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへつなぐケースもあった。地域での相談支援は日頃からの関係形成が重要と捉え、次年度も良好な関係を構築していきたい。

⑦ 介護予防事業に関する知識・技術の向上に努め、事業実施に繋げる

法人内外の研修に参加し、担当地域での事業実施に結びつくものや、活動の参考となるアイデアを得ることができ、実際に事業等で実施した。

<研修参加状況>

No.	開催日	研修名	備 考
1	H28. 6. 20	地区福祉のまち推進センター活動者会議	
2	H28. 9. 14	地域福祉市民活動フォーラム	
3	H28. 11. 30	認知症サポーター養成講座	
4	H28. 7～ H29. 3	法人内研修（6回）	

(3) 法人の5つの視点に対する取り組み（該当項目のみ）

① 利用者視点

年間重点目標②で挙げたように、地域関係者をはじめとした地域住民と、積極的な意見交換、コミュニケーションをとり、関係形成、情報収集に努めた。⑥で挙げたように、相談件数は決して多くは無いが、地域の方から直接相談を受けるケースもあり、地域住民と良好な関係を構築できていると考えられる。

② 財務視点

予防センターの運営に必要な物を見極め、無駄を省き経費削減に努めた。

③ 地域貢献の推進

担当地域での行事や町内会・老人クラブ等の集まりや、転倒予防教室等事業にて、講演や介護予防教室等を実施し介護予防の普及・啓発に努めた。また、随時、介護予防センターの存在、役割、さらには相談機関であることを周知した。

法人内部、石山地区福祉のまち推進センターと連携し開催した、「石山お茶の間懇談会」を今年度も開催することができ、地域との連携強化につながったと感じる。

④ ガバナンス体制の強化

区連絡会議や地区連絡会議をはじめ、必要に応じて、区・地域包括支援センター等関係機関と情報交換を行い、目的の共有、人的・技術的な連携を取ることができた。また、実施事業の活動実績等報告書類や、予防センター運営に関わる書類等の提出期日を守り、安定した運営を行うことができた。

(3) 事業実績

① 相談事業

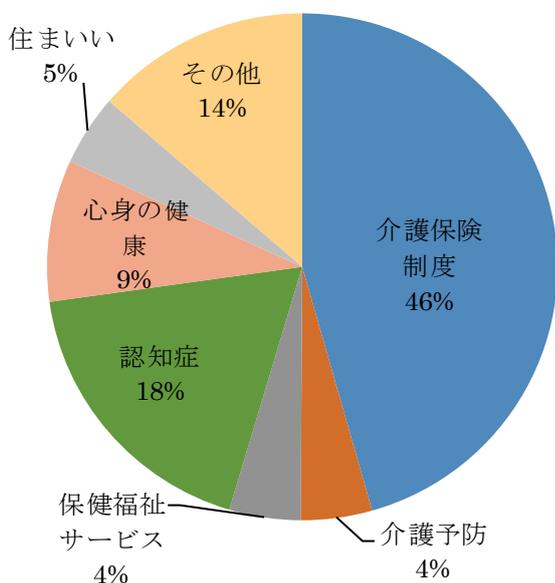
<相談経路>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													28年度	27年度
電話	1件	1件	1件	2件	1件	1件	4件	2件	-	-	1件	1件	15件	9件
訪問	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0件	4件
面接	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4件	-	-	4件	2件
計	1件	1件	1件	2件	1件	1件	4件	2件	-	4件	1件	1件	19件	15件

※「面接」は、「来所」「事業実施時」「その他」を包含する。

<相談種別・割合>

平成28年度相談件数割合



相談内容内訳	件数		H28年度割合
	H28年度	H27年度	
介護保険制度	10件	7件	45.4%
介護予防	1件	2件	4.6%
保健福祉サービス	1件	4件	4.6%
権利擁護	0件	0件	0%
消費者被害に関する事	0件	0件	0%
認知症に関する事	4件	0件	18.1%
高齢者虐待に関する事	0件	0件	0%
心身の健康に関する事	2件	0件	9.1%
住まいに関する事	1件	2件	4.6%
その他	3件	1件	13.6%
計	22件	16件	

(重複あり)

② 介護予防普及・啓発事業

<転倒予防教室予防教室の開催>

石山地区のうち石山会館は月2回、年24回、アクロスプラザ集会所は、毎週1回、年52回の教室を実施した。石山会館は、登録者は昨年とほぼ変わりなく、参加者の延べ人数、平均人数共に大きくは変わ

らなかった。アクロスプラザについては、登録者、延べ人数、平均人数全てが前年度とほぼ変わらなかった。芸術の森地区は芸術の森会館で月2回、年24回の教室を実施した。こちらについては登録者は減少、参加者延べ人数、平均人数共に昨年より減少となった。

ア) 参加登録者状況

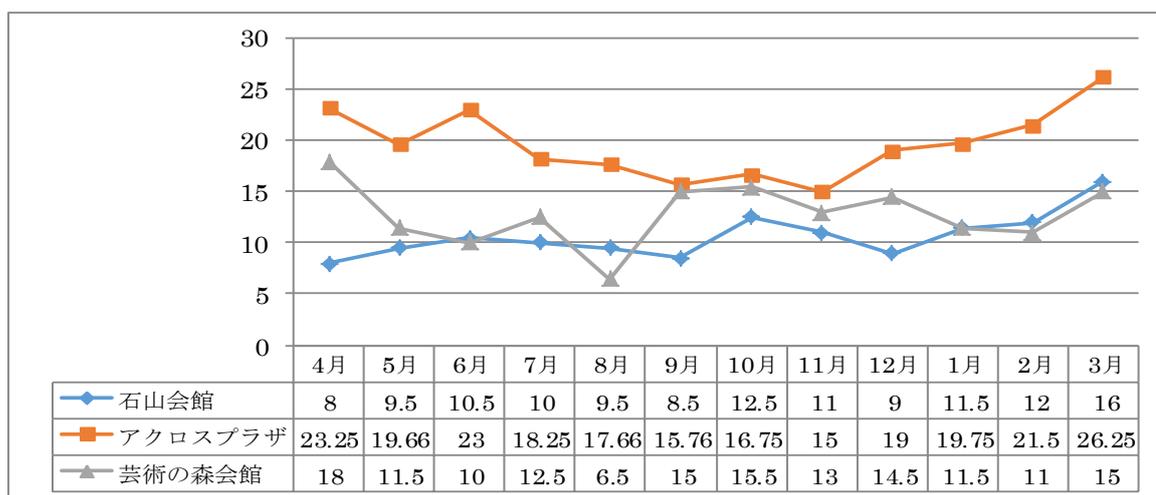
実施会場	登録者		28年度伸び率
	H29. 3. 31	H28. 3. 31	
石山会館	24名	16名	150.0%
アクロスプラザ	46名	42名	109.5%
芸術の森会館	26名	30名	86.7%
計	96名	88名	109.1%

※登録者は当年度において1回以上教室に参加された方。

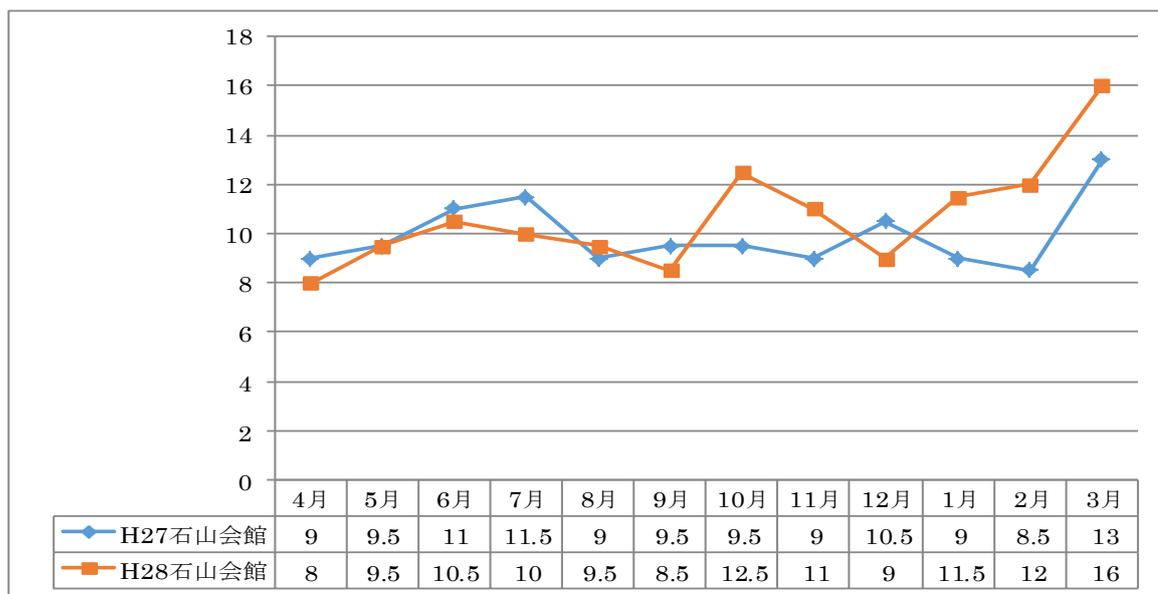
イ) 参加実施状況

実施会場	実施回数		参加者延べ人数		参加平均人数	
	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度
石山会館	24回	23回	247名	227名	10.29名	9.87名
アクロスプラザ	52回	48回	972名	973名	18.69名	20.27名
芸術の森会館	24回	24回	308名	425名	12.83名	17.71名
計	100回	95回	1,527名	1,625名	15.27名	17.1名

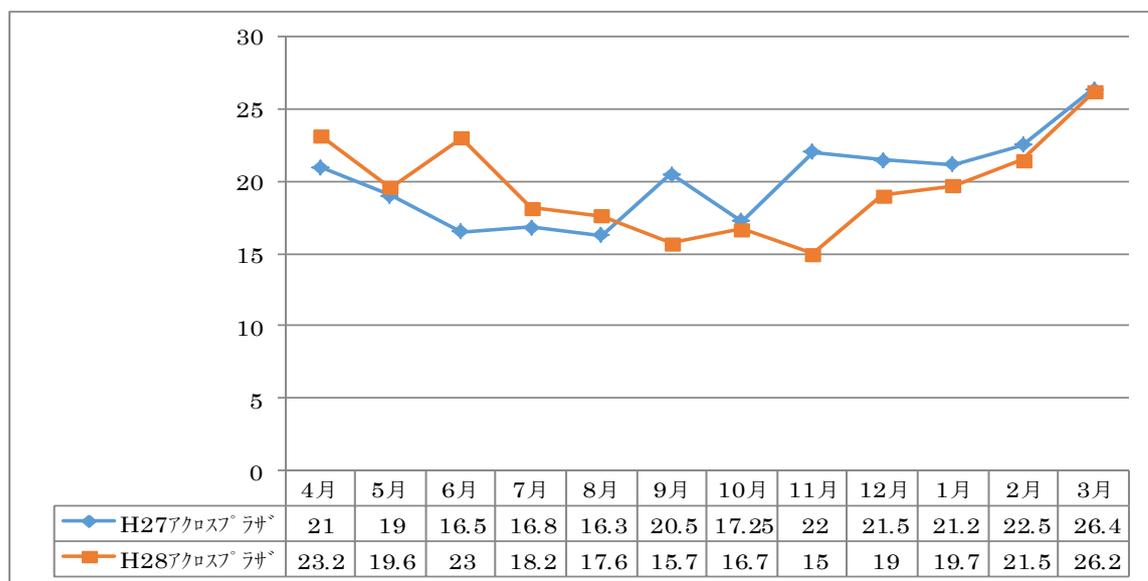
ウ) 平成28年度転倒予防教室月別平均参加者推移



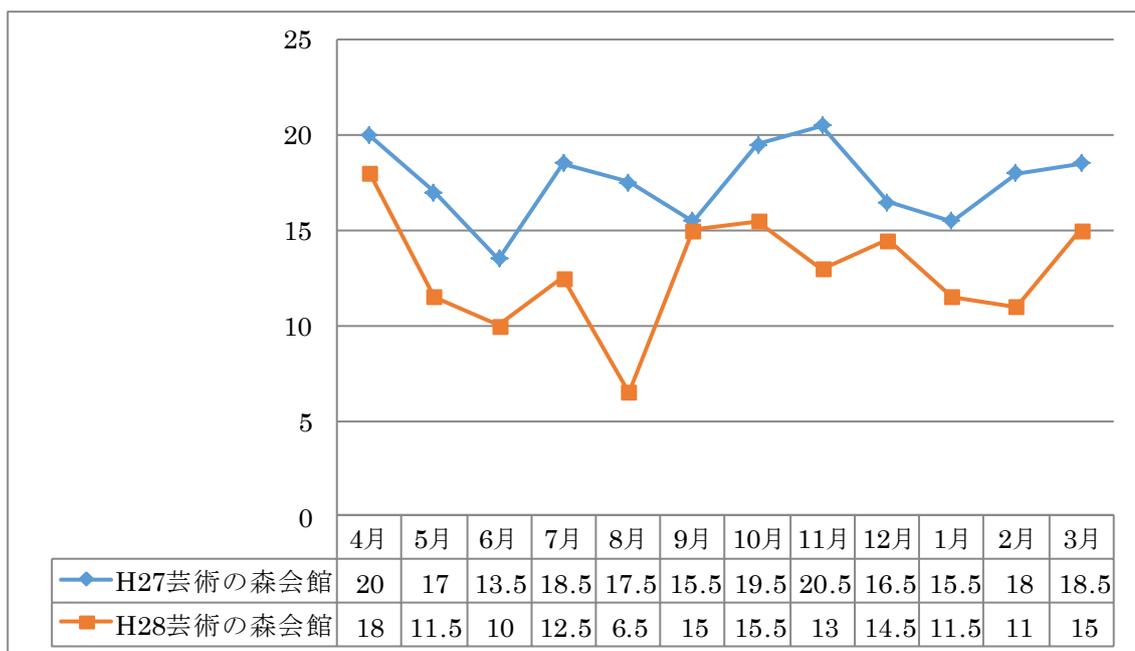
エ) 平成28年度転倒予防教室（石山会館）参加者月別平均推移（平成27年度同月比）



オ) 平成28年度転倒予防教室（アクロスプラザ）参加者月別平均推移（平成27年度同月比）



カ) 平成28年度転倒予防教室（芸術の森会館）参加者月別推移（平成27年度同月比）



<認知症予防教室（森の寺子屋）の開催>

地域包括支援センターとの共催事業で、認知症予防に関するテーマでの脳トレや体操、レクリエーション等を実施。平成28年度は、第1水曜日を担当の日とし、月1回、年11回実施した。参加者からも好評を頂いている。次年度は、地域包括支援センターの協力が得られなくなり、今まで通り第1水曜日は、予防センターが担当し、第3水曜日は自主活動で継続することとなる。

なお、将来的には完全自主化を目指した支援とその後のフォローアップとして継続運営できるような支援を行う。

実施会場	実施回数		参加者延べ人数		参加平均人数	
	H28年度	H27年度	H28年度	H27年度	H28年度	H27年度
南老人福祉センター	11回	34回	108名	537名	9.82名	15.79名

